

環境動態を視点とした地域社会と 集落形成に関する総合的研究

平成24年度～平成28年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研 究 成 果 報 告 書 概 要

平成29年5月

学校法人名／学校法人東北芸術工科大学

大 学 名／東北芸術工科大学

研究組織名／東北文化研究センター

研究代表者／田口洋美

（東北芸術工科大学 芸術学部・東北文化研究センター 教授）

本編

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

平成24年度～平成28年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

- 1 学校法人名 学校法人東北芸術工科大学 2 大学名 東北芸術工科大学
- 3 研究組織名 東北文化研究センター
- 4 プロジェクト所在地 〒990-9530 山形市上桜田 3-4-5
- 5 研究プロジェクト名 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
田口洋美	芸術学部／東北文化研究センター	教授／所長

8 プロジェクト参加研究者数 24 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
田口洋美	芸術学部・教授／東北文化研究センター・所長	東アジアの環境動態と社会変容に関する研究	全体総括（民俗・人類班の総括も兼ねる）
安斎正人	東北文化研究センター・共同研究員	旧石器・縄文時代における構造変動に関する考古学的研究	考古班の調査研究
竹原万雄	芸術学部・講師／東北文化研究センター・研究員	東北地方を中心とした災害と集落変遷に関する歴史学的研究	歴史班の総括
謝黎	芸術学部・准教授／東北文化研究センター・研究員	東アジアにおける人々の移住と文化変容に関する人類学的研究	民俗・人類班の調査研究
蛭原一平	東北文化研究センター・研究員	東アジアにおける自然資源の利用と管理に関する研究	民俗・人類班の調査研究
北野博司	芸術学部・教授	東アジアにおける古代中世の物質文化研究	考古班の調査研究
三浦秀一	デザイン工学部・教授	東北地方の集落における森林資源のエネルギー利用に関する研究	環境デザイン班の総括
佐藤宏之	東京大学大学院・教授	東アジアにおける民俗考古学	考古班の調査研究
川島秀一	東北大学災害科学国際研究所・教授	三陸における漁業集落研究	民俗・人類班の調査研究
佐々木史郎	国立民族学博物館・部長	東アジア北方地域の少数民族研究	民俗・人類班の調査研究
森本孝	あるくみるきく研究所・代表	環境動態と漁業に関する研究	民俗・人類班の調査研究

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

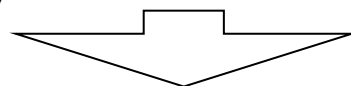
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
高橋美貴	東京農工大学大学院・准教授	東北地方を中心とした自然資源の利用と管理に関する歴史学的研究	歴史班の調査研究
菊池勇夫	宮城学院女子大学・教授	東北近世における飢饉と集落変遷に関する歴史的研究	歴史班の調査研究
(共同研究機関等)	該当なし。		

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東北地方における生業論的研究	東北文化研究センター・講師	岸本誠司	民俗・人類班の調査研究
生態系史(環境動態)研究	東京大学大学院・教授	辻誠一郎	考古班の調査研究

(変更の時期:平成25年4月1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院・院長／東北文化研究センター・所長	一関博物館・館長	入間田宣夫	歴史班の調査研究
芸術学部・講師／東北文化研究センター・研究員	九州大学人文科学研究院・助教	福田正宏	考古班の調査研究
東北文化研究センター・研究員	富山大学人間発達科学部・准教授	中村只吾	歴史班の調査研究
東京大学総合研究博物館・特任研究員	芸術学部・講師／東北文化研究センター・研究員	長井謙治	考古班の総括
山形県埋蔵文化財センター	山形県埋蔵文化財センター・主任調査研究員	小林圭一	考古班の調査研究
東北大学史料館・協力研究員	東北文化研究センター・共同研究員	佐藤健治	歴史班の調査研究
東北歴史博物館	東北歴史博物館・主任研究員	村上一馬	歴史班の調査研究
民俗建築研究所・代表	民俗建築研究所・代表	鈴木清	民俗・人類班の調査研究
大阪大学・准教授	大阪大学・准教授	思沁夫	民俗・人類班の調査研究
首都大学東京大学院・博士後期課程	首都大学東京大学院・博士後期課程	阿部朋恒	民俗・人類班の調査研究
富山大学・准教授	富山大学・准教授	高橋満彦	法学研究

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究の目的は、考古学、歴史学、民俗・人類学と法学あるいは工学系環境デザインといった学問分野の協働研究体制のもと「1 万年という長期的タイムスパン、その歴史社会的コンテクストの上に 21 世紀型集住の再生、創出理念の構築を図る」ことにあった。本研究センターは、過去 2 期 10 年間にわたり、オープン・リサーチ・センター整備事業「東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究」と「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」を実施してきた。これらの

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

プロジェクトでは日本文化の東アジア地域における地位を追究し、後者では、考古学、歴史学、民俗・人類学という三学協働体制のもと、環境・生業・技術といった具体に着目し、東北地方を中心に人々の環境への社会文化的適応プロセスの把握に努めた。今回のプロジェクトはこれらの成果をふまえ、「集落」として人が集い暮らすことの意味と機能をより鮮明に捉え、過疎・高齢化および居住の流動化社会における共同体創出のための新たな理念構築を目指した。ここでいう理念とは、人々が合意可能で、了解できる集住、集落形成の意味付けに他ならない。「伝統的」農山漁村において基盤生業であった農林水産業やこれに立脚した家制度（家の相続形態）、集落自治の変容、あるいは地方寺社の統合など、従来の集落やより広域的な地域社会で人々の結束を支えてきた生活要素に大きな変化が生じているなかで、その作業は喫緊である。

研究においては各学問分野で互いに共通理解可能な資料の提示と相互連関が求められた。そのキーは〈集住、居住、集落〉場所性であった。当然、そこには生き方（生業のあり方）との関係が現れるわけであり、社会構造や生業技術構成も関わることになる。つまり極めて複雑な関係の総体としての集住、居住、集落ということになる。また、このような複雑な総体をいかに具体的な資料化へと導くかという問題も生じてくる。これについては、本学が芸術系大学であるという特色を活かし、視覚的に把握可能なより開かれた資料作りを心掛けた（参考：資料編 63～64 頁）。

本プロジェクトでは、これらの理念の提示と同時に、地域再生の担い手（地域の相続者）を育成するという実践的課題にも挑戦した。すなわち、PD や RA、その他学生たちの研究調査活動への積極的参画を促し、東北文化研究の発展に不可欠となる若手研究者の育成を同時に行うことでポスト過疎時代の「若者たちの東北」の実現を目指した。

5 年間のプロジェクト期間のうち、1 年目から 3 年目までを基礎研究期間、4・5 年目を応用研究期間とし調査研究活動を推進した。基礎研究期間には、考古、歴史、民俗・人類の 3 班に分かれ、国内外の集落を対象に歴史社会研究に取り組んだ（参考：資料編 3～18）。また同時に、地域再生の担い手育成や、地域づくりへの学術成果の活用方法を探る実践的研究に着手し、プロジェクト期間全体で軌道に乗せた。後期の応用研究期間には基礎研究を補足的に継続しつつ、各班の研究成果の統合へと軸足を移した。その際、法学あるいは工学系環境デザインの専門家とのコラボレーションも図り、歴史社会研究の成果を現代社会で了解可能な理念構築へとつなげた。

基礎研究期間には、3 つの学問分野ごとの班を活動の基本単位とし、適宜、班を横断した共同研究も実施した。さらに、先史時代を主対象とし自然環境を軸に人類史規模での集住のあり方を考究する「環境史研究」と、中世以降現代までを主対象に、自然のほか政治・経済的環境をも重視して集住の動態を追究する「地域比較研究」という 2 つの研究テーマを設定した。前者には考古班、後者には歴史班、民俗・人類班が主に従事した。

一方、地域再生の担い手育成などを図る実践的研究を「地域資源活用研究」とし、記憶や古写真、戦前絵はがきなどを地域資源と位置づけ、地域づくりへの活用方法を探った。その活動は環境史研究や地域比較研究とも連動しており、PD・RA や大学院生・学生にも積極的参画を促し、地域の諸課題解決に向け主体的に取り組み、地域再生の牽引者となってゆく若い人材の育成を図った。

なお、当初は環境史研究、地域比較研究、地域資源活用研究を、上述した 3 班の連携的な活動単位（ユニット）として設定していたが、実際の活動面で煩雑さが生じたため、3 年目から活動単位は班のみとし、上記の 3 区分はそれぞれ研究テーマの区分に置換した。

(2) 研究組織

本プロジェクトは田口洋美を代表・研究総括とし、学内外の研究者計 24 名からなった。基本的には学問分野ごとの 3 班に分かれ、それぞれの責任のもとに調査研究を推進したが、テーマや対象地域により班を横断した共同研究も実施した。各班の研究内容は、月に数回の学内会議や年に 1、2 回の全体

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

研究会などで情報共有と研究計画の調整を図った。

2 年目は RA で、3 年目より PD として参画した佐藤未希は洋画領域を専門とし、視覚的資料制作その他の研究活動に従事した。同じく洋画領域を専門とする田中望には RA として視覚的資料制作などの協力を得た。社会人大学院生である守谷英一には研究協力者として調査その他での協力を得た。本学大学院出身の井筒桃子が絵はがき・古写真アーカイブス関連作業の中心的な担い手となった。その他にも学内外の複数名の研究協力者、大学院生から本研究での諸活動に際して協力を得た。さらに、考古班による環境史研究では、八戸市域を対象とした調査・研究を、現地の八戸市埋蔵文化財センター一是川縄文館との密接な連携のもと進めたことが、組織運営上の特筆事項といえる。

(3) 研究施設・設備等

該当なし。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

1. 環境史研究および地域比較研究

(1) 環境史研究

環境史研究として考古班では、八戸市一帯を対象とし過去 1 万年間にわたる人々の集住（集落）に関する歴史動態研究、ならびに河川流域を単位とした遺跡群の比較研究を推進した。調査上の都合により縄文社会研究と古代社会研究とに区分したが、両者は連携的な関係にある。

1 年目の縄文社会研究では、「集落の歴史動態研究」として、八戸市において 2 年目以降、本格的な調査を行う準備のための班員検討会を開き、フィールド調査の企画、関係諸機関との調整、情報収集を行った。具体的には、GIS を活用した八戸市域の縄文集落遺跡データベース作成に向けた準備を開始した。その他に環境史・集落遺跡の現地調査を計 3 回行った。古代社会研究でも検討会を開き、古代竪穴建物を中心とした遺跡情報、地形的・環境的情報の集成に着手した。

2 年目は長井が加わり研究レベルが向上した。縄文社会研究では遺跡データベース作成に向けた研究会（*20）の開催や遺跡集成に向けた 4 度の検討会を行った。そして①参加メンバーが相互利用可能な「研究データベース」、②八戸市の遺跡発掘最新情報を網羅的に捉えるための「管理データベース」の作成に着手して、関連データベースモデルを構築した。その中間的成果を八戸市民に公表するため、公開講座（*17）を開催した。一方、古代社会研究ではデータベースの構築により 5 世紀後半から 11 世紀までに 5 度の集落動態の画期を明らかにした。立地に関しても 7 世紀と 9 世紀後葉に変化が見られることを明らかにしている。また今年度からは、山形県高畠町日向洞窟遺跡群の考古学的調査（発掘）も実施し、縄文草創期における人々の集住形態と環境との関係に関する研究にも着手した。この調査には学内外の多数の学部生・院生や本学卒業生が参加した。

3 年目は、前年度からの基礎研究を継続させると同時に、応用研究を見据え、新たに流域比較研究を立ち上げた。具体的には三面川流域、津軽ダム、小又川流域、最上川流域の広域比較を目的としており、今年度は研究集会を開催した。一方、八戸市における集落の歴史動態研究では、前年度の続きとして研究データベースの質的向上を目指した。とりわけ遺跡データベース作成に向けた研究会を開催し、遺跡集成研究の実現に向けた 4 度の検討会を行った。また、古代班でも八戸市域における遺跡データベースの構築が進んだ。これにより、5 世紀後半から 11 世紀までに 5 度の集落動態の画期が存在したことが明らかになった。立地に関しても 7 世紀と 9 世紀後葉に変化が見られることを明らかにしている。今年度は他に 2 回の研究会を実施し、理論面の強化も図った。一つが、縄文時代の集落構造を理解するうえで重要な鍵となる土坑の認定に関するもの（*21）であり、もう一つが東北縄文社会において大型集落が盛衰した背景を民俗考古学的見地から議論したもの（*22）である。また、考古班研究全体の中間的報告を兼ね本年度も公開講座（*18）を八戸市で実施した。

4 年目は、基礎研究を継続させると同時に、流域比較研究の具体的な研究を開始した。また、八戸市域における集落の歴史動態研究においては、前年度の続きとして研究データベースの質的向上を目

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

指した。さらに考古班の研究成果のまとめに向け、研究会（※23）と公開講座（※19）を八戸市で行った。「古代班」でも、継続してきた①八戸市周辺の遺跡のデータベースに基づく基盤研究、②東北古代集落変遷に関わる考古学的・環境史的研究の二つについて、それぞれ具体的な調査と研究の進展がみられた。

5年目は研究の総括を行った。とくに研究対象フィールドを「八戸」に限定し、過去4年間に蓄積した遺跡データの総合的な分析を進めた。

以上のように、考古班では、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が作成した遺跡台帳をベースとして、青森県教育委員会による遺跡情報、その他この数年で新たに調査された遺跡項目を加えた最新の遺跡データベースを作成することができた。さらに、その分析を通し八戸市域を対象とし、グローバルな気候変動に対応する縄文時代以降の集落変遷の画期と立地変遷を明らかにすることができた。すなわち、縄文時代早期中葉における遺跡数の急増と低地利用、前期（海進後）における古八戸湾沿岸部への遺跡立地と拠点形成、中期における内陸部への遺跡進出と中期末葉から後期前葉における遺跡数の倍増、後・晩期における拠点形成と遺跡数の縮小、古代におけるドラスティックな集落変遷の過程を捕捉することができた。

（2）地域比較研究

歴史班と民俗・人類班が取り組んできた地域比較研究は、日本東北地方を中心とした国内事例を対象とするものと、中国（中華人民共和国）雲南省や内蒙古自治区・黒竜江省の少数民族社会を対象とする海外研究に大きく分けられる。後者の海外研究は民俗・人類班が主導してきた。また、前者の国内研究では、特定の集落や地域を対象とした個別事例研究だけでなく、東北地方全体を対象として集落景観や民家などに着目し集落の拓かれ方や生業の変容パターンを考察する、「空から見た東北」（田口提唱）や「海から見た東北」（川島・森本提唱）や「民家から見た東北」（鈴木・田口提唱）といった地域横断型の比較研究も行ってきた。これら地域横断型の比較研究も民俗・人類班が主に担ってきた。

東北地方を対象とした個別事例研究では基礎研究期間での資料収集や事例分析（研究会等での議論）に関しては歴史班と民俗・人類班とで分かれて進めてきた。歴史班では、主に中世から近・現代までの時間幅での、東北地方を主とした「集住の関係史」を解明することを共通のテーマとした。すなわち、集落の形成・維持の前提となる、土地や水面といった空間の所有・活用状況、信仰・宗教や地域リーダーといった集落の紐帯となる要素など、広く物質から精神までを手がかりに、時代や地域ごとの集落結節の様態を捉え、それらがその時期その場所で成立していた背景を明らかにすることを目指した。民俗・人類班も同じく、集落紐帯の要素（あるいは集落維持の「仕組み」）に注目し、近現代以降に発生した自然災害や政治経済的な環境の変化に対しそれら様々な慣習・権利関係をいかにつくり替え集落・文化を継承させてきたかについて明らかにすることを目指した。また、現代社会において、このような「伝統的」文化の継承が困難になっている（文化継承リスク（田口提唱）が高まっている）背景についても焦点を当て、海外研究との比較・統合を図っている。

歴史班の主な調査研究フィールドは、青森県八戸市南郷区島守地区、岩手県一関市巖美町本寺地区、山形県山形市南原町旧前田村地区、山形県山形市蔵王上野地区、宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区である。一方、民俗・人類班では国内の事例研究に関しては、後述する「地域資源活用研究」でのブックレット作成のための資料収集を兼ねた調査研究を行った。なお、歴史班でも本寺地区や鮎立地区を対象に「東北一万年のフィールドワーク」シリーズのブックレットの作成・刊行を行ったが、とくに鮎立地区に関しては、民俗・人類班の川島と鈴木が現地調査の学生指導に協力するなど、両班の協働が見られた。

これらブックレット刊行以外に、とくに歴史班では個別事例研究の成果として、村上が中心になり調査・編集をおこなった『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』（※3）や、竹原による『前田村文書目録』

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

(※1)、竹原・中村による『山形市蔵王上野文書目録』(※2)といった史料集、文書目録の刊行がなされた。とりわけ『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』の編集は、本寺地区など水田利用に基づく集落の変遷を軸に据えた他の歴史班の研究を相対化させるため行われたものであるが、藩政期の北東北諸藩での野生動物被害の実態とその対策、あるいは集落防衛のあり方の解明に寄与する大きな成果である。野生動物と人間との軋轢（いわゆる獣害問題）が深刻化している現代社会においてもその学術的意義は大きい。

既述したように、歴史班と民俗・人類班は、鮎立地区でのブックレット作成調査以外では協働した調査活動は行ってこなかった。しかし、プロジェクト3年目後半に着手した応用研究として、合同で研究会を行ってきた。その一つが入会を含めた土地所有に関わる法制度の研究会(※27)である。また、同年10月には東京農工大にて、漁業権に関する研究会(※28)を合同で実施した。これらの研究会では、様々な自然資源の利用と所有に関する権利の集まりの総体として「集落」を捉え、それらがとくに近現代以降いかに成立してきたのかを通史的に俯瞰するとともに、生業構造の変動に伴う農林漁業の衰退や、過疎高齢化など現代の東北社会を取り巻く社会的インパクトによっていかに変質しているのか、あるいはいかに継承しているのかを議論し、情報の共有を図った。

次に、民俗・人類班が中心となり実施してきた地域横断型の比較研究と海外研究についても触れたい。

地域横断型の比較研究の中でもとくに大きな成果を得たのが、「空から見た東北」である。これは空から集落景観を俯瞰することで、集落の拓かれ方や生業・自然利用の現況と変化パターンについて広域的な共通性と地域個別性を明らかにし、その背景を考察するものである。分析資料には国土地理院や林野庁が発行している空中写真の他、研究員が小型飛行機に搭乗し、集落後背地全体を撮影した写真を用いる。本プロジェクト全体で5回の撮影調査を実施し、茨城県北茨城市から青森県三沢市までの太平洋沿岸部を含む、東北6県と広範な範囲を対象に集落の記録を行った。撮影した写真の一部は、ホームページ(※30)で一般公開し、市民に広く活用を呼びかけている。また、初年度に本資料を用いた公開講座(※25)も開催した。同様に海からの視点に基づき集落変遷を考える「海から見た東北」に関しても、初年度に公開シンポジウム(※24)を実施し、プロジェクトの初期段階からそれらの研究視座の提起を行った。

海外研究に関しては、中国東北部（内蒙古自治区、黒竜江省）と雲南省の少数民族集落を調査対象地とし、初年度に実施した予備調査に続き、前者は3回の、後者は5回の本調査を行った。これらの調査対象地は、定住化政策等により大きな生業・社会変容を経験した社会であり、「伝統的」文化の継承のあり方が注目される。2年目に、国内外の研究協力者を招き、日本と中国で起きている「文化継承リスク」に関する国際シンポジウム(※26)を開催することで、国内の事例研究を比較相対化していく研究視点を明確化させ、広く社会に提起することができた。

以上のように地域比較研究での成果は関連する論文や、シンポジウム・研究会、ホームページ等を通じて積極的に公開を行ってきたが、加えて本研究センターで編集発行している雑誌『東北学』でも関連する特集テーマを組んで情報発信に努めてきた。すなわち「災害の民俗知」(3号)(※7)、「棚田のアジア」(4号)(※6)、「復興の海」(7号)(※5)、「東北、明日の大地」(8号)(※4)である。

以上の環境史研究および地域比較研究の研究成果の総括として、最終年度の10月に東北歴史博物館にてクロージング・シンポジウム「東北の集住を考えるーポスト過疎化時代を生きるー」(※16)を開催した。さらに、それらの議論を受け、かつ応用研究として実施してきた法制度研究会の成果をふまえ3月に工学系の環境デザイン、都市計画分野との研究会(※29)を開催した。

本研究プロジェクトでは、集住（人が集い暮らすこと）や集落の意味と機能（〈集住・居住・集落〉といった「場所性」）を歴史文化研究のなかから抽出することにより、歴史社会的コンテクストに沿っ

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

た共同体、コミュニティ創出の理念構築を最終的に目指してきた。また、「家」制度や土地所有制度、あるいは漁業権をはじめ山野河海にかかる所有権・占有権・利用権などの権利関係とその相続制度は、そうした「場所性」を構成する重要な社会的要素であり、本研究プロジェクト応用研究における主要な分析視点となっている。そこで、各班が取り組んできた事例研究の統合の方向性を視野に入れながら論点の整理とテーマ設定を行い、これら「場所性」に関する共同研究会を随時開催してきた経緯がある。本研究会では、農村計画や都市計画など工学系環境デザイン分野の研究者たちと都市論、集落論、農村論に関する議論を深めることができた。そして、問題意識・背景の共有や研究課題のすり合わせを図り、集落再生や地域再編に係る制度設計、政策立案においても了解可能な集落創出理念の構築、提示へと本研究プロジェクトの最終的成果を導き出した。すなわち、およそ 1 万年に渡る集住の歩みを俯瞰すると、現在の日本社会に見られる縮退期の現象が永遠に継続されるとは思われず、やがては逆転する動きに転じるであろう。そのため縮退期となる現在においては、公共性を有した土地所有システムと土地の運用に関わる自由度を何らかのかたちで担保しつつ議論される必要がある。つまり私的所有権と社会的所有権、あるいは私的利用権と社会的利用権といった土地利用権の二重構造の議論を起こす必要がある。人々の日常の動きが流動化する現代社会にあっては、土地に縛られる農本位的土地所有観から脱却して、一時的居住であろうと持続的居住であろうとに関わらず、地域の自治力と土地制度の見直しを含みつつ、住民や市民の参加の下に集住のあり方を議論しなければならないであろう。

2. 地域資源活用研究

本プロジェクトでは、記憶や古写真や戦前絵はがきなどの記録資料を地域資源として位置づけ収集を図るとともに、今後の集落再生をめぐる議論に役立つ活用のあり方を提示することを目的とする。加えて、学生や PD、RA 等の積極的参加を求め、地域再生の牽引者となってゆく若い人材の育成を図る。先の環境史研究や地域比較研究とも連動し両研究やその成果を具体的地域実践に結びつける役割も持つ。本研究での活動内容は 5 つに大別される。①ブックレット「〈東北一万年のフィールドワーク〉」シリーズの作成・刊行、②ブックレット「〈むらの記憶〉」シリーズの作成・刊行、③集落の景観および分布に関する空中写真の収集・撮影、④地域資源のデジタルアーカイブ化と活用、⑤その他の若手活用、である。

①は、学生主体の調査の成果をブックレット〈東北一万年のフィールドワーク〉シリーズにまとめてゆくものである。本プロジェクトでは北秋田市阿仁根子地区（※14）、山形市滝山地区（※13）、一関市巖美町本寺地区（※12）、気仙沼市唐桑町鮎立地区（※10）、鶴岡市大島地区（※9）、西置賜郡白鷹町深山・萩野地区（※8）を対象とした計 6 冊を刊行することができた。

②は、東日本大震災被災地やダム建設による廃村など、災害その他の契機により、大きく姿を変えたり、失われてしまったりした集落を対象とする。調査成果はブックレット〈むらの記憶〉シリーズにまとめてゆく。調査には学生も部分的に参加している。これまでに川島が長年調査・研究を行ってきた気仙沼市小々汐集落を対象に、被災前の年中行事をまとめたブックレット（※15）を刊行した。また、戦後開拓され、1981 年にダム建設に伴い集団移転したむつ市川内町（旧川内村）野平を対象に、森本・鈴木・蛭原が中心になり調査を行い、ブックレット（※11）にまとめた。これら 2 冊のブックレットは、刊行後、元住民や関係者からたくさんの問い合わせを受けたように高い反響を得た。

③は、民俗・人類学による「空から見た東北」「海から見た東北」と連動している。2014 年 8 月には、「空から見た東北」で撮影した写真を一般公開する場としての Web サイト『空から見た東北』（※30）を立ち上げ、広く市民に向けその活用を促している。これは、過去 10 年間にわたり本研究センターがオープン・リサーチ・センター整備事業を通して構築してきた「東北文化研究センターアーカイブス」の新たな一翼として位置づけられる。

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

④は、上記アーカイブスの一環であり、戦前絵はがきや古写真の収集と、Web サイト「近現代の絵はがき・写真」(*31)での公開を内容とする。プロジェクト 2 年目に、山形県内の絵はがき収集家より合計約 3 万点を借用し、そのなかから東北地方や自然災害に関する絵はがきを選び、デジタルデータ化と Web 公開の作業を進めてきた。プロジェクト期間内に約 14,215 点の Web 公開を完了させることができた。その他、戦前絵はがきを中心に、新たに 572 点を購入し、デジタルデータ化と Web 公開を完了させた。本データベースは、学外でも広く活用されるものとなっている（参考：資料編 39～41 頁）。

⑤その他、上記①～④に含まれない若手（学生など）活用もまた、本研究の一環である。特筆すべきものに、考古班が山形県高畠町で 2013 年より実施してきた洞窟遺跡群の考古学的調査があげられる。この国指定史跡・日向洞窟遺跡周辺部における考古学的調査には、本学学部生・大学院生の他、東北大学や富山大学、早稲田大学、國學院大學、立命館大学、茨城大学の大学院生・学部生など、多数の学生が参加した。研究と教育の連携という点で重要なパイプを構築させることを目的とした本調査には、まさに地域からの熱い支援を得て実現できた。山形県高畠町の地域資源を開発し、その研究成果を地域に還元するという実践教育の場として、あるいは若手研究者の育成の場として、山形県高畠町における洞窟遺跡群の考古学的調査は、貴重な試みになったといえる（参考：資料編 35～38 頁、19)～26)・40)・41)・43)・45)～48)・57)・58)・68)～71)・75)・76)）。

総じて、上記①～⑤の各種調査や作業には、PD・RA ほか、学内外の学部生・院生の積極的・継続的参加を得ており、若い人材育成の取り組みも順調に行うことができた。

＜優れた成果があがった点＞

本プロジェクトの基礎は集落（集住）に焦点を当てた歴史社会研究であり、その成果をふまえながら地域資源活用研究と総称する一連の研究教育活動を展開し、地域社会を支える担い手育成や集落変遷に関する記録資料の作成を図る点に特色がある。すなわち、地域再生への実践性および教育資源開発に重きを置いている。具体的成果の一つはブックレット形式の地域誌の作成と地元への還元であり、プロジェクト全体で「東北一万年のフィールドワーク」シリーズで 6 冊（参考：資料編 35～38 頁、37)・54)・55)・72)～74)）、＜むらの記憶＞シリーズで 2 冊（参考：資料編 35～38 頁、35)・36)・56)・66)）を刊行し得た。また、考古班による八戸市域での遺跡データベースの構築（参考：資料編 35～38 頁、31)・32)）、および民俗・人類班の Web サイト「空から見た東北」を通じた空中写真の一般公開も研究成果の社会的還元という点で特筆すべきものである。これらの資料は無論、広く研究者コミュニティにも開かれており、東北歴史文化の研究拠点の基盤となり得るものでもある。さらに、具体的な資料収集に基づき現代社会における「文化継承リスク」に関する問題を提起できたことも本プロジェクトでの大きな成果である。従来、文化継承に関しては民俗芸能などに限って議論されることが一般的であり、生業や集団の有する自然の利用・所有権にまで敷衍させ、かつ強い文化断絶を経験したであろう中国少数民族社会との比較を試みた点で学術的インパクトは大きい。その点でも、プロジェクト 2 年目に「文化継承リスク」をテーマとした国際シンポジウムを開催したことの意義は大きいと言える。

＜課題となった点＞

本プロジェクトでは、人文社会系と工学系環境デザイン分野との議論により、必ずしも土地に縛られない自由な移動による、不在者地主の増加と管理放棄や諸権利の空洞化が今後大きな問題になってゆく蓋然性が高いことなど新たな視点が抽出され、さらにその議論をより現実的に深めるべく法学的知見を取りこんだ議論へと発展させることができた。とりわけ人口の集中化が進行する地方都市におけるスポンジ化や公共性ある不在者地主の土地運用といった所有権、利用権に関わる諸問題について

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

も法学分野の考え方と合わせて、より現実味ある議論が進んだことは重要であり、今後も、この成果を強化すべく学際的なつながりを深めていく必要があろう。

ただ、過度に具体性を求めるあまり事例研究を評価し過ぎると、近未来的に想定される集住空間に柔軟性や多様性を含意できなくなる硬直化したモデルへと変更する可能性もあり注意すべきであろう。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

本プロジェクトでは、月に数回の学内会議や年に 1、2 回開催する全体研究会において研究の進捗状況や研究体制・運営方法について見直す体制をとってきた。結果、班の活動と研究テーマ区分の見直しなどに対応でき、順調に研究を進めることができた。

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

本プロジェクトでは上記の通り自己評価体制をとってきたが、基礎研究期間においては考古学、歴史学、民俗・人類学という学問分野に分かれ、専門性の高い研究調査活動が展開されたため自己評価だけでは不十分と判断した。そこで、当該学界がその見識の高さを認め、本研究課題を十分に評価しうる関連業績のある学外の評価委員による外部評価委員（各分野 1 名ずつ）を組織し、これまで開催したシンポジウムや全体研究会での議論と成果刊行物を確認していただいた。中間報告においては進捗状況の評価を受け（参考：資料編 25～28 頁）、学生を主体としたブックレットの作成、地域に還元するホームページや公開講座などの積極的な研究公表といった実践的な研究教育活動を高く評価いただき、中間以降もそれらの充実をはかった。この点に関しては、最終報告の評価でもかわらず、加えて若手研究者の育成や「文化継承リスク」をはじめとする現在進行中の文化・社会的な課題にまで踏み込んで提言したことについても高い評価をいただいた（参考：資料編 29～34 頁）。

＜研究期間終了後の展望＞

本研究は集落という「人々が集い住む場」に着目した歴史社会研究であり、従来の景観論など工学系環境デザイン分野を中心に進められてきた集落・コミュニティ研究では等閑視されがちな歴史動態的視点に基づく集落形成論を提示し得るであろう。形而下のみならず形而上的な、理念・哲学的な要素を組み込んだものとしても特色あるものとなろう。また、東北地方の集落史を、日本列島にとどまらない「開かれたアジア」という巨視的視点から捉え直し、山民、漁民といった人々のダイナミズムに光を当てる試みでもあり、新たな東北像の構築につながるであろう。加えて、地域社会の担い手育成や地域民俗誌の作成を通して、それら学術的研究成果の社会還元や教育資源化、すなわち地域再生という現代的課題に対する実践的成果を同時にもたらし得るであろう。そしてまた、それらを担う本研究センターが東北地方再生を牽引する研究拠点たる立場を構築し得ることにもつながると見込まれる。

＜研究成果の副次的効果＞

地域資源活用研究による成果である北秋田市阿仁地区に関するブックレット作成の過程で収集、作成した記録資料は、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」や伝統的狩猟技術の記録と保存といった、北秋田市がすすめている文化事業での基礎資料の一部として活用が見込まれている。また、「空から見た東北」で撮影した写真は既述の通り、ホームページにて一般公開を行っている。これらは、地形や植生など集落の周辺環境の把握に適した視覚資料であり、地方自治体での防災計画や、地域整備計画等の立案において効果的な資料となり得る。今後もこの写真を用いた写真資料集の刊行などを通し、積極的利用を促してゆく予定である。なお、本研究センターのもう一つのアーカイブスホ

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

ホームページ「近現代の絵はがき・写真」は学外でも広く活用されている。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 地域社会と集落形成・再生 (2) 集住形態にかかる環境・関係史 (3) 〈集住・居住・集落〉場所性
 (4) 空・海から見た東北 (5) 文化継承リスク (6) 若者たちの東北
 (7) 地域比較 (8) 地域資源

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

◎原則として著者名、論文名、掲載誌名、巻、査読の有無、最初と最後の頁、発表年の順で記載したが、外国語文献はその限りではない。

環境史研究

- 1) 小林圭一、「東北中部の二つの環状集落—西海渚遺跡と西田遺跡の墓壇群の比較—」、『山本暉久先生古稀記念論集 二十一世紀考古学の現在』、査読無、465～474 頁、2017 年
- 2) 小林圭一、「縄文時代中期「小梁川・大梁川編年」に関する覚書」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(16)、査読無、3～24 頁、2017 年
- 3) 小林圭一、「宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡の集落構成について」、『研究紀要 (山形県埋蔵文化財センター)』(9)、査読無、19～44 頁、2017 年
- 4) 佐藤宏之、「過去の人類活動の確かな証拠をあつかう考古学」、『科学』2017 年 2 月号、査読無、181～183 頁、2017 年
- 5) Human behavioral responses to environmental condition and the emergence of the world's oldest pottery in East and Northeast Asia: an overview. Quaternary International, dx.doi.org/10.1016/j.quaint.2016.12.046. (Sato, H. & D. Natsuki), 査読有、2017 年
- 6) Radiocarbon dating and dietary reconstruction of the Early Neolithic Houtaomuga and Shuangta sites in the Song-Nen Plain, Northeast China. Quaternary International, dx.doi.org/j.quaint.2017.01.031. (Kunikita, D., Wang, L., Onuki, S., Sato, H. & Matsuzaki, H.), 査読有、2017 年
- 7) 佐藤宏之、「日本列島の中期/後期旧石器時代移行期に関する再検討」、『ラーフィダーン』(38)、査読無、55～60 頁、2017 年
- 8) 長井謙治、「日向洞窟発掘 50 年の歩み—その現代的意義—」、『歴史遺産研究』(11)、査読無、1～22 頁、2017 年
- 9) 長井謙治、「石器製作と技能—石器製作者 (knapper) の経験がもたらすもの—」、『ラーフィダーン』(38)、査読無、69～78 頁、2017 年
- 10) 安斎正人、「縄文時代像を変える—『縄文人の生活世界』補遺—」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(15)、査読無、3～24 頁、2016 年
- 11) 小林圭一、「最上川中流域の縄文集落について」、『西村山地域史の研究』(34)、査読無、4～36 頁、2016 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 12) 小林圭一、「会津地方の大木 6 式土器と沼沢火山の噴火」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(15)、査読無、25～77 頁、2016 年
- 13) 小林圭一、「宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡出土の大木 6 式土器」、『研究紀要（山形県埋蔵文化財センター）』(8)、査読無、21～50 頁、2016 年
- 14) Sato, H. Recent research on the Early and Middle Palaeolithic in Japan: an overview. Bulletin of the Society for East Asian Archaeology, 3, pp.29-35, open access. 査読有、2016 年
- 15) 佐藤宏之、「北見市吉井沢遺跡の忍路子型細石刃核を伴う石器群の使用痕分析(2): ブロック 3 を対象とした分析」、『旧石器研究』(12)、査読有、283～298 頁、2016 年
- 16) Holocene climatic fluctuation and lithic technological change in northeastern Hokkaido (Japan). Journal of Archaeological Science: reports, dx.doi.org/10.1016/j.jasrep.2016.04.011 (Morisaki, K., Kunikita, D. and H. Sato), 査読有、2016 年
- 17) A use-wear analysis of the Late Glacial Microblade assemblage from Hokkaido, Northern Japan: A case study based on the Yoshiizawa site. Journal of Japanese Archaeology, 4(1): 3-28, (Iwase, A., H. Sato, Yamada, S. and D. Natsuki), 査読有、2016 年
- 18) 小林圭一、「押出遺跡における縄文前期遺跡との接触・交流」、『縄文時代前期遺跡シンポジウム資料集』、査読無、59～89 頁、2015 年
- 19) 小林圭一、「国宝「合掌土偶」の編年の位置—風張(1)遺跡第 15 号竪穴住居跡出土土器の検討を通して—」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(14)、査読無、23～104 頁、2015 年
- 20) 小林圭一、「山形県内出土の玦状耳飾について」、『研究紀要（山形県埋蔵文化財センター）』(7)、査読無、1～22 頁、2015 年
- 21) 福田正宏・グリシェンコ V・ワシレフスキー A・大貫静夫・熊木俊朗・國木田大・森先一貴・佐藤宏之・モジャエフ A・パシェンツェフ P・ペレグドフ A・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大、「サハリン新石器時代前期スラブナヤ 5 遺跡の発掘調査報告」、『東京大学考古学研究室紀要』29 号、121-146 頁、東京大学大学院人文社会系研究科、査読無、2015 年
- 22) Lithics and climate: technological responses to landscape changes in Upper Paleolithic northern Japan. Antiquity, 89-345, pp.554-572, (Morisaki, K., Izuhō, M. Terry, K. and Sato, H.), 査読有、2015 年
- 23) 佐藤宏之、「総論: 旧石器から縄文へ」、『季刊考古学』(132)、14～17 頁、雄山閣出版、査読無、2015 年
- 24) Nagai, K. East Asian lithic technology and its similarities before the early OIS3: Obtuse angled flaking techniques as a technological marker. In Topical Issues of the Asian Paleolithic, edited by A.P. Derevianko and N.I. Drozdov, pp.136-141. Novosibirsk: Institute of Archaeology and Ethnography Press. 査読無、2015 年
- 25) 小林圭一、「合掌土偶の編年の位置について」、『第 11 回土偶研究会 八戸市大会資料』、査読無、47～74 頁、2014 年
- 26) 小林圭一、「吹浦遺跡出土の縄文土器—今村啓爾氏の研究に学ぶ山形県内の縄文前期末葉の土器群—」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(13)、査読無、3～51 頁、2014 年
- 27) 小林圭一、「東北地方出土の「櫃原式文様浅鉢」について」、『研究紀要（山形県埋蔵文化財センター）』(6)、査読無、69～78 頁、2014 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 28) 佐藤宏之、「総論：黒曜石原産地遺跡研究の地平」、『考古学ジャーナル』(659)、査読無、3～5 頁、2014 年
- 29) Lithic technological and human behavioral diversity before and during the Late Glacial: A Japanese case study. *Quaternary International*, doi.org/10.1016/j.quaint.2014.04.021, (Morisaki, K. and H. Sato)、査読無、2014 年
- 30) Chemical composition of obsidians in Hokkaido Island, northern Japan: the importance of geological and petrological data for source studies. In A. Ono, M. D. Glascock, Y. V. Kuzmin, and Y. Suda (eds.) *Methodological Issues for Characterisation and Provenance Studies of Obsidian in Northeast Asia*. British Archaeological Report, International Series 2620, pp. 67-84, Oxford. (Wada, K., M. Mukai, K. Sano, M. Izuho and H. Sato)、査読無、2014 年
- 31) Multi-method characterization of obsidian source compositional groups in Hokkaido Island (Japan). In A. Ono, M. D. Glascock, Y. V. Kuzmin, and Y. Suda (eds.) *Methodological Issues for Characterisation and Provenance Studies of Obsidian in Northeast Asia*. British Archaeological Report, International Series 2620, pp. 13-32, Oxford. (Ferguson, J., M. Glascock, M. Izuho, M. Mukai, Wada, K. and H. Sato)、査読無、2014 年
- 32) Integration of obsidian compositional studies and lithic reduction sequence analysis at the Upper Paleolithic site of Ogachi-Kato 2, Hokkaido, Japan. In A. Ono, M. D. Glascock, Y. V. Kuzmin, and Y. Suda (eds.) *Methodological Issues for Characterisation and Provenance Studies of Obsidian in Northeast Asia*. British Archaeological Report, International Series 2620, pp. 125-142, Oxford. (Izuho, M., J.R. Ferguson, M.D. Glascock, N. Oda, F. Akai, Y. Nakazawa, H. Sato)、査読無、2014 年
- 33) Shirataki obsidian exploitation and circulation in prehistoric northern Japan. *Journal of Lithic Studies*, 1(1): 319-342, doi: 10.2218/jls.v1i1.768, (Yakushige, M. and H. Sato)、査読無、2014 年
- 34) Obsidian exploitation and circulation in Late Pleistocene Hokkaido. In: Ono, A. and Yamada, M. (eds.) *Lithic Raw Material Exploitation and Circulation in Prehistory: a comparative perspective in diverse palaeoenvironment*. pp.159-177, ERAUL, 138(Études et Recherches Archéologiques de l'Université de Liège, Belgium). (Sato, H. and Yakushige, M.)、査読無、2014 年
- 35) 佐藤宏之、「黒曜石研究の現状と課題：産地同定研究法の標準化を展望して」、『法政考古学』40 集、査読無、17～23 頁、2014 年
- 36) 福田正宏、「サハリン・アムール流域」、『北海道考古学』(50)、査読有、137～150 頁、2014 年
- 37) 安斎正人、「縄文時代早期論（下）」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(12)、査読無、3～31 頁、2013 年
- 38) 安斎正人、「講演録：気候変動と縄文人—飛ノ台貝塚を残した人たち—」、『飛ノ台史跡公園博物館紀要』(10)、査読無、25～44 頁、2013 年
- 39) 安斎正人、「認知考古学、その課題と展望」、『季刊考古学』(122)、査読無、88～91 頁、2013 年
- 40) 小林圭一、「阿部祥人先生と最上川プロジェクト」、『山形考古』(43)、査読無、97～102 頁、2013 年
- 41) 小林圭一、「西海湊遺跡と西田遺跡の墓壇群について」、『年報—平成 24 年度—』、査読無、58～65 頁、2013 年
- 42) 小林圭一、「東北中部における縄文時代後期後葉の型式変化—田柄貝塚と里浜貝塚の出土層準の再確認—」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(12)、査読無、45～105 頁、2013 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 43) 佐藤宏之・役重みゆき、「北海道の後期旧石器時代における黒曜石産地の開発と黒曜石の流通」、『旧石器研究』(9)、査読無、1～25 頁、2013 年
- 44) 佐藤宏之、「関東地方における石器石材利用の時期別動向と地域性」、『石器石材と旧石器社会』、査読無、147～157 頁、2013 年
- 45) 庄田慎矢・梅崎恵司・池珉周・長井謙治・柚原雅樹、「청동기시대 마제석축 제작공정의 복원 – 서산 신송리유적 출토유물에 대한 분석을 중심으로–」、『韓國上古史學報』(79)、査読有、145～162 頁、2013 年
- 46) Nishiaki, Y. and K. Nagai、「Obsidian Knappers at the Late PPNB Consumer Settlement of Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria」、『Paléorient』(37-2)、査読有、91～105 頁、2013 年
- 47) Фукуда Масахиро。(福田正宏)、「Хронология памятников эпохи палеометалла на северо-востоке Нижнего Амура.」、『Российский археологический ежегодник』(3)、査読有、337～340 頁、2013 年(ロシア語)
- 48) 福田正宏、「北海道とサハリン・千島―日露二国の考古学からみた縄文文化の北辺―」、『季刊考古学』(125)、査読無、62～65 頁、2013 年

地域比較研究

- 1) 謝黎、「化粧へのまなざしにみる中国女性の美的価値観の変遷」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(16)、査読無、25～30 頁、2017 年
- 2) 謝黎、「中国少数民族〈苦聰人〉の村」、『潮』(12)、査読無、30～31 頁、2017 年
- 3) 田口洋美、「生き方としてのマタギ」、『(会報)河川文化』(77)、査読無、8～9 頁、2017 年
- 4) 坪田敏男・田口洋美・嶋田康男、「熊胆」、『BEARS JAPAN』(17)3、査読無、3～9 頁、2017 年
- 5) 阿部朋恒、「先住民族からみた『世界遺産』——紅河ハニ棚田の世界遺産登録をめぐって」、『国立民族学博物館調査報告 136 中国地域の文化遺産——人類学の視点から』、査読有、107～122 頁、2016 年
- 6) 入間田宣夫、「清衡のグローバル・スタンダードと仏教的・商業的人脈」、『歴史評論』(795)、査読無、35～45 頁、2016 年
- 7) 入間田宣夫、「骨寺村の成立は、いつまで遡るのか—骨寺村絵図研究の過去・現在・未来(一)—」、『一関市博物館研究報告』(19)、査読無、1～16 頁、2016 年
- 8) 菊池勇夫、「越境する飢人と領主的対応—天保4・5年の秋田藩と弘前藩の場合」、『宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 研究年報』(49)、査読無、1～24 頁、2016 年
- 9) 謝黎、「植民地台湾における旗袍」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(15)、査読無、99～106 頁、2016 年
- 10) 謝黎、「チャイナドレスに隠された思想」、日中文化誌『和華』(9)、査読無、35～37 頁、2016 年
- 11) 思沁夫、「人類学への誘い、人類学からの旅立ち」、『社会人類学年報』(42)、査読無、105～119 頁、2016 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 12) Mitsukiko, T. and H. Taguchi, “Huntermen’s territorialism in wildlife management.” *Pathways Kenya 2016 : Integrating Human Dimensions Into Fisheries and Wildlife Management* January 10-13.2016.:32. Pathways Kenya 2016(ed.)
- 13) 田口洋美、「(巻頭言) 撤退の風景の中で ークマ出没に思うー」、『世界平和研究』(211)、査読無、1 頁、2016 年
- 14) 田口洋美、「狩猟文化研究と文化継承というやっかいな問い」、『社会人類学年報』(42)、査読無、91～104 頁、2016 年
- 15) 阿部朋恒、「網の上の社交場——中国雲南省の口 烤 (シャオカオ)」、『季刊民族学』(39)、84～96 頁、2015 年
- 16) 阿部朋恒、「害虫か、精霊か——ダニをめぐるエピソード」、『月刊みんぱく』(39)、7～8 頁、2015 年
- 17) 入間田宣夫、「骨寺村絵図に描かれた駒形根と六所宮について (覚書・続)」、『一関市博物館研究報告』(18)、査読無、1～10 頁、2015 年
- 18) 川島秀一、「三陸沿岸における津波と漁業の伝承—三陸の漁撈文化から探る復興への道—」、『水産振興』(49)、査読無、1～42 頁、2015 年
- 19) 川島秀一、「「東北」の過去から未来へ向けて—津波と三陸沿岸をめぐる—」、『歴史地理教育』(832)、査読無、102～111 頁、2015 年
- 20) 川島秀一、「災害伝承と自然観」、『日本口承文芸』(38)、査読無、70～78 頁、2015 年
- 21) 菊池勇夫、「天保飢饉と備荒貯蓄」、『宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 研究年報』(48)、査読無、79～103 頁、2015 年
- 22) 謝黎、「なぜ〈素顔美人〉が好まれるか？—化粧への〈まなざし〉と中国的〈美人観〉」、『歴史遺産研究』(10)、査読無、37～42 頁、2015 年
- 23) 謝黎、「日中における美意識・美人観に関する比較研究—中国の化粧文化、『面飾』の歴史」、『株式会社資生堂共同研究報告書』(2014 年度)、査読無、1～6 頁、2015 年
- 24) 謝黎、「『民族衣装』への招待—チャイナドレスの醍醐味」、『MY 舍人倶楽部』(10)、査読無、6 頁、2015
- 25) Siqinfu “From Nomads to Settlers: A History of the Aoluguya Ewenki(1965-1999)”, Åshild, K.(ed.), *Reclaiming the forest: the Ewenki reindeer herders of Aoluguya*, New York: Berghahn Books, 2015 年
- 26) 田口洋美、「大型野生動物の行動域拡大期における都市防衛に関するノート」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(14)、査読無、105～115 頁、2015 年
- 27) 田口洋美・高橋満彦、「膨張する都市と野生動物—環境学および法学的視点から— (New Perspectives from the Environmental Studies and Legal Studies for Wildlife Management in Urbanized Area of Japan.)」、『第 21 回「野生生物と社会」学会 沖縄大会大会プログラム・講演要旨集』、査読無、37 頁、2015 年
- 28) 田口洋美、「イントロダクション 地方都市の大型獣出没と防衛システムについて (Defense

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- system against large mammals to protect the suburban areas -- An introduction)」、『第 21 回「野生生物と社会」学会 沖縄大会プログラム・講演要旨集』、査読無、37 頁、2015 年
- 29) 入間田宣夫、「骨寺村絵図に描かれた駒形根と六所宮について(覚書)」、『一関市博物館研究報告』(17)、査読無、1～13 頁、2014 年
- 30) 蛭原一平、「洪水対策の民俗知」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(13)、査読無、89～94 頁、2014 年
- 31) 川島秀一、「「餌買日記」に描かれたカツオ漁」、『東北民俗』(48)、査読無、57～68 頁、2014 年
- 32) 川島秀一、「災害の記憶と生活文化」、『セフティ』(26)、査読無、1～6 頁、2014 年
- 33) 川島秀一、「追尾士の捕鯨記録—北海道網走市、昭和 46～47 年の小型沿岸捕鯨—」、『国立歴史民俗博物館研究報告』(181)、査読無、133～146 頁、2014 年
- 34) 川島秀一、「三陸大津波と漁村集落—山口弥一郎『津浪と村』を受け継ぐために—」、『歴史と民俗』(30)、査読無、189～203 頁、2014 年
- 35) 菊池勇夫、「提言・過去と現在を行き来する災害史研究—近世の飢饉研究から—」、『歴史学研究』(916)、査読無、23～26 頁、2014 年
- 36) 菊池勇夫、「飢饉と災害」、『岩波講座 日本歴史』(12)、査読無、283～318 頁、2014 年
- 37) 菊池勇夫、「飢饉死のリアリティー—仙台藩天保七・八年の飢饉の場合—」、『キリスト教文化研究所研究年報』(47)、査読無、1～27 頁、2014 年
- 38) 謝黎、「現代中国における『伝統服』の受容に関する一考察—上海 APEC 会議の唐装を事例に」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(13)、査読無、95～105 頁、2014 年
- 39) 謝黎、「マレーシアの華僑たち」、東北文化友の会会報『まんだら』(56)、査読無、30～31 頁、2014 年
- 40) 中村只吾、「地域経済との関係からみた近世の漁村秩序—伊豆国内浦地域を事例として」、『関東近世史研究』(76)、4～28 頁、査読無、2014 年
- 41) 村上一馬、「弘前藩における猟師の処遇と収入—ツ森村の辰蔵に着目して—」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(13)、査読無、71～87 頁、2014 年
- 42) 村上一馬、「熊胆の上納を督促される猟師(マタギ)—『盛岡藩家老席日記 雑書』から—」、『東北歴史博物館研究紀要』(15)、査読有、49～74 頁、2014 年
- 43) 入間田宣夫、「中尊寺供養願文の偽作説について」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(12)、査読無、33～44 頁、2013 年
- 44) 川島秀一、「谷川健一さんを悼む」、『怪』(40)、査読無、140～143 頁、2013 年
- 45) 川島秀一、「海難と供養(要旨)」、『民俗文化』(25)、査読無、356～362 頁、2013 年
- 46) 川島秀一、「飛島の『山帳』における書承の実態」、『東北民俗』(47)、査読無、47～57 頁、2013 年
- 47) 川島秀一、「海とシオと魚とのくらし」、『月刊「みんぱく」』(37-5)、査読無、7 頁、2013 年
- 48) 川島秀一、「津波と漁民の信仰」、『比較民俗学』(50)、査読無、123～136 頁、2013 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 49) 川島秀一、「安芸灘のボラ地曳網漁—山口弥一郎『津浪と村』をめぐって」、『歴史と民俗』(29)、査読無、13～32 頁、2013 年
- 50) 菊池勇夫、「救済をめぐる公権力と地域社会—天保飢饉下の八戸藩」、『歴史評論』(758)、査読無、61～76 頁、2013 年
- 51) 佐々木史郎、「一九世紀の国境策定と先住民—アムール、樺太、千島における日ロ中のせめぎあいの中で」、『東アジア近代史』(16)、査読無、23～44 頁、2013 年
- 52) 思沁夫、「日本□□之路的启示(1)」、『中国農業大学学报(社会科学版)』(52 - 3)、査読有、31～50 頁、2013 年
- 53) 高橋美貴、「近世の水揚げ帳とサケの漁況変動」、『歴史評論』(764)、査読無、5～18 頁、2013 年
- 54) 田口洋美、「神話から遠く離れて-クマたちの現実-」、『ユリイカ-詩と評論-』(09)、査読無、76～83 頁、2013 年
- 55) 田口洋美、「インタビュー：近代という病弊を超えて-民俗知の復権- (Beyond a Nuisance Called 'Modernity': Reviving the Fork Knowledge)」、『世界平和研究』(2013 年夏季号)、査読無、32～41 頁、2013 年
- 56) 田口洋美、「高橋文太郎：時代とまなざし」、『武蔵保谷村だより』(9)、査読無、1～5 頁、2013 年
- 57) 竹原万雄、「明治二〇年代前半における市町村自治と衛生政策」、『日本歴史』(784)、査読有、61～76 頁、2013 年
- 58) 竹原万雄・櫛引理沙、「福島県大沼郡福重岡村土地関係文書目録」、『歴史遺産研究』(8)、査読無、33～45 頁、2013 年
- 59) 中村只吾、「日本近世漁民の知」、『歴史評論』(764)、査読無、33～48 頁、2013 年
- 60) 中村只吾、「近世後期～明治前半期の沿岸村落における生業秩序」、『北陸史學』(61)、査読有、53～76 頁、2013 年
- 61) 中村只吾、「明治初頭～一〇年代における漁村の秩序と変容Ⅱ—伊豆国内浦小海村を対象に」、『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』(12)、査読無、43～60 頁、2013 年
- 62) 村上一馬、「人馬を喰う狼、狼を獲る人びと—『盛岡藩家老席日記 雑書』から」、『東北歴史博物館研究紀要』(14)、査読有、9～28 頁、2013 年
- 63) 森本孝、「宮本先生と漁村と木造船と私」、『宮本常一講演選書 2 月報』、査読無、4～8 頁、2013 年
- 64) 森本孝、「物づくり企画展-船大工用具と木造船-展示設営始末記」、『文化と交流』(1)、査読無、19～24 頁、2013 年
- 65) 思沁夫、「モンゴル人の情報伝達方法及び利用方法と今日的な意味」、『12 世紀～13 世紀にかけてモンゴル帝国文化の世界史的意義とコミュニケーション性に関する学際的研究』第 1 巻、査読有、10～30 頁、2013 年
- 66) 川島秀一、「津波と生活文化の伝承」『環境情報科学』(41-3)、査読無、29～33 頁、2012 年
- 67) 川島秀一、「津波をめぐる生命観と復興」『神奈川評論』(72)、査読無、83～91 頁、2012 年
- 68) 川島秀一、「津波と海の民俗」、『震災学』(1)、査読無、216～226 頁、2012 年

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 69) 川島秀一、「津波石の伝承誌」、『東北民俗』(46)、査読無、9～16 頁、2012 年
- 70) Исследование Л. Я. Штернбергом нивхского общества и структурная антропология, Резван, Е. А. от. ред. Лев Штернберг – граждане, ученый, педагог. К 150-летию со дня рождения, стр. 291-302. СПб.: МАЭ РАН.査読無、2012 年 (ロシア語)
- 71) 謝黎、「チャイナドレスの誕生とオールド上海」、『Shun Me 上海チャイナドレスの物語』(創刊号)、査読無、32～36 頁、2012 年
- 72) 思沁夫、「“母鹿の歌”とエヴェンキ人の自然観」(原文エヴェンキ語)、『エヴェンキ研究』(16)、査読有、3～19 頁、2012 年
- 73) 高橋美貴、「問題提起 漁業史研究からみる環境史研究への展望」、『地方史研究』(358)、査読無、58～61 頁、2012 年
- 74) 田口洋美、「女性が担う狩猟の現場・文化を受け継ぐリスク」、『山と溪谷』(11 月号)、査読無、170～173 頁、2012 年
- 75) 田口洋美、「マタギとは何者か・過去、現在、そして未来」、『山と溪谷』(10 月号)、査読無、170～173 頁、2012 年
- 76) 田口洋美、「撤退する人為と攻めてくる森」、『JA 農業協同組合 経営実務』(10 月号)、査読無、10～21 頁、2012 年
- 77) 田口洋美、「インタビュー：マタギ文化が現代に問いかけるもの (Challenges Posed by Matagi Hunters)」、『世界平和研究』(193)、査読無、49～60 頁、2012 年
- 78) 森本孝、「追憶の三陸沿岸の村と人」、『季刊民族学』(142)、査読無、32～42 頁、2012 年

<図書>

◎図書名、出版社名、発行年、総ページ数、著者名の順で記載した。

本プロジェクト全体

- 『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究、平成 24 年度～平成 28 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告書』
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年 455 ページ
著者：田口洋美・長井謙治・近藤康久・安斎正人・小林圭一・佐藤宏之・蛭原一平・竹原万雄・中村只吾・入間田宣夫・菊池勇夫・村上一馬・高橋美貴・川島秀一・佐藤未希・鈴木清・佐々木史郎・思沁夫・侯儒・謝黎・阿部朋恒
- 『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究 平成 27 年度研究成果報告書』
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2016 年 73 ページ
著者：田口洋美・蛭原一平・竹原万雄・中村只吾・長井謙治・北野博司
- 『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究 平成 26 年度研究成果報告書』
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年 75 ページ
著者：田口洋美・蛭原一平・佐藤健治・竹原万雄・中村只吾・長井謙治・北野博司・謝黎・横山寛剛
- 『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究 平成 25 年度研究成果報告書』
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 89 ページ

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

著者：田口洋美・蛭原一平・佐藤健治・竹原万雄・中村只吾・長井謙治・北野博司・菅沼信輝・早川由希子・三好明日美・謝黎・安斎正人

- 5) 『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究 平成 24 年度研究成果報告書』

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2013 年 93 ページ

著者：田口洋美・蛭原一平・佐藤健治・竹原万雄・中村只吾・長井謙治・菊池勇夫・森本孝・川島秀

二

環境史研究

- 1) 『山形県高島町日向洞窟遺跡の発掘調査概要（2013～2016 年度）』

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年、79 ページ

著者：長井謙治（執筆者、編集者）、佐々木繁喜、パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（執筆者）、杉原範美、上田優喜、亀山絵莉香、千尋美紀、石塚隆弥、渡邊みなみ、小関大輔、塚野聡史、徳永司、菊池駿貴、上野遥奈、濱谷優芽、本間かりん、高橋央輝、永井秀都、小瀧慧悟、會田英理花（制作スタッフ）

- 2) 『晩氷期の人類社会—北方狩猟採集民の適応行動と居住形態—』

出版社：六一書房 2016 年 276 ページ

編著者：佐藤宏之・山田哲・出穂雅実

- 3) 『縄文人の生活世界』

出版社：啓文舎 2015 年 316 ページ

著者：安斎正人

- 4) 『The Emergence and Diversity of Modern Human Behaviors in Paleolithic Asia』

出版社：Texas M & A University Press, College Station: USA. 2015 年、580 ページ

編著者：Kaifu, Y. Izuhou, M. Geobel, T. Sato, H. Ono, A.

- 5) 『日向洞窟遺跡の発掘記録—第 1 次発掘調査報告書—』

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年、79 ページ

著者：長井謙治（執筆者、編集者）、上田優喜、亀山絵莉香、千尋美紀、石塚隆弥、渡邊みなみ、小関大輔、塚野聡史、徳永司、須貝慎吾、渋谷孝雄、佐々木繁喜、納屋内高史、大森貴之、パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（執筆者）

- 6) 『気候変動と縄文文化の変化』

出版社：同成社 2014 年 254 ページ

著者：安斎正人

- 7) 『シリーズ縄文集落の多様性Ⅳ 信仰・祭祀』

出版社：雄山閣 2014 年 354 ページ

著者：鈴木克彦・遠藤香澄・熊谷常正・児玉大成・武藤祐浩・小林圭一・石坂茂・林克彦・渡邊裕之・新津健・川添和暁・松田真一・中村豊・堂込秀人

- 8) 『山形の縄文文化小論集—今、山形の縄文時代はどこまでわかったのか—』

出版社：放送大学山形学習センター 2014 年 116 ページ

著者：山崎利夫・黒坂雅人・水戸部秀樹・菅原哲文・小林圭一・植松暁彦・大場正善

- 9) 『講座日本の考古学 第 4 巻 縄文時代(下)』

出版社：青木書店 2014 年 678 ページ

著者：松井章・佐藤宏之・樋泉岳二・阿部芳郎・泉拓良・南川雅男・前山精明・山田昌久・谷口康浩・小林謙一・笹森健一・石井寛・武藤康弘・西田泰民・鈴木隆雄・小杉康・磯前順一・藤田富士夫・安孫子昭二・山田康弘・高橋龍三郎・今村啓爾

- 10) 『岩波講座 日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

出版社：岩波書店 2013 年 305 ページ

著者：大津透・佐藤宏之・設楽博己・岩永省三・仁藤敦史・福永伸哉・菱田哲郎・田中史生・田中俊明

- 11) 『山形古代史発掘 40 年—埋蔵文化財保護 40 年の成果（開館 20 周年記念企画展図録）』

出版社：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 2013 年 154 ページ

著者：渋谷孝雄・菅原哲文・小林圭一・佐藤祐輔・高橋敏・植松暁彦・高桑登

- 12) 『ホモ・サピエンスと旧人—旧石器考古学からみた交替劇』

出版社：六一書房 2013 年 205 ページ

著者：海部陽介・門脇誠二・佐野勝宏・加藤博文・長沼正樹・野口淳・石村智・加藤真二・長井謙治・仲田大人・西秋良宏

- 13) 『気候変動の考古学』

出版社：同成社 2012 年 188 ページ

著者：安斎正人

- 14) 『縄文時代の資源利用—民俗学と考古学から見た堅果類の利用及び水場遺構』

出版社：縄文時代の資源利用研究会 2012 年 144 ページ

著者：佐々木長生・伴場聡・栗島義明・中沢道彦・桐山秀穂・武藤康弘・山田武文・鈴木忠司・岡村秀雄・江原英・永岡弘章・新山保和・田井知仁・佐々木由香・藤沼昌泰・小林圭一・吉岡卓真・須賀博子・栗島義明・宮内慶介

- 15) 『関西縄文時代研究の新展開—松尾洋次郎さん追悼論集』

出版社：六一書房 2012 年 218 ページ

著者：大野薫・岡田憲一・幡中光輔・菅原章太・福西貴彦・山崎真治・石田由紀子・長井謙治・面将道・吉村俊吾・田部剛士・上峯篤史・川添和暁・加藤雅士・松尾洋次郎

地域比較研究

- 1) 『クマ問題を考える—野生動物生息域拡大期のリテラシー』

出版社：ヤマケイ新書 2017 年 224 ページ

著者：田口洋美

- 2) 『骨寺村荘園遺跡村落調査研究包括報告書』

出版社：一関市博物館 2017 年 338 ページ

著者：入間田宣夫・菅田慶信・小岩弘明・鈴木弘太・岡陽一郎・佐藤健治・菊池勇夫・竹原万雄・平塚明・広田純一・菅原麻美

- 3) 『前田村文書目録』 *1

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年 111 ページ

著者：竹原万雄（編集・執筆）、鈴木彩也花・小関美紗・柳澤もも（編集補助）

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?portfolio=1256>

- 4) 『山形市蔵王上野文書目録』 *2

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年 99 ページ

著者：竹原万雄（編集・執筆）、中村只吾・藤方博之（執筆）、小関美紗・三村真心・柳澤もも（編集補助）

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?portfolio=%e5%b1%b1%e5%bd%a2%e5%b8%82%e8%94%b5%e7%8e%8b%e4%b8%8a%e9%87%8e%e6%96%87%e6%9b%b8%e7%9b%ae%e9%8c%b2>

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 5) 『非常非命の歴史学—東北大飢饉再考』
出版社：校倉書房 2017 年 267 ページ
著者：菊池勇夫
- 6) 『大阪大学・普洱学院協働実施 2016 年度海外フィールドスタディプログラム成果報告書 普洱におけるグローバル化・市場化の進展—文化・生物多様性の維持を架橋する方法論を求めて』
出版社：遊文舎 2017 年 112 ページ
著者：思沁夫・上須道徳・阿部朋恒（日本側）、于千千・左永平・陳勇（中国側）、大阪大学・普洱学院協働実施 2016 年度海外フィールドスタディプログラムメンバー企画・編
- 7) 『川と海の民俗誌：陸前高田市横田・小友地区民俗調査報告書—気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究・民俗学部門報告書—』
出版社：筑波大学人文学系中野泰研究室 2017 年 118 ページ
著者：中野泰・小谷竜介・辻元佑生・戸羽清次・川島秀一・藤野哲寛・桜木真理子・浅野久枝・原毅彦
- 8) 『海と生きる作法—漁師から学ぶ災害観』
出版社：富山房インターナショナル 2017 年 293 ページ
著者：川島秀一
- 9) 『こえのことばの現在—口承文芸の歩みと展望』
出版社：三弥井書店 2017 年 335 ページ
著者：花部英雄・杉浦邦子・立石展大・内田伸子・小池淳一・川島秀一・齊藤純・伊藤龍平・重信幸彦・飯倉義之・高木史人・酒井正子・真下厚・間宮史子・奥田統巳・熊野谷葉子・美濃部京子・鶴野祐介・山東正昭・川森博司・藤久真菜・石井正己・米谷陽一・狩俣恵一・内藤浩誉・根岸英之・小堀光夫・達志保・山田仁史・真鍋裕子・坂井弘紀・加藤耕義・直野洋子
- 10) 『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』 ＊3
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2016 年 390 ページ
著者：村上一馬（編集）、中村只吾（編集協力）、田口洋美（監修）
- 11) 『平成 27 年度 骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』
出版社：一関市博物館 2016 年 63 ページ
著者：入間田宣夫・菅田慶信・小岩弘明・鈴木弘太・菊池勇夫・竹原万雄・広田純一・菅原麻美
- 12) 『近世北日本の生活世界—北に向かう人々』
出版社：清文堂出版 2016 年 306 ページ
著者：菊池勇夫
- 13) 『東北学 08 特集：東北、明日の大地』 ＊4
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2016 年 261 ページ
著者：田口洋美・蛭原一平・芳賀和樹・長谷川成一・大島丈志・川島秀一・たくきよしみつ・羽根田治・阿部朋恒・藤岡悠一郎・謝黎
- 14) 『世界の愛らしい子ども民族衣装』
出版社：株式会社エクスナレッジ 2016 年 159 ページ
著者：大枝近子・太田茜・川口えり子・黒川祐子・米今由希子・佐藤恭子・沢尾絵・新寶五穂・松尾量子・松本由香・矢澤郁美・山村明子・謝黎
- 15) 『エヴェンキ研究』 2016 年第 1 号
出版社：内モンゴル自治区エヴェンキ族研究会 2016 年 120 ページ
著者：思沁夫（原文：中国語）

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 16) 『【OUFC ブックレット vol.8】中国の食・健康・環境の現状から導く東アジアの未来—地域研究における文理融合モデルの探求—』 OUFC
出版社：アイジイ 2016 年 160 ページ
著者：田中仁・思沁夫・豊田岐聡
- 17) 『「共生」する瞬間(とき)—わたしたちの可能性から』
出版社：ブックポケット 2016 年 273 ページ
著者：思沁夫
- 18) 『災害文化の継承と創造』
出版社：臨川書店 2016 年 322 ページ
著者：林勲男・木村周平・川島秀一・植田今日子・二羽朋子・関礼子・三田村敏正・猪瀬浩平・松前もゆる・柄谷友香・近藤民代・政岡伸洋・小谷竜介・日高真吾・加藤幸治・橋本裕之・岡本翔馬
- 19) 『移行期の東海地域史 中世・近世・近代を架橋する』
出版社：勉誠出版 2016 年 384 ページ
著者：渡辺尚志・水林純・中村只吾・松本尚之・糟谷幸裕・荒木美緒知・夏目琢史・伴野文亮
- 20) 『東北学 07 特集：復興の海』 *5
出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2016 年 276 ページ
著者：板垣公一・田口洋美・秋道智彌・村山嘉昭・中村只吾・森本孝・熊谷誠・小谷竜介・川村清志・川島秀一・たくきよしみつ・羽根田治・竹原万雄・謝黎・蛭原一平
- 21) 『よみがえるふるさとの歴史5 明治時代の感染症クライシス コレラから地域を守る人々』
出版社：蕃山房 2015 年 68 ページ
著者：竹原万雄
- 22) 『平成 26 年度 骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』
出版社：一関市博物館 2015 年 53 ページ
著者：入間田宣夫・菅田慶信・菊池勇夫・佐藤健治・小岩弘明・鈴木弘太・神谷美和
- 23) 『江戸時代の政治と地域社会 第二巻 地域社会と文化』
出版社：清文堂 2015 年 265 ページ
著者：平川新・小林文雄・高橋修・中川学・菅原美咲・安田容子・青柳周一・高橋美貴・竹原万雄
- 24) 『安さんのカツオ漁』
出版社：富山房インターナショナル 2015 年 301 ページ
著者：川島秀一
- 25) 『災害と村落』(年報 村落社会研究 第 51 集)
出版社：農山漁村文化協会 2015 年 368 ページ
著者：植田今日子・松井克浩・徳野貞雄・川島秀一・山泰幸・金子祥之・岩本由輝・鎌谷かおる・関根佳恵・山本早苗・吉田国光・大竹晴佳
- 26) 『アムール地域のエヴェンキ人文化に関する実証的研究』
出版社：ブラガウィシンスキー国立大学出版会 2015 年 280 ページ
著者：思沁夫・A.B.マリヤナ (原文：ロシア語)
- 27) 『【OUFC ブックレット vol.6】東アジア“生命健康圏”構築に向けて—大気汚染と健康問題を考える日中国際会議の記録』 OUFC.
出版社：アイジイ 2015 年 215 ページ
著者：思沁夫・田中仁

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 28) 『東北学 06 特集：オオカミの行方』
 出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年 245 ページ
 著者：田口洋美・原田純夫・村上一馬・川島秀一・石黒直隆・たくきよしみつ・羽根田治・阿部朋恒・謝黎・蛭原一平
- 29) 『東北学 05 特集：縄文の至宝』
 出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年 247 ページ
 著者：C・W・ニコル・田口洋美・安斎正人・鶴飼幸雄・堤隆・石原正敏・村木淳・阿部千春・たくきよしみつ・羽根田治・佐藤未希・長井謙治・謝黎・蛭原一平
- 30) 『モンゴルのことばとなぜなぜ話』
 出版社：大阪大学出版会 2014 年 236 ページ
 著者：塩谷茂樹・思沁夫
- 31) 『東北学 04 特集：棚田のアジア』 *6
 出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 261 ページ
 著者：向後元彦・澁澤寿一・田口洋美・須藤護・吉村豊雄・青柳健二・思沁夫・安達真平・大西秀之・たくきよしみつ・羽根田治・小川ひかり・謝黎・蛭原一平
- 32) 『東北学 03 特集：災害の民俗知』 *7
 出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 261 ページ
 著者：松井孝典・尾池和夫・田口洋美・片田敏孝・川島秀一・上江洲均・三浦修・渡辺尚志・大窪健之・たくきよしみつ・中村只吾・謝黎・渡部桂・蛭原一平
- 33) 『平成 25 年度骨寺村荘園遺跡村落調査研究概報』
 出版社：一関市博物館 2014 年 43 ページ
 著者：入間田宣夫・菅田慶信・佐藤健治・菊池勇夫・竹原万雄・神谷美和・佐々木邦博・鈴木弘太
- 34) 『講座東北の歴史 第 5 巻 信仰と芸能』
 出版社：清文堂出版 2014 年 397 ページ
 著者：入間田宣夫（監修・編者）、菊地和博（編著者）・佐川正敏・長岡龍作・佐藤弘夫・山田巖子・滝澤克彦・小田島建己・村井早苗・水野沙織・高橋章則・小林文雄・布施賢治・大石泰夫
- 35) 『無形民俗文化財が被災するということ―東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌』
 出版社：新泉社 2014 年 318 ページ
 著者：梅屋潔・林勲男・政岡伸洋・金菱清・岡山卓矢・小谷竜介・金賢貞・山口未花子・木村敏明・俵木悟・兼城糸絵・川村清志・菊地暁・川島秀一・沼田愛・赤嶺淳・島村恭則・沼田愛・滝澤克彦・稲澤努・高倉浩樹
- 36) 『日本とはなにか WHAT IS JAPAN? 日本民族学の二〇世紀』
 出版社：東京堂出版 2014 年 390 ページ
 著者：齋藤玲子・手塚薫・田村将人・佐々木史郎・ハンス＝ディーター・オイルシュレーガー・小林光一郎・ヨーゼフ・クライナー・清水昭俊・ハルミ ベフ・中牧弘允・クリストフ・アントワイラー・中生勝美・小長谷有紀・全京秀・小山修三・秋道智彌
- 37) 『保元・平治の乱と平氏の栄華』
 出版社：清文堂 2014 年 412 ページ
 著者：佐藤健治・佐古愛己・横内裕人・守田逸人・須藤聡・久野修義・栗林文夫・高橋典幸・樋口健太郎・木村真美子・元木泰雄・近藤好和・川合康・栗山圭子・松蘭斉・佐伯智広・平藤幸
- 38) 『GLOCOL ブックレット 16 モンゴルの食と生業の現在』
 出版社：大阪大学グローバルコラボレーションセンター 2014 年 91 ページ
 著者：思沁夫・宝花・アラ坦宝力格・S.ビャンバドルジ・J.バザルスレン・T.エルデネヒシグ・胡格吉楽図・達古拉・岸本紗也加
- 39) 『開発か伝統か、それとも... ―技術者のための「エスノグラフィー」―』（原文モンゴル語）

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

出版社：ソヨンド・ブリチング出版社（ウランバートル） 2014 年 197 ページ
著者：思沁夫（監修）

40) 『ごいし民俗誌』

出版社：（独）東京文化財研究所無形文化遺産部 2014 年 56 ページ
著者：今石みぎわ・鈴木清・俵木悟・森本孝

41) 『日本のコモンズ思想』

出版社：岩波書店 2014 年 270 ページ
著者：秋道智彌・野本寛一・田口洋美・湯本貴和・家中茂・榎澤能生・井原今朝男・佐野静代・伊藤康宏・佐藤仁・佐藤哲・牧野光琢・桑子敏雄

42) 『講座東北の歴史 第3巻 境界と自他の認識』

出版社：清文堂出版 2013 年 341 ページ
著者：入間田宣夫（監修）、辻秀人・吉田敏・高橋充・籠橋俊光・鯨井千佐登・田島昇・佐々木秀之・中武敏彦・大湯卓二・熊谷公男（編著者）・柳原敏昭（編著者）・河西英通・山田仁史

43) 『講座東北の歴史 第6巻 生と死』

出版社：清文堂出版 2013 年 315 ページ
著者：入間田宣夫（監修）、鈴木由利子・榎陽介・佐藤和賀子・蝦名裕一・柳谷慶子・藤沢敦・田中則和（編著者）・中川学・待井扶美子・鈴木岩弓（編著者）・佐藤雅也・澤村美幸

44) 『平泉の政治と仏教』

出版社：高志書院 2013 年 349 ページ
著者：入間田宣夫

45) 『暮らしの伝承知を探る』

出版社：玉川大学出版部 2013 年 220 ページ
著者：野本寛一・赤坂憲雄・小川直之・川島秀一・柴田昌平・北尾浩一・宮本八恵子・山崎彩香・鈴木正崇

46) 『生存の東北史—歴史から問う 3・11』

出版社：大月書店 2013 年 307 ページ
著者：岡田知弘・河西英通・川内淳史・高岡裕之・大門正克・川島秀一・清水敏也・徳水博志・安倍甲

47) 『地名は警告する 日本の災害と地名』

出版社：富山房インターナショナル 2013 年 281 ページ
著者：谷川健一・川島秀一・太宰幸子・山本修平・谷川彰英・柴田弘武・澤口宏・滝澤主税・中根洋治・長谷川勲・三石学・向井弘晏・田中弘倫・桑原康宏・伊藤彰・藤吉洸・福田晴男・砂川哲雄

48) 『地方史・民衆史の継承—林史学から受け継ぐ—』

出版社：芙蓉書房出版 2013 年 262 ページ
著者：秋山伸一・藤井智鶴・藤井智鶴・村井早苗・阿部知博・村井文彦・菊池勇夫（編著者）・鈴木靖・安岡憲彦

49) 『アイヌと松前の政治文化論—境界と民族』

出版社：校倉書房 2013 年 430 ページ
著者：菊池勇夫

50) 『人類の移動誌』

出版社：臨川書店 2013 年 371 ページ
著者：海部陽介・木村亮介・山極壽一・赤澤威・池谷和信・斎藤成也・佐々木史郎・野林厚志・海部陽介・松本直子・小林青樹・石田肇・高宮広土・関雄二・篠田謙一・印東道子・須田一弘・菊澤律子・松村博文・米田穰・徳永勝土・米田穰

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 51) 『環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究 北海道大学総合博物館研究報告第 6 号』
 出版社：北海道大学総合博物館 2013 年 144 ページ
 著者：Tetsuya Amano, Hideo Akanuma, Artur V. Kharinskiy, 菊池俊彦, Yury G. Nikitin、関口明・中村和之・森岡健治・竹内孝・三宅俊彦・佐々木史郎・増田隆一・石田肇・松枝大治・ヴァヂム A. チモーヒン
- 52) 『生活と文化の歴史学 2 年中行事・神事・仏事』
 出版社：竹林舎 2013 年 597 ページ
 著者：遠藤基郎・小原嘉記・苅米一志・菌部寿樹・関周一・中澤克昭・藤森馨・横井靖仁・岡野浩二・原田正俊・西弥生・高山京子・白根陽子・佐藤健治・菅原正子・遠藤珠紀・清水亮・小瀬玄士・大日方克己・斎木涼子・遠藤基郎・桃崎有一郎・赤澤彦彦
- 53) 『週刊 新発見!日本の歴史 18 (平安時代 6)』
 出版社：朝日新聞出版 2013 年 39 ページ
 著者：元木泰雄・山田邦和・野口実・三浦正幸・佐藤健治・美川圭・植木朝子・須藤宏・佐古愛己・増記隆介・綿貫友子・高橋秀樹
- 54) 『第 4 回 地域学シンポジウム報告書 平成 24 年度地域学創出プロジェクト報告書 〈地域学〉への提言』
 出版社：佐賀大学地域学歴史文化研究センター地域学創出プロジェクト 2013 年 179 ページ
 著者：板垣雄三・上山和雄・青木歳幸・田口洋美・柳原邦光・長野暹・安達裕之・成富直行・前田達男・野口朋隆・七多忠昭・三島伸雄・古賀弘毅・生馬寛信
- 55) 『ユーラシア乾燥地域の農耕民と牧畜民』
 出版社：六一書房 2013 年 192 ページ
 著者：思沁夫・三宅裕・平田昌弘・宮脇淳子・堀岡晴美・西秋良宏・門脇誠二・長谷川敦章・久米正吾・赤司千恵・足立拓朗・藤井純夫
- 56) 『ツェブルワンチグドルジの経典(オブルハンガイ県の自然環境と人間関係に関する部分)解説とその解説』
 出版社：モンゴル国国立佛教大学 2013 年 155 ページ
 著者：思沁夫・ポンブドルジェ
- 57) 『環境の日本史 5 自然利用と破壊—近現代と民俗』
 出版社：吉川弘文館 2013 年 292 ページ
 著者：鳥越皓之・山室敦嗣・安田常雄・鳥越皓之・高橋美貴・佐野静代・牧野厚史・菅豊・安室知・金子祥之・山泰幸・原山浩介
- 58) 『飛鳥学叢書 飛鳥の磯と海』
 出版社：とびしま漁村文化研究会 2013 年 69 ページ
 著者：岸本誠司 (編著)、松本友哉・小川ひかり (編)、森本孝・本間又右衛門
- 59) 『私の日本地図 13 萩付近』
 出版社：未来社 2013 年 294 ページ
 著者：香月洋一郎 (編)、森本孝 (解説)、宮本常一
- 60) 『宮本常一離島論集別巻』
 出版社：みずのわ出版 2013 年 215 ページ
 著者：宮本常一・森本孝・高木泰伸・大矢内生気
- 61) 『男鹿のえぐり舟他三編 新無名の日本人双書 3』
 出版社：無名の日本人双書刊行会 2013 年 44 ページ
 著者：森本孝

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

62) 『北から生まれた中世日本』

出版社：高志書院 2012 年 289 ページ

著者：安斎正人（監修）、入間田宣夫（監修・著）、小口雅史・松本建速・飯村均・八木光則・高橋学・横山英介・小川弘和・八重樫忠郎・蓑島栄紀・瀬川拓郎・高梨修

63) 『講座東北の歴史 第1巻 争いと人の移動』

出版社：清文堂出版 2012 年 352 ページ

著者：入間田宣夫（監修）、鈴木拓也・太田秀春・林進一郎・栗原伸一郎・安達宏昭（編著者）・長島榮一・七海雅人・菅野正道・J・F・モリス・青柳周一・堀田幸義・岩本由輝・河西晃祐（編著者）

64) 『講座東北の歴史 第4巻 交通と環境』

出版社：清文堂出版 2012 年 356 ページ

著者：入間田宣夫（監修）、永田英明・佐藤正人・斎藤善之（編著者）・高橋陽一・佐藤大介・徳竹剛・斎野裕彦・川島秀一・菊池勇夫（編著者）・竹原万雄・高橋美貴・勝亦浩之・伊藤大介

65) 『津波のまちに生きて』

出版社：富山房インターナショナル 2012 年 245 ページ

著者：川島秀一

66) 『東北から考える近世史—環境・災害・食料、そして東北史像—』

出版社：清文堂出版 2012 年 359 ページ

著者：菊池勇夫

67) 『景観から未来へ 東アジア内海文化圏の景観史と環境 3』

出版社：昭和堂 2012 年 291 ページ

著者：内山純蔵・カティ リンドストロム・洪性翕・セルゲイ・トカチェフ・高宮広土・楨林啓介・深澤百合子・飯田卓・楊平・中村大・佐々木史郎・中島経夫

68) 『極寒のシベリアに生きる—トナカイと氷と先住民』

出版社：新泉社 2012 年 272 ページ

著者：高倉浩樹・佐々木史郎・中田篤・藤原潤子・檜山哲哉・吉田睦・池田透・奥村誠・永山ゆかり・山田仁史

69) 『あるくみるきく双書 宮本常一とあるいた昭和の日本 第22巻 けもの風土記』

出版社：農産漁村文化協会 2012 年 222 ページ

著者：田村善次郎・宮本千晴・宮本常一・小林淳・村崎義正・須藤功・田熊秋人・田口洋美

70) 『新・秋山記行』

出版社：高志書院 2012 年 245 ページ

著者：白水智・佐々木明彦・井上卓哉・関戸明子・寺島宏貴・辻野亮・田口洋美・中澤克昭・荒垣恒明・小山泰弘・鈴木努・柴崎啓太

71) 『記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産』

出版社：千里文化財団 2012 年 186 ページ

著者：日高真吾・川島秀一・森本孝・小谷竜介・橋本裕之・岡田健・加藤幸治・青木睦・小池淳一・平川新・林 勲男・吉田憲司・西岡圭司

地域資源活用研究

1) 『写真集 空から見た東北』

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年、189 ページ

著者：田口洋美・蛭原一平・川島秀一・小川ひかり・森本孝・村上一馬・竹原万雄（執筆者）、田口洋美・蛭原一平（撮影）、田口洋美・蛭原一平・森本孝（編集スタッフ）、田口洋美（企画）

2) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞14 養蚕と紙漉きの記録 白鷹町深山・萩野』 *8

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年 47 ページ

著者：守谷英一・清野翔子・高橋明日香・五十嵐里帆・三浦敦美・守屋日向・阿部詩織・安部利映・

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

猪俣愛生・小野寺陸・佐藤優香・須賀光太郎（調査・制作メンバー）、田口洋美（監修）、鈴木清（調査・製図指導）、蛭原一平（調査・編集指導）、佐藤未希・竹原万雄（編集指導）

3) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞13 大鳥』 ＊9

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2017 年 51 ページ

著者：蛭原一平・本間かりん・浅野友理子・三浦敦美・榎麗・清野翔子・柳澤もも・守屋日向・村上輔・佐藤優香（制作スタッフ）、五十嵐里帆・小関美紗・後藤陸・佐竹祐亮（古文書整理）、田口洋美（監修）、蛭原一平（調査指導、執筆）、浅野友理子（調査・編集指導、執筆）、佐藤未希・竹原万雄（編集指導）

4) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞12 鮎立』 ＊10

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2016 年 52 ページ

著者：鈴木彩也花・菊池駿貴・島貫ひより・千葉夏海・五十嵐里帆・佐藤駿・三浦敦美・守屋日向（制作スタッフ）、本間かりん（製作スタッフ、レイアウト・デザイン）、田口洋美（監修）、川島秀一（調査指導、執筆）、鈴木清（調査・製図・編集指導、執筆）、中村只吾（調査・編集指導、執筆）、佐藤未希（調査・編集指導、執筆）、蛭原一平・竹原万雄・井筒桃子（編集指導）

5) 『ブックレット＜むらの記憶＞2 下北半島野平 写真に見る戦後開拓村のあゆみ』 ＊11

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年 55 ページ

著者：蛭原一平（執筆者、編集責任）、鈴木清・森本孝（執筆者）、中村只吾・佐藤未希・高橋果子（編集スタッフ）、田口洋美（監修）

6) 『日向洞窟遺跡の発掘記録―第 1 次発掘調査報告書―』

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2015 年、74 ページ

著者：長井謙治（執筆者、編集者）、亀山絵莉香・千尋美紀・石塚隆弥・渡邊みなみ・徳永司・塚野聡史・須貝慎吾・上田優喜・渋谷孝雄・佐々木繁喜・納屋内高史・大森貴之、パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（執筆者）

7) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞11 本寺 山間に息づくむらの暮らし』 ＊12

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 59 ページ

著者：本間かりん・小座間雅子・櫻庭千晃・須貝慎吾・鈴木彩也花・高橋佳帆里・高橋裕子・瀧口友香・塚野聡史・檜野泰巳・星雪音・本間結希乃・菅沼伸輝・早川由希子・三好明日美・佐藤未希（制作スタッフ）、田口洋美・入間田宣夫（監修）、蛭原一平・竹原万雄・中村只吾（編集指導）

8) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞10 瀧山川―石碑と信仰』 ＊13

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 51 ページ

著者：三好明日美・斎藤康雄・菅村朋生・荒井翔・藤井渉・伊藤光敏・森川遼・生井光成・阿部千裕・佐藤大志・佐藤大夢・森田真生・千葉夏海・色摩優吾・藤原夏織・高木香奈（制作スタッフ）、田口洋美（監修）、佐藤健治（調査指導）、中村只吾（編集指導）

9) 『＜東北一万年のフィールドワーク＞9 阿仁根子』 ＊14

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 51 ページ

著者：佐竹美香・島貫ひより・三浦眞紀子・鈴木彩也花・高橋果子・高橋佳帆里・高橋裕子・小松諒・丹野ゆきほ・藤井渉・川崎那悠・鈴木里佳・成澤翔太・田中望・佐藤未希（制作スタッフ）、田口洋美（調査指導・監修）、鈴木清（調査・製図指導）、蛭原一平・中村只吾（編集指導）

10) 『ブックレット＜むらの記憶＞1 小々汐仁屋の年中行事』 ＊15

出版社：東北芸術工科大学東北文化研究センター 2014 年 56 ページ

著者：川島秀一・蛭原一平（編集レイアウト）、高橋佳帆里・佐藤未希・中村只吾（編集協力）、田口洋美（監修）

＜学会発表＞

◎原則として発表者名、発表標題名、学会名、開催地、発表年月の順で記載したが、海外発表はその限りではない。

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

環境史研究

- 1) 佐藤宏之・夏木大吾、「東・北東アジアにおける土器出現期研究の現状」、『2016 年度北海道旧石器文化研究会』、北海道大学、2017 年 3 月
- 2) 夏木大吾・太田圭・増子義彬・青木要佑・熊木俊朗・佐藤宏之・國木田大・本吉春雄、「2016 年度遠軽町タチカルシュナイ M-1 地点の調査成果と展望」、『2016 年度北海道旧石器文化研究会』、北海道大学、2017 年 3 月
- 3) 夏木大吾・山田哲・中村雄紀・廣松晃一・吉留平・太田圭・増子義彬・佐藤宏之・熊木俊朗、「北海道北見市吉井沢遺跡第 10 次発掘調査」、『第 18 回北アジア調査研究報告会』、札幌学院大学、2017 年 2 月
- 4) 長井謙治、「日向洞窟遺跡発掘調査の概要—2016 年度発掘調査—」、『第 30 回東北日本の旧石器文化を語る会』、東北大学川内南キャンパス、2016 年 12 月（ポスターセッション）
- 5) 長井謙治、「東北日本における旧石器時代・縄文時代移行期の研究—日向洞窟発掘 50 年を経て—」、『第 30 回東北日本の旧石器文化を語る会』、東北大学川内南キャンパス、2016 年 12 月
- 6) 小林圭一、「小山崎遺跡に対するコメント—吹浦遺跡の分析を中心として—」、『平成 28 年度 山形考古学会研究大会（遊佐大会）』、山形県遊佐町、2016 年 10 月
- 7) 小林圭一、「講演：高瀬山遺跡の水場遺構と植物利用」、『第 18 期考古学セミナー 縄文時代の植物利用』、山形県立うきたむ考古資料館（山形県高島町）、2016 年 10 月
- 8) Sato, H. 「Recent advances of the Japanese Lower and Middle Paleolithic research.」、『International Workshop, Paleolithic of Vietnam in a regional context, Gia Lai, Vietnam, 2016』、Pleiku city, Gia Lai Province, Vietnam、2016 年 10 月
- 9) Atsushi Noguch, Hiroyuki Sato, Jun'ichi Nagasaki, Ravi Korisettar、「The origin of beads making of South Asia: technological reassessment of beads from Jwalapuram 9, Andhra Pradesh, South India」、『第 8 回世界考古学会議京都大会』、同志社大学、2016 年 8 月
- 10) Sato, H. 「Obsidian procurement and circulation in Upper Paleolithic Hokkaido, northern Japan」、『Interantional Symposuim: The Archaeology of obsidian and flint』、Thetford, England、2016 年 7 月
- 11) Sato, H. 「Pleistocene to Holocene archaeology in the Japanese Archipelago」、『21th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbors, Laramie, Wyoming, USA』、University of Wyoming、2016 年 7 月
- 12) 小林圭一、「講演：縄文後半期の土偶と集落」、『考古学講座—やまがたの土偶—』、山形県立博物館（山形県山形市）、2016 年 2 月
- 13) 夏木大吾・山田哲・中村雄紀・廣松晃一・吉留頌平・尾田識好・佐藤宏之・熊木俊朗・小澤太一・木ノ内忍・ナタリア・ツィデノバ、「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果(第 9 次)」、『第 17 回北アジア調査研究報告会』、石川県立博物館、2016 年 2 月
- 14) 長井謙治、「日向洞窟遺跡跡」、『平成 28 年度 山形考古学会第 85 回大会 考古資料検討会』、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室、2016 年 2 月
- 15) 長井謙治、「大谷地周辺に立地する縄文時代草創期の遺跡」、『第 X 期うきたむ学講座（2015 年度）：大谷地とその周辺の自然と歴史を考える』、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室、2016 年 1 月
- 16) 小林圭一、「押出遺跡における縄文前期遺跡の接触・交流」、『縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

交流』、山形県南陽市、2015 年 11 月

- 17) 夏木大吾・佐藤宏之、「“Invisible hearths and restoring human behavior: high resolution archaeological analysis at the Yoshiizawa Site of Northern Japan”」、『20th International Symposium (Part 2): Suyanggae and Her Neighbours in Korea』、韓国忠北学校、2015 年 11 月
- 18) 福田正宏・Grischenko V.A.・大貫静夫・Vasilevski A.A.・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・Gorshkov M.V.・Shipovalov A.M.・Gabrilchuk M.A.・森先一貴・内田和典・夏木大吾・Shevkomud I.Ya.、「環日本海北回廊の考古学的研究-到達点と今後の課題-」、『日本シベリア学会第 1 回研究大会』、北海道大学、2015 年 11 月
- 19) 佐藤宏之、「日本列島の陥し穴猟: 世界最古の罾猟」、『第 69 回日本人類学会大会シンポジウム 日本列島における後期旧石器時代研究の最前線』、産業総合技術研究所臨海副都心センター、2015 年 10 月
- 20) 小林圭一、「講演: 最上川中流域の縄文集落」、『「山形学」地域連携西村山地域史研究会市民講座 山形の歴史を学ぶ』、山形県寒河江市、2015 年 8 月
- 21) 夏木大吾・佐藤宏之・山田哲、「炉周辺の人間活動と遺跡構造の関係性-北海道北見市吉井沢遺跡の事例より-」、『北海道旧石器文化研究会』、北海道大学、2015 年 6 月
- 22) 海部陽介・佐藤宏之、「日本列島の陥し穴猟-世界最古の罾猟と定着的生業システム-」、『日本考古学協会第 81 回総会 日本列島における現生人類(Homo sapiens)出現研究の最前線』、帝京大学、2015 年 5 月
- 23) 佐藤宏之、「鈴木遺跡と日本の旧石器時代研究」、『平成 26 年度東京都遺跡調査・研究発表会』、ルネ小平、2015 年 2 月
- 24) 福田正宏・グリシェンコ, V.・ワシレフスキー, A.A.・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・ペレグドフ, A.・内田和典・森先 一貴・役重 みゆき・夏木 大吾・山下 優介、「サハリン中部アドティモボ遺跡群の考古学的調査 (2014 年度)」、『第 16 回北アジア調査研究報告会』、東京大学、2015 年 2 月
- 25) 長井謙治、「日向洞窟遺跡跡」、『平成 25 年度 山形考古学会第 84 回大会 考古資料検討会』、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室、2015 年 2 月
- 26) 長井謙治、「日向洞窟遺跡の研究」、『考古学研究発表会』、遊学館、2015 年 2 月
- 27) 長井謙治、「日向洞窟遺跡—2014 年度発掘調査—」、『第 28 回東北日本の旧石器文化を語る会』、東北芸術工科大学本館 301 号室、2015 年 2 月
- 28) 佐藤宏之、「クイーン・シャーロット諸島の民族考古学-北米北西海岸ハイダ族の世界と環境』、『平成 26 年度是川縄文館考古学講座』、是川縄文館、2014 年 7 月
- 29) 佐藤宏之、「講演: 北海道の後期旧石器時代における黒曜石産地の開発と黒曜石の流通」、『第 12 回日本旧石器学会総会』、小平市市民文化会館、2014 年 6 月
- 30) 「Session: Starting Over Again: the Early Palaeolithic Research in Japan Today.」、Organized by Ikawa-smith Fumiko and Hiroyuki Sato, 『6th World Congress of SEAA in Ulaanbaatar, Mogolia』、National University of Mongolia、2014 年 6 月
- 31) Sato, H., H. Hagiwara and K. Shiozuka, 「The lithic assemblages of the Iriguchi Site, Nagasaki Prefecture, northern Kyushu」、『6th World Congress of SEAA in Ulaanbaatar, Mogolia』、National University of Mongolia、2014 年 6 月
- 32) Sato, H. 「Comment: Recent researches on the Japanese Early Palaeolithic.」、『6th World

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

Congress of SEAA in Ulaanbaatar, Mogolia』、National University of Mongolia、2014 年 6 月

- 33) 長井謙治・井田秀和・菊池強一・徳永司、「日向洞窟遺跡における水洗選別資料の分析と堆積構造の検討」、『考古学研究会第 60 回総会・研究集会ポスターセッション』、岡山大学、2014 年 4 月
- 34) 小林圭一、「合掌土偶の編年的位置について」、『第 11 回土偶研究会』、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、2014 年 3 月
- 35) 佐藤宏之・山田哲・夏木大吾・役重みゆき・尾田識好・高鹿哲大、「北海道北見市吉井沢遺跡の発掘調査」、『第 15 回北アジア調査研究報告会』、札幌学院大学、2014 年 3 月
- 36) 夏木大吾・ワシリフスキー,A.・大貫静夫・佐藤宏之・グリシェンコ,V.・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・バシエンツェフ,P・モジャエフ,A・森先一貴・ペレグドフ,A・役重みゆき・高鹿哲大・ルシカ,G.、「2013 年度スラブナヤ 5 遺跡発掘調査報告」、『第 15 回北アジア調査研究報告会』、札幌学院大学、2014 年 3 月
- 37) 福田正宏・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・垣内彰吾・久我谷溪太・西村広経・高鹿哲大・熊木俊朗・辻誠一郎・森先一貴、「北海道湧別市川遺跡の発掘調査」、『第 15 回北アジア調査研究報告会』、札幌学院大学、2014 年 3 月
- 38) 小林圭一、「講演：東北に栄えた亀ヶ岡文化と山形県内の晩期遺跡」、『山形縄文フォーラム（主催：放送大学山形学習センター）』、霞城セントラル（山形市）、2014 年 2 月
- 39) 山田哲・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大・尾田識好、「北海道北見市吉井沢遺跡 2013 年度発掘調査」、『第 27 回東北日本の旧石器文化を語る会』、北海道大学、2014 年 2 月
- 40) 長井謙治、「高島町日向洞窟遺跡の発掘調査」、『第 27 回東北日本の旧石器文化を語る会』、北海道大学、2014 年 2 月
- 41) 長井謙治、「日向洞窟西地区遺跡」、『平成 25 年度 山形考古学会第 83 回大会 考古資料検討会』、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館、2014 年 2 月
- 42) 佐藤宏之、「Keynote Speech : Recent advances of the Japanese Paleolithic archaeology」、『International Workshop in Sakhalin 2013 “Study on adaptive strategy and interaction scenarios of the human communication in the island world of the prehistoric North-East Asia”』、サハリン国立大学博物館、2013 年 12 月
- 43) M. Fukuda. 「The Neolithic cultural contact and human adaptation between theContinent and Island regions」、『International Workshop in Sakhalin, 2013: Study on adaptive strategy and interaction scenarios of the human communities in the island world of theprehistoric North-East Asia. (Organaized by University Museum of Archaeology and Ethnology, Sakhalin State University and Department of Archaeology, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo. Sakhalin State University)』、Yuzhno-Sakhalinsk, Russia.2013 年 12 月
- 44) 佐藤宏之、「関東地方における石器石材利用の時期別動向と地域性」、『第 30 回中・四国旧石器文化談話会 30 周年記念シンポジウム「石器石材と旧石器社会」』、岡山大学、2013 年 11 月
- 45) 佐藤宏之、「講演：日本列島にきた人たち-考古学的観点から-」、『日本人類学会公開講演会』、つくば市国際会議場、2013 年 11 月
- 46) 小林圭一、「講演：縄文前期の社会を考えるー山形県内の遺跡の分析を通してー」、『第 3 回ふるさと考古学セミナー（主催：秋田県埋蔵文化財センター）』、能代市中央公民館、2013 年 10 月
- 47) 小林圭一、「講演：山形県最上川水系の縄文集落について」、『平成 25 年度縄文文化大学講座（主催：尖石縄文考古館主催）』、尖石縄文考古館（茅野市）、2013 年 10 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 48) 佐藤宏之、「稜柱系細石刃石器群の生成プロセスの展望: 荒川台型細石刃石器群を中心として」、『公開シンポジウム「日本列島における細石刃石器群の起源」』、浅間縄文ミュージアム、2013 年 9 月
- 49) Sano, K., S. Kadowaki, M. Naganuma, Y. Kondo, K. Shimogama, K. Nagai, H. Nakata, T. Omori, M. Yoneda, H. Kato, A. Ono, O. Jöris, Y. Nishiaki 「Modern Human Dispersal into Eurasia: Preliminary Results of the Multi-Disciplinary Project on the Replacement of Neanderthals by Modern Humans」、『 3rd Annual Meeting of European Society for the study of Human Evolution (ESHE)』、Vienna, Austria、2013 年 9 月
- 50) 佐藤宏之 (座長)・役重みゆき、「Shirataki obsidian exploitation and circulation in prehistoric Northern Japan」、『International Symposium “Series Written in Stones”, International Symposium on Chert and other Knappable Materials』、ルーマニア国 Iasi 市 Alexandru Ioan Cuza University of Iasi、2013 年 8 月
- 51) 佐藤宏之 (座長)・佐野恭平・和田恵治・出穂雅実・向井正幸、「Geological and geochemical study in Shirataki obsidian lava complex, Northern Hokkaido, Japan」、『International Symposium “Series Written in Stones”, International Symposium on Chert and other Knappable Materials』、ルーマニア国 Iasi 市 Alexandru Ioan Cuza University of Iasi、2013 年 8 月
- 52) 小林圭一、「講演：縄文時代後半期の発掘調査の成果」、『第 15 期考古学セミナー 山形古代史発掘と埋蔵文化財保護 40 年 (主催：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館)』、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 (高島町)、2013 年 7 月
- 53) 佐藤宏之 (座長)・森先一貴、「Lithic technological and human behavioral diversity before and during Late Glacial: A Japanese case study」、『International Symposium “Commemoration of the 90th Anniversary of the Discovery of Shuidonggou, and the 6th Annual Meeting of Asian Paleolithic Association, and the 18th Symposium of Suyanggae and Her Neighbors”』、銀川(中国)、2013 年 6 月
- 54) 佐藤宏之、「趣旨説明・特別委員会報告」、『日本考古学協会第 79 回総会、東日本大震災特別委員会セッション「東日本大震災と埋蔵文化財-レスキュー・復興調査-」』、駒沢大学、2013 年 5 月
- 55) 長井謙治、Sannai Maruyama's Site Management, Japan: Several Concerns and Features. Site Museum and Heritage Education for Preservation of the Archaeological Site: The 5th International Workshop of Heritage Education and Site Preservation for Commemorating the 21st Chongokni Paleolithic Festival (International Workshop of Heritage Education and Site Preservation, 2013.). Institute of East Asian Archaeology. Chongokni. 2013 年 5 月
- 56) Morisaki, K., M. Izuho, H. Sato、「Human responses to the environmental change of the Pleistocene-Holocene transition in the Japanese Archipelago」、『Symposium in The Society for American Archaeology, 78th annual meeting 'lithic technological organization and paleoenvironmental change'』、Hawaii convention center, Honolulu, Hawaii、2013 年 4 月
- 57) Kondo, Y., S. Kadowaki, K. Sano, M. Naganuma, K. Nagai, K. Shimogama, H. Kato, A. Ono, Y. Nishiaki, Recent progress of the 'Replacement of Neanderthals by Modern Humans' lithic industry database. The 41st Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology: ACROSS SPACE AND TIME Conference, CAA 2013. The University Club of Western Australia, Perth. 2013 年 3 月
- 58) 佐藤宏之、「黒竜江省赫哲族の民族考古学的調査」、『第 14 回北アジア調査研究報告会』、石川県立博物館、2013 年 2 月
- 59) 西村広経・福田正宏・大澤正吾・林正之・垣内彰悟・安室一・高鹿哲大・中門亮太・富樫那美・安斎正人、「山形県大江町長畑遺跡の調査」、『第 14 回北アジア調査研究報告会』、石川県立博物館、2013 年 2 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 60) 小林圭一、「水場と木組遺構を考える 高瀬山遺跡」、『縄文時代の資源利用－民俗学と考古学から見た堅果類の利用及び水場遺構－（主催：縄文時代の資源利用研究会）』、明治大学、2012 年 12 月
- 61) 小林圭一、「最上川流域の縄文集落」、『埼玉県埋蔵文化財調査事業団 職員研修（主催：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団）』、埼玉県埋蔵文化財調査事業団（熊谷市）、2012 年 11 月
- 62) Miura, N., K. Nagai, M. Yamazaki, Y. Yoshida, H. C. Tanabe, T. Akazawa and N. Sadato, Brain Activation Related to the Imitative Learning of Bodily Actions Observed during the Construction of a Mousterian Stone Tool: A Functional Magnetic Resonance Imaging Study. Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning. International Conference on the RNMH Project. Tokyo: RNMH Project Group. 2012 年 11 月
- 63) Hoshino, Y., N. Miura and K. Nagai, Motion Analysis for Stone-Knapping of the Skilled Levallois Technique. Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning. International Conference on the RNMH Project. Tokyo: RNMH Project Group. 2012 年 11 月
- 64) 役重みゆき・佐藤宏之、「Obsidian exploitation and circulation in Late Pleistocene Hokkaido」、『Interantional Symposium “Lithic Raw Material Exploitation and Circulation in Prehistory: a Comparative Perspective in Diverse Paleoenvironment”』、明治大学、2012 年 10 月
- 65) 佐藤宏之、「講演：ユーラシア東部における後期旧石器時代の成立」、『明治大学博物館公開講座』、明治大学博物館、2012 年 10 月
- 66) 佐藤宏之、「講演：先史時代の物流ネットワーク」、『第 116 回(平成 24 年度秋期)東京大学公開講座』、東京大学安田講堂、2012 年 10 月
- 67) 長井謙治、「旧人・新人の石器づくり：その心に迫る」、『第三回交替劇プロジェクト公開講座「旧人と新人のものの作りとその心」』、慶應義塾大学、2012 年 9 月
- 68) 佐藤宏之、「環日本海北部地域の旧石器文化」、『第 20 回「環オホーツク海文化のつどい」』、紋別市文化会館、2012 年 8 月
- 69) 山田哲・出穂雅実・佐藤宏之、「Intrasite variability of Oshorokko microblade industry in Yoshiizawa site in Hokkaido, northern Japan」、『The 5th Annual Meeting of the Asian Paleolithic Association and the Interantional Symposium “Suyanggae and her Neighbors in Ancient Time”』、クラスノヤルスク国立大学（ロシア）、2012 年 7 月
- 70) 長井謙治、East Asian Lithic Technology and Its Similarities Before the Early OIS 3: Obtuse Angled Flaking Techniques as a Technological Marker. 5th Annual Meeting of the Asian Paleolithic Association and the 17th International Symposium “Suyanggae and Her Neighbors in KURTAK”. Krasnoyarsk: Krasnoyarsk State Pedagogical University. 2012 年 7 月
- 71) 佐藤宏之、「記念講演：環日本海北部地域における後期旧石器時代の環境変動と生業適応」、『石器文化研究会総会』、明治大学博物館、2012 年 6 月
- 72) 佐藤宏之、「講演：Recent Advances of Paleolithic Archaeology in Japan」、『The 5th World Conference of the Society for East Asian Archaeology』、九州大学西新プラザ、2012 年 6 月
- 73) 長井謙治、「韓国後期旧石器時代の編年的試み - 炭素 14 年代からみた石器製作伝統の変遷 - 」、『日本旧石器学会第十回講演・研究発表・シンポジウム』、奈良文化財研究所、2012 年 6 月
- 74) 長井謙治、「講演：石器づくりの実験考古学 - 身ぶりと痕跡 - 」、『論理と感性のグローバル研究センター キックオフシンポジウム〈今、人間の論理と感性を考える〉』、慶應義塾大学、2012 年 6 月
- 75) Shevkomud・大貫静夫・森先一貴・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・Koshityna・Gorshkov・

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

Bochkareva・尾田識好・夏木大吾・大澤正吾・内田和典・Mochanov・佐藤宏之、「アムール下流域
コンドン 1 遺跡の調査-更新世/完新世移行期の石器群-」、『日本考古学協会第 78 回総会』、立正大学、
2012 年 5 月

地域比較研究

- 1) 謝黎、「マレーシア華人女性の衣生活にみるファッション性と政治性—サラワク州シブ市華人社会
を事例として」、『国際服飾学会第 36 回大会』、昭和女子大学、2017 年 4 月
- 2) 中村只吾、「漁村秩序の近世的特質と自然資源・環境」、『歴史学研究会近世史部会 第 2 回大会準
備報告会』、東京大学、2017 年 4 月
- 3) 中村只吾、「漁村秩序の近世的特質と自然資源・環境」、『歴史学研究会近世史部会 第 1 回大会準
備報告会』、東京大学、2017 年 3 月
- 4) 田口洋美、「マタギは何をする人ぞ—東北の野生動物と狩猟文化—」、『平成28年度 秋田県ジオ
パーク連絡協議会 ガイド共通講座 in 飛島GP』、由利本荘市、2017年2月
- 5) 田口洋美、「近現代における丸木舟製作とその利活用」、『3 万年前の航海：徹底再現プロジェクト』、
国立科学博物館、2017 年 1 月
- 6) Taguchi, H. Current maturity of Matagi and Japanese Black Bear : Attempt of Matagi Summit.
“Tradition in Search of a Rationale: The Future of Hunting in Japan and North America” Center
for Asian and Pacific Studies, Iowa University. Iowa. 2016 年 12 月
- 7) Taguchi, H. Current maturity of Matagi and Japanese Black Bear : Attempt of Matagi
Summit.“Tradition in Search of a Rationale: Great Lakes Indian Fisheries and Wildlife
Commission (GLIFWC) . Wisconsin. 2016年12月
- 8) 田口洋美、「狩猟技術の地域適応と地形の関わり」、『第 14 回山岳文化学会シンポジウム』、東京慈
恵会医科大学、2016 年 11 月
- 9) 田口洋美、「人とツキノワグマの関わり—最近のクマ事情—」、(共同開催)『平成 28 年度山形県野生
動物研修会』・『平成 28 年度山形県獣医師会野生動物講習会』、協同の杜 JA 研修所 (山形)、2016 年
11 月
- 10) 中村只吾、「海辺集落の生活文化と災害—鮎立の歴史を中心に—」、『第 15 回防災文化講演会』、気
仙沼市中央公民館、2016 年 11 月
- 11) 川島秀一、「年中行事のなかの災害の記憶」、『日本災害復興学会大会』、石巻専修大学、2016 年 10
月
- 12) 田口洋美、「熊と里山 —マタギの自然観に学ぶ—」、『第 9 回 山形市文化遺産塾 公開講座』、山
形まなび館 (山形)、2016 年 10 月
- 13) 田口洋美、「アイヌとマタギ—クマを崇めクマを狩る人々—」、『平成 28 年度アイヌ文化普及啓発セ
ミナー』、アイヌ文化交流センター (東京)、2016 年 8 月
- 14) 田口洋美、「秋山郷と秋田マタギ」、第 27 回『ブナ林と狩人の会：マタギサミット in さかえ』

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

(主催)：第 27 回『ブナ林と狩人の会：マタギサミット in さかえ』実行委員会、栄村役場「かたくり」ホール、2016 年 8 月 15) 中村只吾、「近世飛島の社会環境と海域—島外との関係から考える」、『第 39 回北陸都市史学会富山大会』、富山大学、2016 年 8 月 16) 謝黎、「Women in Shanghai: Changing sense of beauty and views of makeup」、『第 31 回国際心理学会議 2016 シンポジウム』、パシフィコ横浜、2016 年 7 月 17) 田口洋美、「アイヌとマタギークマを崇めクマを狩る人々」、『平成 28 年度アイヌ文化普及啓発セミナー』、東北芸術工科大学、2016 年 7 月 18) 田口洋美、「アイヌとマタギークマを崇めクマを狩る人々」、『平成 28 年度アイヌ文化普及啓発セミナー』、2・7 (札幌市中央区北 2 条西 7 丁目) 5 階 520 研修室、2016 年 7 月 19) 川島秀一、「年中行事から考える博物館の災害展示」、『第 50 回日本文化人類学会』、南山大学、2016 年 5 月 20) 謝黎、「マレーシア華人にとって 旗袍(チャイナドレス) とは何か?—サラワク州シブ市の華人社会を事例として—」、『国際服飾学会第 35 回大会』、大阪女子短期大学グリーンホール、2016 年 4 月 21) 謝黎、「中国社会における日中韓欧化粧品の特徴と問題点」、株式会社資生堂ビューティークリエーション研究所、2016 年 2 月 22) 田口洋美、「生き方としての狩人—マタギに見る自然と暮らし—」、『里地里山学講座⑩』、鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」、2016 年 2 月 23) <u>Taguchi, H.</u> and M. Takahashi. Hunteres'territorialism in wildlife management.“<i>Pathways Kenya 2016 : Integrating Human Dimensions Into Fisheries and Wildlife Management</i>” FAIRMONT MOUNT KENYA SAFARI CLUB,NANUYUKI,KENYA、2016 年 1 月 24) 竹原万雄、「近代日本の感染症対策と村落社会」、『東北大学東北アジア研究センター創設 20 周年記念国際シンポジウム 東北アジア 地域研究の新たなパラダイム』、仙台国際センター、2015 年 12 月 25) 田口洋美、「イントロダクション 地方都市の大型獣出没と防衛システムについて」(Defense system against large mammals to protect the suburban areas -- An introduction)、『第 21 回『野生生物と社会』学会沖縄大会、テーマセッション「膨張する都市と野生動物 —環境学および法学的視点から—』、琉球大学千原キャンパス、2015 年 11 月 26) 中村只吾、「古文書からみた鮎立、古館家の歴史—唐桑の海と陸が育んだ人びとの営み」、『大漁唄い込みシンポジウム』、鮎立古館家、2015 年 9 月 27) 田口洋美、「放射能汚染以降 マタギ文化の行方」、第 26 回『ブナ林と狩人の会：マタギサミット in 山形』、東北芸術工科大学、2015 年 6 月 28) 謝黎、「植民地台湾の旗袍 (チャイナドレス) に関する一考察」、『第 34 回国際服飾学会大会』、東京家政大学、2015 年 4 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 29) 謝黎、「中国の化粧（妝）文化—『面飾』の歴史」、株式会社資生堂ビューティークリエーション研究所、2015 年 3 月
- 30) 中村只吾、「古文書と飛島Ⅲ—飛島における江戸から明治 漁業の危機に立ち向かった島民」、『飛島学講座』、酒田市総合文化センター、2015 年 3 月
- 31) 田口洋美、「放射能汚染と東北の自然」、『福島県文化財センター 白河館“まほろん”まほろん文化財講演会Ⅳ』、白河館まほろん講堂（白河市）、2015 年 2 月
- 32) 田口洋美、「生き方としての東北」、『山形市文化遺産塾』、アズ七日町中央公民館研修室(山形市)、2015 年 2 月
- 33) 田口洋美、「日本人はサル被害とどう向き合ってきたのか」、『平成 25 年度ニホンザル被害対策研修会』、山形国際交流プラザ・山形ビッグウイング(山形市)、2015 年 2 月
- 34) 田口洋美、「狩りの文化からみた縄文人—民族考古学の視点から—」、『平成 26 年度 第 3 回縄文講座』、仙台市縄文の森広場（仙台市）、2015 年 2 月
- 35) 謝黎、「日常の彩り—化粧をとおして見る日本と中国の美的世界」、東北芸術工科大学、2015 年 1 月
- 36) 田口洋美、「原発震災後の東北地方の野生動物と人とののかかわり方」、『福島大学行政政策学類「社会計画講座・学術講演会」』、福島大学行政政策学類大会議室(福島市)、2015 年 1 月
- 37) 中村只吾、「古文書と飛島Ⅱ」、『2014 飛島学講座』、酒田市総合文化センター、2014 年 12 月
- 38) 川島秀一、「自然災害から復興する集落の諸相—東日本大震災と三陸漁村」、『第 62 回日本村落・研究学会』、グリーンピア三陸みやこ、2014 年 11 月
- 39) 中村只吾、「近世からの飛島—アーカイブスとともに」、『第 31 回山形県民俗研究協議会研究発表会』、山形県立博物館、2014 年 11 月
- 40) 佐藤健治、「講演：平安時代の兵乱にみる東北」、『第 24 回山寺芭蕉記念館文化セミナー「東北再発見—『みちのく』の文化、その歴史と可能性—』、山形市、2014 年 8 月
- 41) 中村只吾、「千田家における漁業経営について—明治前半期を中心として」、『千田家と地域の歴史を語る会』、大船渡市三陸町綾里砂子浜・千田基久兵衛家、2014 年 8 月
- 42) 川島秀一、「災害伝承と自然観」、『第 38 回日本口承文芸学会』、東北大学、2014 年 6 月
- 43) 川島秀一、「カツオ漁の風土と災害」、『日本カツオ学会 第 3 回カツオセミナー』、高知大学、2014 年 6 月
- 44) 謝黎、「チャイナドレスと化粧—美しいのは服か、顔か」、『化粧文化研究者ネットワーク研究会（第 30 回）』、株式会社資生堂ビューティークリエーション研究所、2014 年 6 月
- 45) 謝黎、「講演：チャイナドレスと化粧—美しいのは服か、顔か」、『化粧文化研究会』、資生堂ビューティークリエーション研究所（東京都）、2014 年 6 月
- 46) 佐藤健治、「もうひとつの東北中世村落—八戸市南郷区島守の事例から—」、『骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会』、一関市、2014 年 3 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 47) 田口洋美、「講演：狩猟文化の継承 ―狩猟と現代社会―」、『平成 25 年度新人ハンター養成講座特別講演（主催：宮城県環境生活部自然保護課）』、2014 年 3 月
- 48) 中村只吾、「古文書と飛島（連続 2 回）」、『飛島学講座』、酒田市総合文化センター、2014 年 3 月
- 49) 川島秀一、「講演：津波常習地の生活文化」、大船渡市、2014 年 2 月
- 50) 佐藤健治、「慶長出羽合戦と伊達政宗」、『講座：地域の歴史を学ぶ◎岩出山Ⅱ―戦乱と地域史（主催：東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門・岩出山古文書を読む会）』、大崎市、2013 年 12 月
- 51) 蛭原一平、「沖縄と八重山におけるイノシシ猟」、『第 4 回猪（シシ）サミット』、AiAi 広場（鹿児島県）、2013 年 11 月
- 52) 田口洋美、「講演：狩猟と農耕：人類学的な視点から」、『第 16 回アジア歴史講演会（共催：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター・宇和島市教育委員会）』、宇和島市、2013 年 11 月
- 53) 中村只吾、「地域経済との関係からみた近世の漁村秩序―伊豆国内浦地域を事例として」、『関東近世史研究会第 46 回（2013 年度）大会』、國學院大學、2013 年 11 月
- 54) 森本孝、「講演：宮本民俗学から見た木造船と船大工道具」、『船大工道具と木造船の世界』、周防大島八幡生涯学習のむら、2013 年 11 月
- 55) 川島秀一、「講演：カツオ節の民俗」、『Dry Food Cafe オープン記念談話』、Dry Food Café(早稲田)、2013 年 11 月
- 56) 川島秀一、「講演：津波常習地の生活文化」、『飯能市郷土館特別展記念講演会』、飯能市郷土館(埼玉県)、2013 年 11 月
- 57) 川島秀一、「講演：寄り物の民俗誌」、『飛島学講座（主催：とびしま漁村文化研究会）』、鶴岡まちなかシネマ（鶴岡市）、2013 年 11 月
- 58) 川島秀一、「講演：地域の生活文化と防災」、『地域の歴史・生活文化からの防災』、伊良部漁協会議室（宮古島市）、2013 年 11 月
- 59) 蛭原一平、「八重山・西表島の猪垣にみられる形態と構造の特徴」、『第 6 回シシ垣サミット』、国頭村立奥小学校（沖縄県）、2013 年 10 月
- 60) 田口洋美、「白神山地世界遺産地域におけるシカ問題」、『環境省東北地方環境事務所・農林水産省東北森林管理局「第七回白神山地世界遺産地域科学委員会」』、秋田市、2013 年 10 月
- 61) Takahashi, M. and G. Ueda、「ポスター発表：Fukushima Meltdown on Wildlife Management」、『The Wildlife Society 2013 Annual Conference』、ウィスコンシン・センター（アメリカ合衆国ウィスコンシン州）、2013 年 10 月
- 62) 川島秀一、「講演：地域の生活文化と防災」、『地域の歴史・生活文化からの防災』、三木浦コミュニティセンター(尾鷲市)、2013 年 10 月
- 63) 川島秀一、「講演：気仙沼とカツオ」、『気仙沼みなの学校』、南町かどっこ(気仙沼市)、2013 年 10 月
- 64) 川島秀一、「講演：地域の生活文化と防災」、『地域の歴史・生活文化からの防災』、大堂津公民館（日南市）、2013 年 10 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 65) 川島秀一、「講演：伝えたい 海に生きる唐桑の文化」、『唐桑講演会』、燦さん館(唐桑町)、2013 年 7 月
- 66) 川島秀一、「講演：気仙沼の津波と尾形家」、『故郷で守りたいものがある』、甘草屋敷（甲州市）、2013 年 7 月
- 67) 田口洋美、「生き方としての東北-近代における天然資源開発という生業軸と市場のゆがみ-」、『山寺芭蕉記念館文化セミナー「日本の再興と文化」』、山形市、2013 年 7 月
- 68) 川島秀一、「講演：災害とカツオ漁」、『カツオセミナーin 高知』、高知大学、2013 年 6 月
- 69) 川島秀一、「講演：気仙沼湾と災害史」、『気仙沼勉強会』、オランダヒルズ森タワー、2013 年 6 月
- 70) 川島秀一、「講演：カツオ漁の文化誌」、『第 42 回みんぱくゼミナール「日本の漁業を考える」』、国立民族学博物館、2013 年 6 月
- 71) 川島秀一、「講演：津波常習地の生活文化」、『防災講演会（主催：NPO 法人みなみいせ市民活動ネット）』、南伊勢町町民文化会館(三重県)、2013 年 6 月
- 72) 田口洋美、「狩人の役割と未来：震災後の東北における狩猟文化の行方」、『第 24 回ブナ林と狩人の会：マタギサミット イン 猪苗代（後援：福島県、福島県猟友会、猪苗代町、東北芸術工科大学東北文化研究センター）』、猪苗代町、2013 年 6 月
- 73) 川島秀一、「講演：津波常習地の生活文化」、『宮城県市町村教育委員会協議会定期総会・研修会』、ワンテンビル（気仙沼市）、2013 年 5 月
- 74) 川島秀一、「講演：津波常習地の生活文化」、『語りの文化講座—災害、事故に学ぶ—』、國學院大學、2013 年 5 月
- 75) 川島秀一、『「ファイト新聞展」記念講演会』、リアス・アーク美術館、2013 年 4 月
- 76) 川島秀一、「講演：気仙沼港の成立と災害の歴史」、『気仙沼みなとの学校』、南町かどっこ(気仙沼市)、2013 年 4 月
- 77) 川島秀一、「講演：魚と海難者を祀ること—津波から見えてきた世界—」、『縁日講演会』、念仏真教金剛寺(大阪市)、2013 年 3 月
- 78) 川島秀一、「講演：海に開かれた三陸沿岸」、『平和・人権学習講座（主催：川崎市生涯学習財団）』、多摩市民館(川崎市)、2013 年 1 月
- 79) 蛭原一平、「仙台に残るシシ垣遺構—シシとのかかわりの記憶をめぐって」、『第 5 回シシ垣サミット』、佐伯市鶴見地区公民館（大分県）、2012 年 12 月
- 80) 川島秀一、「講演：三陸津波の歴史から学ぶ」、『災害の歴史に学ぶ（主催：塩竈市教育委員会）』、塩竈市生涯学習センター、2012 年 12 月
- 81) 田口洋美、「越冬と越夏-狩猟採集民の食物保存戦略-」、『是川縄文館考古学講座』、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、2012 年 12 月
- 82) 川島秀一、「講演：津波のまちに生きて」、『伊賀の國地名研究会 6 周年記念講演会』、ゆめぼりすセンター（伊賀市）、2012 年 11 月
- 83) 川島秀一、「講演：気仙沼大島の漁労・社会・民俗から」、『第 1 回漁業史文庫を語る会（主催：神奈川大学ほか）』、大島開発総合センター、2012 年 11 月

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

- 84) 川島秀一、「講演：三陸沿岸と津波伝承」、『文化講演会』、岩手県立博物館、2012 年 11 月
- 85) 菊池勇夫、「飢人救済をめぐる公権力と地域社会—天保飢饉下の八戸藩」、『歴史科学協議会第 46 回大会』、早稲田大学戸山キャンパス、2012 年 11 月
- 86) 中村只吾、「近世後期～明治前半期の沿岸部集落における生業秩序」、『第 54 回北陸史学会大会』、石川県立博物館、2012 年 11 月
- 87) 川島秀一、「講演：海難と供養」、『近畿大学講演会』、近畿大学、2012 年 10 月
- 88) 川島秀一、「講演：海に開かれた三陸沿岸」、『慶応義塾大学公開講座』、慶応義塾大学日吉キャンパス、2012 年 10 月
- 89) 川島秀一、「講演：津波のまちに生きて」、『第 3 回 KBS 復興フォーラム（主催：気仙沼サポートビューロー）』、東京しごとセンター、2012 年 9 月
- 90) 川島秀一、「講演：津波と供養」、『浅草寺「仏教文化講座」（主催：新宿明治安田生命）』、新宿明治安田生命ホール、2012 年 9 月
- 91) 田口洋美、「講演：小国マタギ・狩人たちの行方-」、『山形おぐに会 特別講演会』、小国町、2012 年 9 月
- 92) 田口洋美、「講演：東北中山間地域における震災のインパクト」、『第 22 回山寺芭蕉記念館文化セミナー「日本文化の復活—文化・歴史に学ぶ再興への鍵—』、山形市、2012 年 8 月
- 93) 川島秀一、「講演：海を介した生活文化」、『慶応大学「木曜会」』、慶応義塾大学三田キャンパス、2012 年 6 月
- 94) 川島秀一、「講演：津波と災害地名」、『第 31 回全国地名研究者大会（主催：日本地名研究所）』、川崎市国際交流センター、2012 年 6 月
- 95) 田口洋美、「講演：東北マタギの生業活動と震災による影響：The impact on the subsistence activities of Matagi, Japanese traditional hunters in Tohoku region, caused by 3/11 disaster in Japan.」、『国際山岳年プラス 10 シンポジウム 2012（主催：国際山岳年プラス 10 実行委員会、日本大学文理学部自然科学研究所）』、日本大学文理学部、2012 年 6 月
- 96) 謝黎、「講演：京派と海派—チャイナドレスの近代史」、『服飾文化学会第 13 回総会・大会』、尚絅学院大学、2012 年 5 月

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等 ＜既に実施しているもの＞

本研究プロジェクト全体

1. 公開説明会

1) 2012 年 6 月 15 日 研究説明会「実践東北学始動！—東北文化研究センターの戦略—」

①文部科学省『オープン・リサーチ・整備事業』東北地方における環境・生業・技術に関する歴史

動態的総合研究」の成果報告」

i 「各研究班の成果の紹介」

考古学班・安斎正人、歴史学班・入間田宣夫、民俗（人類）学班・田口洋美

ii 「学生調査チーム『あるく・みる・きく』体験談

松田和之（本学歴史遺産学科卒業生、寒河江川土地改良区／農林水産団体職員）

②総括『『実践東北学』とはなにか。上記の総括と新規研究プロジェクト（文部科学省私立大学戦

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

略

的研究基盤形成支援事業による「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」

について)」田口洋美

場所：本学本館 参加者数：53 名

※参考：資料編 35～38 頁、1)

2. シンポジウム・研究会

1) 2012 年 6 月 16－17 日 第 1 回全体研究会

6 月 16 日 全体会議・分科会①・全体会議

6 月 17 日 分科会②・全体会議

参加者：〈学外共同研究員〉菊池勇夫・佐々木史郎・森本孝・佐藤宏之・辻誠一郎・福田正宏・川島秀一・高橋美貴

〈学内〉田口洋美・入間田宣夫・安斎正人・北野博司・佐藤健治・謝黎・竹原万雄・

蛭原一平・中村只吾

場所：本学東アジア民族文化アーカイブ研究センター

2) 2013 年 2 月 18－19 日 第 2 回全体研究会

2 月 18 日 全体会議・分科会

2 月 19 日 全体会議

参加者：〈学外共同研究員〉佐藤宏之・辻誠一郎・福田正宏・小林圭一・菊池勇夫・川島秀一・森本孝・鈴木清

〈学外研究協力者〉村木淳・宇部則保・杉山陽亮

〈学内〉田口洋美・入間田宣夫・安斎正人・北野博司・佐藤健治・謝黎・竹原万雄・長井謙治・蛭原一平・中村只吾

〈外部評価委員〉本田俊和（スチュアート ヘンリ）

〈オブザーバー〉柳原敏昭

場所：本学東アジア民族文化アーカイブ研究センター

3) 2014 年 2 月 6－7 日 第 3 回全体研究会

2 月 6 日 挨拶（田口洋美）・分科会①・全体会議

2 月 7 日 分科会②

参加者：〈学外共同研究員〉入間田宣夫・思泌夫・菊池勇夫・佐藤宏之・川島秀一・鈴木清・村上一馬

〈学内〉田口洋美・安斎正人・北野博司・佐藤健治・謝黎・竹原万雄・長井謙治・蛭原一平

中村只吾

〈外部評価委員〉本田俊和（スチュアート ヘンリ）

4) 2015 年 7 月 18－19 日 第 4 回全体研究会

7 月 18 日 挨拶（田口洋美）・分科会①・全体会議

7 月 19 日 分科会②

参加者：〈学外共同研究員〉入間田宣夫・思泌夫・菊池勇夫・佐藤宏之・川島秀一・鈴木清・村上一馬・高橋満彦・小林克・鈴木清・森本孝・安斎正人・小林圭一・佐藤健治・近藤康久・根岸洋・村木淳・清野春樹

〈学内〉田口洋美・謝黎・竹原万雄・長井謙治・蛭原一平・中村只吾・佐藤未希

〈外部評価委員〉本田俊和（スチュアート ヘンリ）、柳原敏昭

5) 2016 年 6 月 18－19 日 第 5 回全体研究会

6 月 18 日 挨拶（田口洋美）・分科会①・全体会議

6 月 19 日 分科会②

参加者：〈学外共同研究員〉森本孝・川島秀一・鈴木清・佐々木史郎・入間田宣夫・思泌夫・阿部朋恒・菊池勇夫・村上一馬・中村只吾・高橋美貴・安斎正人・佐藤宏之・近藤康久

〈学内〉田口洋美・北野博司・謝黎・竹原万雄・長井謙治・蛭原一平・佐藤未希

〈外部評価委員〉本田俊和（スチュアート ヘンリ）、柳原敏昭

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

6) 2016 年 10 月 29 日 クロージング・シンポジウム「東北の集住を考える—ポスト過疎化時代を生きる—」 *16

趣旨説明 田口洋美

第 1 部 研究発表

講演「気候変動と居住形態」安斎正人

講演「開発・生業のありかたと集落形態・戸数等の変遷—中尊寺領骨寺村千年の歴史から—」

入間田宣夫

講演「船の移動と港町の盛衰」川島秀一

第 2 部 パネルディスカッション「これからの『集住のかたち』」内山節・鬼頭秀一・田口洋美

参加者数：約 80 名

場所：東北歴史博物館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1235>／資料編 50～54 頁、61～62 頁

3. ホームページ

1) 本研究プロジェクトの概要・内容・成果に関する特設ページ

URL：http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?page_id=510

※東北芸術工科大学東北文化研究センターHP (<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/>) にリンクボタンあり

環境史研究

1. シンポジウム・公開講座

1) 2012 年 6 月 20 日 公開講座「縄文集落と気候変動—長期集住と分散居住—」

講演「縄文集落と気候変動—長期集住と分散居住—」安斎正人

場所：本学本館 参加者数：52 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=964>

2) 2012 年 11 月 24 日 公開講座「縄文時代の集落変遷」

講演「縄文時代の集落変遷」安斎正人

講演「山形の縄文集落」小林圭一

場所：本学本館 参加者数：42 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=961>

3) 2013 年 6 月 26 日 公開講座「民俗考古学事始—縄文人の生活を復元する—」

講演「湿地性遺跡（東名遺跡）出土のドンダリ」安斎正人

講演「民俗考古学事始」名久井文明（物質文化研究所「一芦舎」代表）

映像上映「樹皮製容器の煮炊き実験」

場所：本学本館 参加者数：52 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=931>

4) 2013 年 12 月 14 日 公開講座「『八戸の集落一万年』—なぜムラができ、消えたか？—Vol.1」 *17

基調講演「集落の歴史動態」田口洋美

基調講演「八戸における縄文集落変遷」村木淳

講演「八戸における縄文時代早期の集落—遺跡の分布と集落構造から」中村哲也（青森県立郷土館）

講演「八戸市周辺の縄文時代前・中期の円筒土器文化期の集落の事例紹介」

小笠原雅行（青森県教育庁）

講演「約 8,000 年前の大変動」安斎正人

質疑応答

後援：八戸市教育委員会

場所：八戸市総合福祉会館「はちふくプラザ ねじょう」 参加者数：97 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1088>／資料編 35～38 頁、31)・32)

5) 2014 年 12 月 21 日 公開講演会「『八戸の集落一万年』—なぜムラができ、消えたか？—Vol.2」

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

基調講演「八戸の縄文時代後晩期」小林圭一
 講演「八戸地域の縄文後期集落―風張からは川へ」村木淳
 講演「八戸地域の縄文晩期集落―是川を中心に」市川健夫
 講演「八戸地域の弥生時代の集落」杉山陽亮
 講演「遺跡データベースからみた八戸の縄文集落変遷」長井謙治
 質疑応答
 後援：八戸市教育委員会
 場所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

6) 2015 年 1 月 28 日 公開講座「縄文の美―実用性を遥かに超える芸術的表現―」

講演「縄文の美―実用性を遥かに超える芸術的表現―」安斎正人

参加者数：114 名

場所：本学本館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1146>／資料編 35～38 頁、52)／資料編 44・45・56・57 頁

7) 2015 年 9 月 12 日 日向洞窟遺跡発掘調査現地説明会

講師「日向洞窟遺跡発掘調査現地説明会」長井謙治

参加者数：60 名

場所：山形県高島町

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1184>／資料編 35～38 頁、68)・69)

8) 2015 年 12 月 13 日 公開講座『『八戸の集落一万年：古代地域社会の動態 なぜムラができ、消えたか？ Vol.3』 *19

講演「八戸地域の古代集落の動態」宇部則保

講演「津軽地域の古代集落の動態」斉藤 淳(中泊町立博物館)

講演「末期古墳の動態」小谷地肇(おいらせ町教育委員会)

講演「集落の移動・定着」北野博司

質疑応答

後援：八戸市教育委員会

場所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

2. 研究会

1) 2013 年 7 月 16 日 学内ワークショップ「空間情報技術を活用した集落研究」(考古、歴史、民俗・人類 3 班合同) *20

講師：近藤康久(東京工業大学大学院情報理工学研究科、日本学術振興会特別研究員 PD)

参加者：田口洋美・安斎正人・佐藤健治・謝黎・長井謙治・竹原万雄・蛭原一平・中村只吾

場所：本学本館

2) 2014 年 6 月 15 日 第 1 回考古班研究集会 遺構の認定 *21

趣旨説明 長井謙治

発表者：長井謙治、佐藤宏之、横山寛剛、村木淳

場所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

3) 2014 年 6 月 21 日 第 1 回考古班流域比較研究会

発表者：小林克、菅野 智則、水戸部秀樹、富樫秀之、長井謙治

場所：本学東北文化研究センター

4) 2014 年 12 月 20 日 第 2 回考古班研究集会 集落の継続・断続を考える *22

趣旨説明 長井謙治

話題提供「居住の集中と分散を考える」根岸洋(国際教養大学地域環境研究センター)

質疑応答(司会・進行)長井謙治

場所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

5) 2015 年 2 月 28 日 第 2 回考古班流域比較研究会

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

参加者：安齋正人、小林克、小林圭一、菅野 智則、根岸洋、菅原哲文、長井謙治
来年度方針についての打合せ
場所：本学本館

6) 2015 年 10 月 2－4 日 縄文時代における河川流域の集落変遷に関する調査と研究会

参加者：安齋正人、小林克、小林圭一、菅野 智則、根岸洋、菅原哲文、長井謙治
場所：秋田県大曲市（森吉山ダム遺跡）、鷹巣町（米代川流域）

7) 2015 年 12 月 13 日 第 3 回考古班研究集会 最終報告に向けての構想発表 *23

趣旨説明 長井謙治

発表者：長井謙治、近藤康久、中村哲也、村木淳、市川健夫、杉山陽亮、宇部則保、北野博司
場所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

8) 2016 年 5 月 17 日 第 4 回考古班研究集会 最終報告に向けての構想発表 2

趣旨説明 長井謙治

発表者：安齋正人、北野博司、小林圭一、長井謙治
場所：本学文化財保存修復センター

地域比較研究

1. シンポジウム・公開講座

1) 2012 年 11 月 14 日 公開シンポジウム「海から見た東北」 *24

趣旨説明「海から見た東北」田口洋美

講演「海から見た三陸」森本孝

講演「漁法の伝播・信仰の伝承」川島秀一

パネルディスカッション

場所：本学本館 参加者数：66 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=910>／資料編 35～38 頁、2)・3)

2) 2013 年 1 月 9 日 公開講座「空から見た東北—動く森、動く集落—」 *25

講演「空から見た東北—動く森、動く集落—」田口洋美

場所：本学本館 参加者数：108 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=915>／資料編 35～38 頁、4)・5)・7)

3) 2013 年 1 月 26 日 公開講座「出羽三山の宇宙—羽黒山の開山伝承と景観のコスモロジー」

講演「出羽三山の宇宙—羽黒山の開山伝承と景観のコスモロジー」内藤正敏

場所：本学本館 参加者数：294 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=917>／資料編 35～38 頁、8)・10)・14)・15)

4) 2013 年 1 月 26 日 公開講座「最上川の文化的景観—21 世紀の地域づくりのために—」

講演「最上川の文化的景観—21 世紀の地域づくりのために—」入間田宣夫

場所：本学本館 参加者数：307 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=920>／資料編 35～38 頁、10)・14)・15)

5) 2014 年 2 月 8 日 公開シンポジウム「日本と中国にみる文化継承リスク—伝統は生き残れるか—」 *26

基調講演「イエ制度の崩壊と地域の未来」田口洋美

【中国南部からの報告】

「ハニ族『集落 (puyka)』における文化継承システムと現代的变化」阿部朋恒

「ラフ族とハニ族の狭間に生きる—苦悶人とは誰か?」謝黎

【中国北部からの報告】

「敖魯古雅トナカイエヴェンキ人にとって“定住”とは」思泌夫

「“伊〇 堪” (イマカン) の語り手が直面している課題—ホジェンにおける文化継承問題」侯儒

総合討論「現代における文化継承問題」

参加者：〈学外共同研究員〉入間田宣夫、佐藤宏之、佐々木史郎、思泌夫、鈴木清

〈学内〉田口洋美、安齋正人、北野博司、佐藤健治、謝黎、竹原万雄、長井謙治、蛭原一平、

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

中村只吾

〈外部評価委員〉本多俊和（スチュアート ヘンリ）

場所：本学本館 参加者数：104 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=959>

- 6) 2014 年 6 月 21 日 公開講座「〈シリーズ：日本史最前線 —教科書の一步先—〉『百姓』繚乱の江戸時代—東北の村人たちの生き方—」

趣旨説明「なぜ、今「百姓」なのか」中村只吾

講演「江戸時代出羽国村山地方の百姓たち」渡辺尚志（一橋大学大学院教授）

講演「江戸時代三陸沿岸の大規模イエ経営体と村社会」斎藤善之（東北学院大学教授）

パネルディスカッション「東北の沿岸と内陸をつないで考える」

場所：本学本館 参加者数：134 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1044&preview=true>／資料編 35～38 頁、38)・39)

- 7) 2015 年 1 月 14 日 公開講座「明治時代の感染症パニック—見えない敵とどう闘ってきたのか?—」

講演「明治時代の感染症パニック—見えない敵とどう闘ってきたのか?—」竹原万雄

コメント 田口洋美

参加者数：84 名

場所：本学本館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1142>／資料編 42・43・55 頁

- 8) 2015 年 6 月 27 日 公開講座「東北地方を中心とした中山間地域の未来を考える」

講演「鳥獣保護法改正と現場—山形県置賜地域の現状から—」二瓶秀憲

講演「原発事故からの復興を目指して—野生動物管理と狩猟—」今野文治

講演「放射能汚染以降 マタギ文化の行方」田口洋美

参加者数：182 名 場所：本学本館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=1179>／資料編 35～38 頁、62)／資料編 46～49・58 頁

2. 研究会

- 1) 2012 年 11 月 7 日 第 1 回歴史班学内研究会

参加者：入間田宣夫・竹原万雄・中村只吾

場所：本学本館

- 2) 2012 年 11 月 15 日 第 2 回歴史班学内研究会

参加者：入間田宣夫・竹原万雄・中村只吾

場所：本学本館

- 3) 2013 年 10 月 23 日 第 1 回「前田村文書」研究報告会

研究発表「近現代における『前田村』の景観と生業」竹原万雄

研究発表「年代別文書数にみる『前田村文書』の特徴」櫛引理沙（本学歴史遺産学科 4 年）

参加者：〈学外〉前田地区住民

〈学内〉竹原万雄・中村只吾・櫛引理沙・後藤光誠・大庭千鶴

場所：山形市南原町公民館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=987>

- 4) 2014 年 5 月 27 日 第 2 回「前田村文書」研究報告会

研究発表「村のきまりと若者のきまり」竹原万雄

参加者：〈学外〉前田地区住民

〈学内〉竹原万雄・菅沼信輝・吉田郁哉・藤原詩織・高橋佳帆里・鈴木彩也花・政金悠希

場所：山形市南原町公民館

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=997>

- 5) 2015 年 1 月 8 日 第 3 回「前田村文書」研究報告会

趣旨説明 竹原万雄

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

研究発表「「笹堰水行一件書」の概要」 鈴木彩也花
 研究発表「笹堰をめぐる町村の関わり」 政金悠希・高橋裕子
 質疑応答
 参加者：〈学外〉前田地区住民
 〈学内〉竹原万雄・鈴木彩也花・高橋佳帆里・高橋裕子・政金悠希
 場所：山形市南原町公民館

6) 2015 年 1 月 10 日 民俗・人類班研究会 *27

発表「明治・大正期における土地相続制度の成立と共有財産権の設定」 高橋満彦
 研究進捗状況の報告と次年度以降の活動についての協議
 参加者：〈学外〉佐々木史郎・川島秀一・森本孝・高橋満彦・村上一馬
 〈学内〉田口洋美・蛭原一平・中村只吾・守谷英一・小松諒
 場所：本学本館

7) 2015 年 2 月 8 日 第 3 回歴史班研究会

参加者：〈学外〉入間田宣夫・菊池勇夫・高橋美貴・村上一馬
 〈学内〉竹原万雄・中村只吾
 場所：本学本館

8) 2015 年 7 月 15 日 第 4 回「前田村文書」研究報告会

研究発表「245 年前の『前田村文書』」 竹原万雄
 参加者：〈学外〉前田地区住民
 〈学内〉竹原万雄
 場所：山形市南原町公民館

9) 2015 年 10 月 3-4 日 歴史班・民族人類班合同応用研究会「漁業集落をめぐる地先漁業権の成立と変化」 *28

趣旨説明 田口洋美
 発表「近世～明治期の東日本における漁業秩序－伊豆国内浦・出羽国飛島を事例に－」 中村只吾
 発表「19 世紀の水産資源繁殖政策と資源変動」 高橋美貴
 発表「漁業権制度の現状と課題－高知県を素材として－」 緒方賢一
 質疑応答・総合討論
 場所：東京農工大学

10) 2016 年 1 月 27 日 第 5 回「前田村文書」研究報告会

趣旨説明 竹原万雄
 研究発表「現在の前田堰」 東海林怜奈・別府美空・三浦真紀子
 研究発表「明治 8(1875)年の用水確保」 佐竹美香
 研究発表「狐塚の用水願い」 高橋千紘
 研究発表「「留水」の方法」 林杏奈
 質疑応答
 参加者：〈学外〉前田地区住民
 〈学内〉竹原万雄・東海林怜奈・別府美空・三浦真紀子・佐竹美香・高橋千紘・林杏奈
 場所：山形市南原町公民館

11) 2016 年 7 月 26 日 第 6 回「前田村文書」研究報告会

研究発表「前田村のたたかい① ～大林山一件～」 竹原万雄
 参加者：〈学外〉前田地区住民
 〈学内〉竹原万雄
 場所：山形市南原町公民館

12) 2016 年 12 月 24 日 地域比較研究総括にむけての研究会

参加者：〈学外〉中村只吾
 〈学内〉竹原万雄・蛭原一平
 場所：本学本館

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

13) 2017 年 1 月 25 日 第 7 回「前田村文書」研究報告会

研究発表「千歳山境界争論 序」竹原 万雄

研究発表「江戸時代の訴訟」長岡心

研究発表「江戸時代の山林管理」皆川千尋

研究発表「人口・石高・耕地面積にみる前田村の特徴」太田結香子

質疑応答

参加者：〈学外〉前田地区住民

〈学内〉竹原万雄・太田結香子・長岡心・皆川千尋

場所：山形市南原町公民

14) 2017 年 3 月 1 日 応用研究総括研究会 *29

趣旨説明 田口洋美

報告「宮城県気仙沼市大沢地区防災集団移転計画」渡部桂

報告「課題の整理：集住の新たな理念構築に向けて」田口洋美

総合討論

参加者：〈学外〉寺田徹

〈学内〉田口洋美・竹原万雄・蛭原一平・佐藤未希・渡部桂・守屋英一・

清野翔子・小松諒

場所：本学本館

3. 展示

1) 2013 年 1 月 15 日－2 月 2 日 「内藤正敏写真展『神々の異界—修験道・マンダラ宇宙・生命の思想—』」

企画・構成・出品：内藤正敏

展示作品数：77 点

場所：本学本館 入場者数：1,886 名

関連事業：2013 年 1 月 16 日 「ギャラリートーク」

展示解説：内藤正敏

場所：同会場 参加者数：65 名

※参考：http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=926／資料編 35～38 頁、6)・8)・9)・11)・12)・13)

2) 2013 年 6 月 12－28 日 「関野吉晴写真展『海のグレートジャーニー～人類の旅～』」

出品：関野吉晴

展示作品数：約 80 点

場所：本学本館 入場者数：1,150 名

関連事業：2013 年 6 月 22 日 「映画上映会&トーク『僕らのカヌーができるまで』」

講演者：関野吉晴・田口洋美

場所：本学本館 参加者数：93 名

※参考：http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=934／資料編 35～38 頁、16)・17)

3) 2013 年 10 月 19 日－11 月 5 日 「謝黎コレクション展『北と南の混淆～旗袍に隠された近代中国の歴史～』」

企画協力：神戸ファッション美術館

監修・出品：謝黎

監修：浜田久仁雄（神戸ファッション美術館主席学芸員）、大山弘美（神戸ファッション美術館衣装コーディネーター）

展示作品数：約 150 点

会場：本学本館 入場者数：1,160 名

関連事業：2013 年 10 月 23 日 「ギャラリートーク 1」

展示解説：謝黎

場所：同会場 参加者数：56 名

2013 年 11 月 5 日 「ギャラリートーク 2」

展示解説：謝黎、辻けい（美術科テキスタイルコース教授）

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

場所：同会場 参加者数：37 名

※参考：<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=906>／資料編 35～38 頁、28) ～30)

地域資源活用研究

1. 研究会

- 1) 2013 年 1 月 25 日 「空中写真判読と集落図」(学内研究会)

参加者：田口洋美・入間田宣夫・佐藤健治・謝黎・竹原万雄・蛭原一平・中村只吾

場所：本学東アジア民族文化アーカイブ研究センター

- 2) 2013 年 7 月 10 日 「骨寺ブックレット作成に係る研究会」

参加者：〈学外共同研究員〉入間田宣夫

〈学内〉竹原万雄・菅沼信輝・三好明日美・早川由希子・本間結希乃・高橋佳帆里・小座間雅

子・高橋裕子・櫻庭千晃・塚野聡史・檜野泰巳・鈴木彩也花・須貝慎吾・星雪音・瀧口友香

場所：本学本館

2. ホームページ

〔東北文化研究センターアーカイブス〕

- 1) 「空から見た東北」(<http://blog.tuad.ac.jp/airphoto/>) *30

東北芸術工科大学東北文化研究センターHP (<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/>) にリンクボタンあり

※参考：資料編 35～38 頁、44)

- 2) 「近現代の絵はがき・写真」(<http://www.tobunken-archives.jp/DigitalArchives/>) *31

東北芸術工科大学東北文化研究センターHP (<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/>) にリンクボタンあり

※参考：資料編 35～38 頁、49)

<これから実施する予定のもの>

なし

14 その他の研究成果等

- 1) 地域比較研究：青森県八戸市南郷区島守地区での調査における地域住民との交流

ボランティア団体「すまもり中世の田んぼクラブ」(古舘光治村長)の世話による調査参加者と地域住民との交流会「村の楽習会」「bar すまもり」、旧島守保育所、2014 年 8 月 22・23 日

※参考：<http://sumamori.exblog.jp/22810641>

- 2) 環境史研究：山形県高畠町日向洞窟遺跡群の考古学的調査における地域住民との交流

調査団メンバーと宿泊施設を提供している同町屋代村塾(古川和夫代表)との交流会、屋代村塾、2014 年 8 月 24 日

※参考：資料編 35～38 頁、41)

- 3) 環境史研究：国指定史跡日向洞窟発掘 60 周年記念講演会 眠りから覚めた日向洞窟—その魅力に迫る」講演「蘇る日向洞窟：芸工大の発掘調査速報」長井謙治、2015 年 9 月 12 日 (於：屋代地区公民館多目的ホール)

※参考：資料編 35～38 頁、76)／資料編 59・60 頁

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

選定時に付された留意事項は「前進の事業からの発展性をより明確にされたい」であった。

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

中間報告書には以下の通り記載した。「本事業では、本研究センターがこれまで実施してきた前身の事業のように時空間的広がりを主題として総論的に歴史文化研究をおこなうのではなく、集落の形成と変遷という一つの具体的テーマに絞り事例研究を推進し最終的な統合的成果を目指す。研究手法としては前事業で確立した三学協働の研究体制や教育研究連携モデル等を本事業でも適用するものの、より精練化させることで地域社会と集落形成の基盤を明らかにすることを目指している。そして本事業を通し、地域再生の担い手を育成しつつ、新たに工学系環境デザインとも連携することにより次世代型の地域社会モデルの提起、発信を行っていくという点で前身の事業にはみられない人文社会系研究の同時代的実践研究としての意義を有しており、前研究の発展的課題研究となっている。加えて、研究員、協同研究員および教員と学生、院生を主体に実施している集落調査を中心としたブックレット「東北1万年のフィールドワーク」シリーズは今年度までに11号を数える予定である。これらの動きは教育資源の開発と地域へ学生が回帰する動きを確実に作り出しており、前プロジェクトの発展型となっていることを付記しておきたい」

選定時に留意事項を議論した上で、集落研究に特化し、考古学、歴史学、民俗・人類学分野共通の概念として「集住：共に集い暮らす」という視点から研究および議論を推進することにした。

＜「中間評価時」に付された留意事項＞

中間評価における留意事項の特記はなかったが、中間評価者（2名）による総合所見欄に「査読論文が少ないのは分野的な特徴であろうと理解したが、研究目的と個別研究の関連付けを明確化し、できる限り科学的客観的な成果を出す努力を望みたい」あるいは「基礎研究における個別研究の成果を、今後工学系研究者との応用研究に進めるための、総合的視点を構築されたい」との記載があった。

＜「中間評価時」に付された留意事項への対応＞

中間評価時の指摘に関して、特に農村計画や都市計画(地域計画)など工学系研究者との応用研究に関しては「都市論・集落論・農村論」に関する議論を深めるために「私的所有権の強化と公共性」を総合的視点とし、ポスト過疎化（都市のスポンジ化・地方集落の廃村化と集落再編生といった現象）時代における集住の意味を問うことに集約した。また「科学的客観的な成果を出す努力」についても、人文社会系研究が対象とする「経験」が一過性の再現性のない経験の蓄積であることから、寄り具体性のある事例を抽出することによって、より理論的説明が可能なモデル化を意識した。

既述したように本研究事業においては工学系の都市・集落論と人文社会系の都市・集落論、とりわけ土地所有を中心とした権利関係と人々の産業構造変動にともなう流動化、すなわち必ずしも土地に縛られない自由な移動による、権利の空洞化問題が今後大きな問題となってゆくこと。あるいは私的所有権の強化と相反するような地域住民や都市市民の公共性への意識レベルでの萌芽といった新たな視点を見いだすことが出来たことは、工学系、人文社会系のコラボレーションによる先鋭的議論の端緒となったと評価し得る。またこのような議論をより現実的に深めるために農林水産業に関わる法学的知見、あるいは都市を包む環境法などの専門家を迎えての議論へと発展させることが出来た。

法人番号	061001
プロジェクト番号	S1291002

16 (千円)

年度・区分		支出額	内 訳						備 考
			法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他() 収入	
平成 24 年度	施 設	0							
	装 置	0							
	設 備	0							
	研究費	18,396	9,187	9,186				23	
平成 25 年度	施 設	0							
	装 置	0							
	設 備	0							
	研究費	18,928	9,461	9,415				52	
平成 26 年度	施 設	0							
	装 置	0							
	設 備	0							
	研究費	18,389	8,995	8,994				400	
平成 27 年度	施 設	0							
	装 置	0							
	設 備	0							
	研究費	15,725	7,859	7,859				7	
平成 28 年度	施 設	0							
	装 置	0							
	設 備	0							
	研究費	14,803	7,391	7,390				22	
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	86,241	42,893	42,844	0	0	0	504	
総 計		86,241	42,893	42,844	0	0	0	504	

法人番号	061001
------	--------

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
該当なし							

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積
_____m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

法人番号

061001

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 24 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	1,769	資料整理、報告書作成	1,769	PCソフト、絵葉書整理用ファイル、その他	
光 熱 水 費	0		0		
通信運搬費	711	公開講座等案内、写真展作品輸送	711	企画展・公開講座DM送料、展示作品輸送費、その他	
印刷製本費	1,817	写真展作品制作、報告書作成	1,817	写真展作品プリント代、報告書印刷代、その他	
旅費交通費	6,837	フィールド調査、研究会	6,837	国内外調査旅費、研究会招聘旅費、その他	
報酬・委託料	2,506	写真展、サーバーハウジング料	2,506	写真展設営・撤去料、サーバーハウジング料、その他	
(賃借料)	665	フィールド調査打合せ、公開講座	665	調査打合会場代、公開講座音響機器借料、その他	
(出版物費)	812	調査研究、報告書作成	812	航空写真データ、参考資料、その他	
(設備修繕費)	58	フィールド調査、図書修理	58	カメラレンズ修理、図書修理、その他	
計	15,175		15,175		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	0		0		
教育研究経費支出	681	アルバイト代	681		
				内 容 時給・単価 年間時間・枚数 実人数	
				テープ起こし 80/分 225 分 1	
				資料整理 700/h 212.75 h 12	
				絵葉書整理 700/h 20 h 3	
				絵葉書整理(院卒生) 1000/h 89.5 h 1	
				絵葉書スキャン 30/枚 1181 枚 4	
				絵葉書書誌入力 70/枚 1019 枚 4	
				公開講座等対応 700/h 222.25 h 22	
				データベース入力 700/h 212.75 h 6	
計	681		681		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	750	パソコン	750	パソコン4台	
図 書	1,790	図書、絵はがき	1,790	図書、絵はがき	
計	2,540		2,540		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	0		0		
ポスト・ドクター	0		0		
研究支援推進経費	0		0		
計	0		0		

法人番号

061001

年 度	平成	25 年度					
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳					
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出							
消 耗 品 費	609	発掘調査、報告書作成	609	クリノメーター、パソコンソフト、その他			
光 熱 水 費	0		0				
通信運搬費	371	企画展示、公開講座	371	展示作品輸送代、公開講座DM送料、その他			
印刷製本費	1,699	報告書作成、公開講座・展示	1,699	『東北学03』印刷代、公開講座チラシ印刷代、その他			
旅費交通費	7,456	フィールド調査、公開講座	7,456	国内外調査旅費、講師招聘旅費、その他			
報酬・委託料	5,953	企画展、雑誌『東北学03』	5,953	企画展設営・撤去委託料、雑誌『東北学03』企画編集料、その他			
(賃借料)	1,237	フィールド調査打合せ、展示	1,237	セミナーハウス使用料、展示用品借料、その他			
(出版物費)	126	調査、報告書作成	126	航空写真画像データ、地図、その他			
(損害保険料)	229	公開講座・展示、フィールド調査	229	展示品保険料、海外調査保険料、その他			
(その他)	335	図書修理、フィールド調査	335	図書修理代、調査打合せ代、その他			
計	18,015		18,015				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出							
人件費支出 (兼務職員)	0		0				
教育研究経費支出	530	アルバイト代	530	内 容	時給・単価	年間時間量・枚数	実人数
				テープ起こし	80／分	370 分	6
				展示作業	700／h	294.75 h	52
				公開講座対応	700／h	1.5 h	1
				資料整理	700／h	140.5 h	12
				絵葉書整理	700／h	30.5 h	1
				絵葉書整理(院卒生)	1000／h	174 h	1
				計	530	530	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)							
教育研究用機器備品	0		0				
図 書	338	図書、絵はがき	338	図書、絵はがき			
計	338		338				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出							
リサーチ・アシスタント	45	人件費	45	学内1人			
ポスト・ドクター	0		0				
研究支援推進経費	0		0				
計	45		45	学内1人			

法人番号	061001
------	--------

年 度	平成	26 年度					
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳					
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出							
消 耗 品 費	68	資料整理、フィールド調査	68	資料整理用品、発掘調査機材、その他			
光 熱 水 費	0		0				
通信運搬費	101	公開講座・展示、書籍献本	101	公開講座DM送料、報告書送料、その他			
印刷製本費	2,321	報告書作成、公開講座	2,321	『東北学04』印刷代、成果報告書印刷代、ブックレット印刷代、その他			
旅費交通費	5,727	フィールド調査、研究会	5,727	国内外調査旅費、講師招聘旅費、その他			
報酬・委託料	5,173	『東北学04』業務、公開講座	5,173	『東北学04』企画編集料、DM封入作業委託料、その他			
(賃借料)	415	フィールド調査打合せ、公開講座	415	セミナーハウス使用料、展示用品借料、その他			
(出版物費)	100	研究公開、報告書作成	100	航空写真画像データ、地図、その他			
(会議費)	180	フィールド調査、公開講座・展示	180	調査打合せ代、公開講座打合せ代、その他			
計	14,085		14,085				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出							
人件費支出 (兼務職員)	0		0				
教育研究経費支出	810	アルバイト代	810	内 容	時給・単価	年間時間量・枚数	実人数
				絵葉書整理(院卒生)	1000/ｈ	800 h	1
				公開講座対応(院卒生)	1000/ｈ	10 h	1
計	810		810				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)							
教育研究用機器備品	138	報告書作成	138	プリンター1台			
図 書	392	図書、絵はがき	392	図書、絵はがき			
計	530		530				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出							
リサーチ・アシスタント	300	人件費	300	学内1人			
ポスト・ドクター	2,664	人件費	2,664	学内1人			
研究支援推進経費	0		0				
計	2,964		2,964	学内2人			

法人番号	061001
------	--------

年 度	平成 27 年度						
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳					
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出							
消 耗 品 費	595	発掘道具、コピー用紙	595	発掘道具、コピー用紙、トナー、文房具、その他			
光 熱 水 費	0		0				
通信運搬費	124	献本送料、公開講座案内送料	124	献本送料、公開講座案内送料、その他			
印刷製本費	1,698	報告書印刷代、『東北学』印刷代	1,698	単年度報告書、『東北学06』、ブックレット、公開講座チラシ印刷代、その他			
旅費交通費	4,699	中国調査旅費、調査旅費	4,699	中国調査旅費、研究会開催旅費、調査旅費、その他			
報酬・委託料	3,963	『東北学06』原稿料、サーバー	3,963	『東北学06』原稿料、サーバー委託料、デザイン料、HP構築費、講師謝金、その他			
(賃借料)	562	セミナーハウス、会議室借料	562	セミナーハウス、会議室借料、発掘用重機リース料、その他			
(会議費)	127	発掘調査打ち合わせ弁当	127	発掘調査打ち合わせ弁当、鼎談弁当、その他			
(出版物費)	61	参考資料	61	参考資料			
(その他)	17	図書修理、保守料金	17	図書修理、保守料金、その他			
計	11,846		11,846				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出							
人件費支出 (兼務職員)	0		0				
教育研究経費支出	969	アルバイト代	969	内 容	時給・単価	年間時間量・枚数	実人数
				考古データ整理	700/h	229.5 h	7
				絵葉書データ蓄積(院卒生)	1000/h	173.5 h	2
				絵はがき整理(院卒生)	1000/h	257.0 h	2
計	969		969				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)							
教育研究用機器備品	0		0				
図 書	133	図書、絵はがき	133	図書、絵はがき			
計	133		133				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出							
リサーチ・アシスタント	113	人件費	113	学内1人			
ポスト・ドクター	2,664	人件費	2,664	学内1人			
研究支援推進経費	0		0				
計	2,777		2,777	学内2人			

法人番号	061001
------	--------

年 度	平成	28 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳				
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容		
教 育 研 究 経 費 支 出						
消 耗 品 費	271	発掘道具、コピー用紙	271	発掘道具、コピー用紙、トナー、文房具、その他		
光 熱 水 費	0		0			
通信運搬費	180	献本送料、発掘資料、チラシ	180	献本送料、発掘調査資料、総括シンポジウムチラシ送料、その他		
印刷製本費	1,723	報告書印刷代、チラシ印刷代	1,723	日向洞窟報告書、『東北学08』、公開講座チラシ印刷代、その他		
旅費交通費	3,948	中国調査旅費、調査旅費	3,948	中国調査旅費、研究会開催旅費、国内調査旅費、その他		
報酬・委託料	4,183	『東北学08』原稿料、サーバー委託料	4,183	『東北学08』原稿料、サーバー委託料、デザイン料、その他		
(賃借料)	443	セミナーハウス、会議室借料	443	セミナーハウス借料、会議室借料、発掘用発電機リース料、その他		
(会議費)	115	発掘調査打ち合わせ弁当	115	発掘調査打ち合わせ弁当、対談弁当、その他		
(出版物費)	98	参考資料	98	参考資料		
(その他)	46	図書修理、保守料金	46	図書修理、保守料金、その他		
計	11,007		11,007			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出						
人件費支出 (兼務職員)	0		0			
教育研究経費支出	1,043	アルバイト代	1,043	内 容	時給・単価 年間時間量・枚数 実人数	
				発掘調査整理補助	700/h 4.5 h 3	
				発掘調査補助	100/h 200 h 2	
				絵葉書データ蓄積(院卒生)	1000/h 322 h 1	
				空中写真整理(院卒生)	1000/h 48 h 1	
				テープ起こし	80/m 180 m 1	
				総括シンポジウム資料	700/h 4 h 1	
計	1,043		1,043			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)						
教育研究用機器備品	0		0			
図 書	0		0			
計	0		0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出						
リサーチ・アシスタント	89	人件費	89	学内1人		
ポスト・ドクター	2,664	人件費	2,664	学内1人		
研究支援推進経費	0		0			
計	2,753		2,753	学内2人		

資料編

1	東北芸術工科大学設立の宣言	1
2	東北文化研究センター設立の宣言	2
3	フィールド調査・出張一覧.....	3
4	本事業による刊行物一覧.....	19
5	外部評価	
	・ 中間報告時	25
	・ 最終報告時	29
6	本事業に関する新聞等記事掲載一覧	35
7	東北文化研究センター・アーカイブス画像貸出申請一覧.....	39
8	公開講座等に関するアンケート集計結果.....	42
9	公開講座等の関連告知チラシ	55
10	調査地の集落図	63

東北芸術工科大学設立の宣言

この大学は、悠久の大河最上川をつつんで、
蔵王連峰、出羽三山、朝日連峰に囲まれる
日本文化の源流、縄文の奥深い土壌の中から生まれた。

産業革命に始まる近代文明は、二十世紀末の今日に至って、
人類自らを存亡の危機に立たせている。
科学技術と経済理論によって支配された現代社会は、
それ故に、人類史を貫いてきた精神の尊厳、
人間であることの意味を、根底から問われるに至った。

目前に迫った新しい世紀は、戦争と平和、南北問題、
更には体制崩壊の問題を基軸とする新しい世界調和への展望、
そして何よりも、この母なる大地―地球―をいかにして守るか、
これら人類生存条件の解決こそ最大の課題ではなからうか。

この大学は、芸術的創造と、人類の良心によって
科学技術を運用する新しい世界観の確立を目指して、
その課題に応えたい。

わが大学の前に道はなし。
あるは、歴史的実験のみ――。

一九九二年 春

東北文化研究センター設立の宣言

大学設立の宣言に謳われた精神の導くところに従って、
ここに愈々、東北文化研究センターを設立する。

*

弥生史観の暗闇の中から、縄文の光が次第に大きく
日本の魂を揺さぶりはじめている。

東北には、一万年を超える長きにわたって、縄文の精神が脈々と受け継がれてきた。
日本文化の中心といわれる奈良、京都といえども、その歴史はわずかに千数百年。
縄文の土壌の奥深さにはかなうべくもない。
今日、三内丸山に象徴される数々の発見は、
弥生にはじまる農耕文化が日本文化の原型であるという定説を完全に覆し、
環太平洋の世界的な広がりの中に、
日本文化の基層を改めて問うべき必要を教えている。

東北の地には、海洋と森林の豊かな実りに支えられて、
大自然との共生原理に基づき優れた文明が存在していた。
その研究は、日本の文化史を塗り替えるだけでなく、
人類の文明史観そのものに転換を迫るに違いない。

この東北こそ、日本に残された最後の自然―母なる大地―である。
現代文明の過ちを克服し人間の尊厳を取り戻す戦いの砦である。

東北芸術工科大学は、この豊穡な大地の懷に抱かれて、
次代を担う青春と、人類の未来に思いを馳せる多くの良心を結集し、
縄文の心を、新たな世界観へと結晶させることを願って設立された。

東北文化研究センターが、その中核として、
日本の新たな文明像を発掘し見事に開花させるための、
第一級の研究拠点となることを願ってやまない。

一九九九年四月二十五日 東北芸術工科大学

フィールド調査・出張一覧

<国内>

ー平成 24（2012）年度ー

帆里、小座間雅子、鈴木彩也花、本間結希
乃、高橋裕子、笹原理美、徳永司、小関大
輔、大宮保幸、成田琳太郎（以上学部生）

- 1) 第 23 回「プナ林と狩人の会：マタギサミット」開催に関する打ち合わせ（シンポジウム部分）
日 時：平成 24 年 4 月 20 日
調査地：岩手県遠野市
参加者：田口洋美、蛭原一平
- 2) 東北中山間地集落での生業に関わる儀礼等の参与観察
日 時：平成 24 年 5 月 3 日ー 5 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平、中村只吾
安達莉穂、小松諒、田山雄貴、沼尾聡子、鈴木里佳、相澤彩夏、小西洋平（以上学部生）
- 3) 東北中山間地集落での生業活動および儀礼等の参与観察
日 時：平成 24 年 5 月 11 日ー 13 日
調査地：山形県小国町小玉川地区・五味沢地区
参加者：蛭原一平、中村只吾
安達莉穂、小松諒、田山雄貴、沼尾聡子、河内彩華、相澤彩夏、高橋里奈（以上学部生）
- 4) 東北地方の中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する予備調査
日 時：平成 24 年 6 月 1 日ー 3 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平
千尋美紀、小松諒、渡邊みなみ、川崎那悠（以上学部生）
- 5) 「第 23 回マタギサミット」記録作業を通した中山間地集落での生業活動に関する記録資料の収集
日 時：平成 24 年 6 月 30 日ー 7 月 1 日
調査地：岩手県遠野市
参加者：蛭原一平、竹原万雄、中村只吾
高橋里奈、阿部さやか、大泉渉、川崎那悠、相澤彩夏、沼尾聡子、鈴木里佳、中居茜、宇部めぐみ、荒川千晴、難波壮太、鈴木達彦、小松諒、安達莉穂、大沼文香、高橋佳
- 6) 「災害・復興アーカイブシンポジウム in 宮城」参加による情報収集
日 時：平成 24 年 7 月 6 日
調査地：宮城県石巻市
参加者：佐藤健治、中村只吾、蛭原一平
- 7) 「前田村文書」の撮影
日 時：平成 24 年 7 月 15 日
調査地：南原町公民館（山形県）
参加者：竹原万雄
阿部さやか、平井裕美子、清野翔子、櫛引理沙、菅沼信輝、斉藤康雄（以上学部生）
- 8) 東北地方の集落研究に関わる巡見・資料収集および関係者との事前協議
日 時：平成 24 年 7 月 20 日ー 23 日
調査地：青森県八戸市周辺
参加者：田口洋美、佐藤健治、蛭原一平、中村只吾、辻誠一郎（東京大学大学院）
- 9) 東北地方の集落研究に関わる巡見・資料収集および関係者との事前協議
日 時：平成 24 年 7 月 22 日ー 23 日
調査地：青森県八戸市周辺
参加者：入間田宣夫、安斎正人
- 10) 八戸を中心とした沿岸部における近現代の集落変遷に関する資料収集
日 時：平成 24 年 8 月 16 日ー 18 日
調査地：岩手県久慈市～青森県八戸市までの沿岸部
参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平、森本孝（あるくみるきく研究所）、川島秀一（神奈川大学大学院）
- 11) 三陸沿岸部における近現代の集落変遷に関する資料収集
日 時：平成 24 年 8 月 18 日ー 20 日
調査地：岩手県釜石市周辺、宮城県気仙沼市・牡鹿郡

- 参加者：謝黎、蛭原一平、森本孝、川島秀一
- 12) 東北地方の中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する現地調査
日 時：平成 24 年 8 月 21 日－25 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：蛭原一平、鈴木清（民俗建築研究所）
高橋裕子、高橋佳帆里、鈴木彩也花、丹野ゆきほ、小松諒、川崎那悠、鈴木里佳（以上学部生）
- 13) 前近代における中山間地集落の動態に関する文書資料の確認
日 時：平成 24 年 8 月 23 日－25 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：竹原万雄、中村只吾
- 14) 北東北および北海道西南部における縄紋集落に関する資料調査
日 時：平成 24 年 9 月 5 日－9 日
調査地：青森県青森市・弘前市・西目屋村、北海道函館市・森町一帯
参加者：安斎正人
- 15) ブックレットの記録資料作成に係る製図作業の技術指導ならびに山形盆地周辺地域における古民家の分布確認調査
日 時：平成 24 年 9 月 18 日－23 日
調査地：東北芸術工科大学・村山郡一帯
参加者：蛭原一平、鈴木清
- 16) 下北半島山間部及び三陸沿岸部における近現代の集落動態に関する情報収集
日 時：平成 24 年 9 月 25 日－10 月 4 日
調査地：青森県むつ市・佐井村、岩手県釜石市周辺
参加者：蛭原一平、森本孝
- 17) 是川縄文館学芸員との打ち合わせおよび八戸市周辺の関連施設巡見
日 時：平成 24 年 9 月 28 日－29 日
調査地：青森県八戸市周辺
参加者：安斎正人、長井謙治、北野博司、辻誠一郎、佐藤宏之（東京大学大学院）、福田正宏（東京大学大学院）
- 18) 「前田村文書」の撮影
日 時：平成 24 年 10 月 13 日
調査地：南原町公民館（山形市）
- 参加者：竹原万雄
阿部さやか、清野翔子、佐々木彩夏、櫛引理沙、菅沼信輝、斉藤康雄、藤原詩織、高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、瀧口友香（以上学部生）
- 19) GIS 研修会
日 時：平成 24 年 10 月 22 日－23 日
調査地：東京都千代田区 GIS ラウンジ
参加者：長井謙治、蛭原一平、中村只吾
- 20) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する研究の集落図作成
日 時：平成 24 年 10 月 21 日－23 日
調査地：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
- 21) 東北地方の内陸部集落の構造と変遷に関する歴史的調査
日 時：平成 24 年 10 月 26 日－28 日
調査地：青森県八戸市南郷区島守地区
参加者：入間田宣夫、佐藤健治、竹原万雄、中村只吾、菊池勇夫（宮城学院女子大学）
- 22) 東北地方の中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する現地調査
日 時：平成 24 年 11 月 1 日－4 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美、蛭原一平、鈴木清
高橋裕子、高橋佳帆里、鈴木彩也花、藤井渉、小松諒、川崎那悠、鈴木里佳（以上学部生）
- 23) 航空撮影による三陸沿岸部の集落分布と集落景観の記録
日 時：平成 24 年 11 月 9 日－11 日
調査地：三陸沿岸（宮城県石巻市～岩手県久慈市）、岩手県花巻市周辺（北上市～八幡平市）
参加者：田口洋美、蛭原一平、中村只吾
- 24) 東北山間地集落における生業にかかわる儀礼等の参与観察
日 時：平成 24 年 11 月 17 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：謝黎、蛭原一平
高橋里奈、相澤彩夏、鈴木里佳、笹原理美（以上学部生）
- 25) GIS 最新情報セミナーへの参加

- 日 時：平成 24 年 11 月 21 日
調査地：TKP 仙台カンファレンスセンター（宮城県）
参加者：長井謙治、蛭原一平
- 26) 東北地方の中山間地集落における生業と集落景観
の変遷に関する現地調査の集落図製図指導
日 時：平成 24 年 11 月 23 日－25 日
調査地：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
- 27) 八戸一帯の集落変遷に関する研究：八戸市周辺に
おける考古分野の資料調査
日 時：平成 24 年 12 月 8 日－10 日
調査地：青森県青森市・野辺地町・八戸市
参加者：長井謙治
- 28) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関
する研究（ブックレット作成に向けた本寺地区現
地調査）
日 時：平成 24 年 12 月 9 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
櫛引理沙、三好明日美、早川由希子、塚野
聡史、檜野泰巳、鈴木彩也花（以上学部生）
- 29) 沿岸集落の変遷に関する調査（沖縄）
日 時：平成 25 年 1 月 18 日－23 日
調査地：沖縄県南城市・八重瀬町・糸満市・石垣市・
竹富町
参加者：田口洋美、蛭原一平
- 30) 八戸地域の古代集落の動態調査
日 時：平成 25 年 2 月 1 日－2 日
調査地：青森県青森市・八戸市
参加者：北野博司、林正之（東京大学大学院）
- 31) 中山間地集落の変遷に関する調査（本寺地区にお
ける近世・近代の文書資料調査）
日 時：平成 25 年 2 月 2 日－3 日
調査地：一関市博物館（岩手県）
参加者：竹原万雄
因幡敬宏、阿部さやか、村田悠奈、平井裕
美子、清野翔子、佐々木彩夏
- 32) 戦後開拓および移転集落の変遷に関する研究（下
北半島調査）
日 時：平成 25 年 2 月 2 日－5 日
調査地：青森県むつ市
- 参加者：蛭原一平、森本孝
- 33) 集落変遷調査（砺波平野および周辺中山間地）
日 時：平成 25 年 2 月 4 日－6 日
調査地：富山大学（富山県）、富山県立山町
参加者：田口洋美
- 34) 集落景観および生業に関する記録資料の作成と収
集（平成 24 年度ウサギ狩りの参加）
日 時：平成 25 年 2 月 8 日－11 日
調査地：山形県小国町五味沢地区
参加者：蛭原一平、中村只吾
相澤彩夏、太田かおり、小松諒、早川由希
子、笹原理美、梅原もも子（以上学部生）
- －平成 25（2013）年度－
- 35) 中山間地集落の変遷に関する調査（一関市博物館
等の見学及び骨寺村荘園遺跡の実地調査）
日 時：平成 25 年 4 月 14 日
調査地：一関市博物館・骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
小座間雅子、櫻庭千晃、塚野聡史、檜野泰
巳、須貝慎吾、瀧口友香（以上学部生）
- 36) 中山間地集落の変遷に関する調査（骨寺村荘園遺
跡の実地調査）
日 時：平成 25 年 4 月 20 日－21 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、星雪
音、三好明日美、川崎那悠（以上学部生）
- 37) 関野吉晴写真展『海のグレートジャーニー 人類
の旅』展示の準備に関わる視察
日 時：平成 25 年 4 月 26 日
調査地：国立科学博物館（東京都）
参加者：蛭原一平、中村只吾
- 38) 集落景観および生業に関する記録資料の作成と収
集（小国町五味沢地区における春グマ猟の記録）
日 時：平成 25 年 4 月 26 日－28 日
調査地：山形県小国町五味沢地区
参加者：田口洋美、蛭原一平
小松諒（学部生）
- 39) 集落景観および生業に関する記録資料の作成と収
集（小国町小玉川における熊祭りの記録）

- 日 時：平成 25 年 5 月 3 日－ 4 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：蛭原一平、謝黎
相澤彩夏、鈴木里佳、藤井渉、安達莉穂、
島貫ひより、田中望（以上学部生）
- 40) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（阿
仁におけるクマ猟の記録）
日 時：平成 25 年 5 月 4 日－ 6 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美、蛭原一平
川崎那悠、鈴木里佳（以上学部生）
- 41) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（阿
仁根子集落調査）
日 時：平成 25 年 5 月 9 日－ 12 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美、蛭原一平、鈴木清
川崎那悠、小松諒、田中望、高橋果子、鈴
木彩也花、高橋佳帆里、高橋裕子（以上学
部生）
- 42) 小国小玉川におけるワラビ野焼きの記録
日 時：平成 25 年 5 月 10 日－ 12 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：竹原万雄、中村只吾
相澤彩夏、沼尾聡子、太田かおり、藤原詩
織、吉田郁哉（以上学部生）
- 43) 沿岸集落の変遷に関する調査（三陸地方）
日 時：平成 25 年 5 月 16 日－ 19 日
調査地：岩手県釜石市・久慈市
参加者：蛭原一平、森本孝
- 44) 東北地方における少数民族の集落形成に関する研
究（八戸市周辺における考古分野の調査打ち合わせ）
日 時：平成 25 年 5 月 23 日－ 24 日
調査地：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（青
森県）
参加者：安斎正人
- 45) 気仙沼ブックレット作成の打ち合わせ
日 時：平成 25 年 6 月 4 日
調査地：東北大学災害科学国際研究所（宮城県）
参加者：蛭原一平、中村只吾
- 46) 空中撮影による東北地方の集落分布と集落景観の
記録（山形県置賜および最上川流域）
- 日 時：平成 25 年 6 月 8 日－ 9 日
調査地：山形県全域
参加者：田口洋美・佐藤健治・蛭原一平
- 47) 国際シンポジウム打ち合わせ
日 時：平成 25 年 6 月 14 日－ 15 日
調査地：国立民族学博物館（大阪府）
参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平、佐藤宏之、思
沁夫（大阪大学）、佐々木史郎（国立民族
学博物館）
- 48) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（製
図指導）
日 時：平成 25 年 6 月 20 日－ 22 日
調査地：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、高橋
果子（以上学部生）
- 49) 東北地方における少数民族の集落形成に関する研
究（八戸市周辺における考古分野の調査打ち合わせ）
日 時：平成 25 年 6 月 24 日
調査地：東京大学（東京都）
参加者：田口洋美、福田正宏
- 50) 八戸一帯を対象とした集落変遷に関する通史的研
究（歴史班調査）
日 時：平成 25 年 6 月 27 日－ 30 日
調査地：青森県八戸市南郷区島守地区
参加者：佐藤健治
- 51) 集落景観および生業に関する記録資料の作成と収
集（第 24 回マタギサミットへの参加）
日 時：平成 25 年 6 月 29 日－ 30 日
調査地：福島県猪苗代町・南会津町・只見町
参加者：蛭原一平、中村只吾
川崎那悠、鈴木里佳、宇部めぐみ、田山雄
貴、小松諒、安達莉穂、大沼文香、太田か
おり、早川由希子、田中望、小関大輔、塚
野聡史、須貝慎吾（以上学部生）
- 52) 被災以前の集落の暮らしに関するブックレット作
成のための現地調査（唐桑半島調査）
日 時：平成 25 年 7 月 5 日－ 7 日
調査地：宮城県気仙沼市唐桑半島
参加者：蛭原一平、中村只吾、川島秀一（東北大学）
- 53) 東北地方における少数民族の集落形成に関する研

- 究（八戸市周辺における考古分野の調査打ち合わせ）
 日 時：平成 25 年 7 月 14 日
 調査地：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（青森県）
 参加者：田口洋美、長井謙治
- 54) 学内 WS での発表および GIS ソフトの解析技術に関する指導
 日 時：平成 25 年 7 月 16 日－17 日
 調査地：東北芸術工科大学
 参加者：近藤康久（東京工業大学・日本学術振興会特別研究員 PD）
- 55) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（製図指導）
 日 時：平成 25 年 7 月 25 日－28 日
 調査地：東北芸術工科大学
 参加者：鈴木清
 高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、高橋果子（以上学部生）
- 56) 東北地方における集落変遷に関する研究（八戸市周辺における考古分野の資料調査）
 日 時：平成 25 年 7 月 29 日－8 月 2 日
 調査地：青森県、岩手県、秋田県
 参加者：長井謙治、安斎正人
- 57) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究（謝黎コレクション展「北と南の混淆～旗袍に隠された近代中国の歴史～」打ち合わせ）
 日 時：平成 25 年 7 月 31 日－8 月 1 日
 調査地：神戸ファッション美術館（兵庫県）
 参加者：謝黎、浜田久仁雄（神戸ファッション美術館）、大山弘美（神戸ファッション美術館）
- 58) 中山間地集落の変遷に関する現地調査
 日 時：平成 25 年 7 月 31 日－8 月 4 日
 調査地：長野県栄村小赤沢地区、新潟県津南町大赤沢地区、秋田県北秋田市阿仁地区
 参加者：田口洋美
 小松諒（学部生）
- 59) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（阿仁根子集落調査）
 日 時：平成 25 年 8 月 1 日－4 日
 調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
 参加者：蛭原一平、鈴木清
- 鈴木里住、成澤翔太、小松諒、田中望、高橋果子、鈴木彩也花、高橋佳帆里、高橋裕子、佐竹美香、三浦真紀子、島貫ひより（以上学部生）
- 60) 北海道の先史（旧石器・縄紋・続縄紋）遺跡出土の遺物
 日 時：平成 25 年 8 月 19 日－24 日
 調査地：北海道旭川市・札幌市・函館市
 参加者：安斎正人
- 61) 高島の洞窟遺跡群・日向洞窟の発掘調査
 日 時：平成 25 年 8 月 30 日－9 月 13 日
 調査地：日向洞窟遺跡（山形県）
 参加者：長井謙治、安斎正人、渋谷孝雄（山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館）、菊池強一（岩手県立大学）
 日野正祥、中川幹啓、馬場羽瑠桂（以上國學院大学学生）
 香取千暁、渡邊みなみ、千尋美紀、亀山絵莉香、石塚隆弥、佐藤神武、小関大輔、檜野泰巳、塚野聡史、須貝慎吾、濱谷優芽、上野遥奈、菊池駿貴、佐竹美香、島貫ひより（以上学部生）
 協 力：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館、高島町教育委員会
- 62) 戦後開拓および移転集落の変遷に関する研究（下北半島現地調査）
 日 時：平成 25 年 9 月 7 日－12 日
 調査地：青森県むつ市
 参加者：森本孝
- 63) 中山間地集落の変遷に関する調査（一関市博物館等での資料収集および骨寺村荘園遺跡での実地調査）
 日 時：平成 25 年 9 月 10 日－11 日
 調査地：一関市博物館・一関市立図書館・一関市役所・骨寺村荘園遺跡（岩手県）
 参加者：竹原万雄
 本間結希乃、高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、菅沼信輝（以上学部生）
- 64) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（製図指導）
 日 時：平成 25 年 9 月 13 日－14 日
 調査地：東北芸術工科大学
 参加者：鈴木清

- 成澤翔太、高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、高橋果子（以上学部生）
- 調査地：岩手県一関市室根町
参加者：佐藤健治、中村只吾
- 65) 北海道における近代以降の資源開発と集落変遷に関する資料収集
日 時：平成 25 年 9 月 18 日－27 日
調査地：北海道道央・道東
参加者：蛸原一平
- 66) 北部九州の縄紋化のプロセス
日 時：平成 25 年 9 月 23 日－27 日
調査地：福岡県、長崎県
参加者：安斎正人
- 67) 気仙沼ブックレット作成の打ち合わせ
日 時：平成 25 年 10 月 1 日
調査地：東北大学災害科学国際研究所（宮城県）
参加者：蛸原一平
- 68) 中山間地集落の変遷に関する調査（一関市博物館企画展見学、須川温泉実地踏査、骨寺村荘園遺跡稲刈体験交流会への参加）
日 時：平成 25 年 10 月 5 日－6 日
調査地：一関市博物館・骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花（以上学部生）
- 69) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（製図指導）
日 時：平成 25 年 10 月 16 日－18 日
調査地：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
成澤翔太、小松諒、高橋裕子、高橋佳帆里、鈴木彩也花、高橋果子（以上学部生）
- 70) 北陸地方における縄文集落の遺跡調査：黒姫洞窟遺跡の発掘
日 時：平成 25 年 10 月 26 日－27 日
調査地：黒姫洞窟（新潟県）
参加者：長井謙治
千尋美紀、檜野泰巳、須貝慎吾、塚野聡史、上野遥奈、濱谷優芽、菊池駿貴、島貫ひより（以上学部生）
- 71) 被災以前の集落の暮らしに関するブックレット作成のための現地調査（唐桑半島調査）
日 時：平成 25 年 10 月 26 日－27 日
- 72) 東北地方における集落変遷に関する研究（八戸市周辺における考古分野の資料調査）
日 時：平成 25 年 11 月 7 日－8 日
調査地：青森県八戸市
参加者：長井謙治、福田正宏
- 73) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（阿仁根子集落調査）
日 時：平成 25 年 11 月 7 日－12 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美、蛸原一平、鈴木清
鈴木里佳、成澤翔太、川崎那悠、小松諒、高橋裕子、鈴木彩也花、高橋佳帆里、高橋果子、三浦真紀子（以上学部生）
- 74) 中山間地集落の変遷に関する調査（岩手県一関市巖美町本寺地区での聞き書き調査）
日 時：平成 25 年 11 月 17 日
調査地：岩手県一関市巖美町本寺地区
参加者：竹原万雄
高橋裕子、高橋佳帆里、鈴木彩也花（以上学部生）
- 75) 東北地方における集落変遷に関する研究「（仮称）研究データベース」構築と旧地形の復元
日 時：平成 25 年 12 月 5 日－6 日
調査地：青森県八戸市、東京都
参加者：長井謙治、辻誠一郎、近藤康久（総合地球環境学研究所）
- 76) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する調査（岩手県一関市巖美町本寺地区での行事参加と集落調査）
日 時：平成 25 年 12 月 15 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
高橋佳帆里、鈴木彩也花、菊池駿貴、上野遥奈、八鍬康平、本間かりん、片桐遼（以上学部生）
- 平成 26（2014）年度—
- 77) ブックレット『小々汐仁屋の年中行事』刊行に関する地元協力者への挨拶
日 時：平成 26 年 4 月 4 日－5 日

- 調査地：気仙沼市教育委員会（宮城県）
参加者：蛸原一平、川島秀一
- 78) 滝山地区に残る石碑と古道の研究
日 時：平成 26 年 4 月 5 日
調査地：山形県山形市滝山地区
参加者：佐藤健治
三好明日美、斉藤康雄、菅村朋生、藤井涉
（以上学部生）
- 79) 八戸一帯の集落動態に関する歴史学的研究
日 時：平成 26 年 4 月 10 日－11 日
調査地：青森県八戸市
参加者：佐藤健治
- 80) 八戸一帯の集落動態に関する歴史学的研究
日 時：平成 26 年 4 月 18 日－20 日
調査地：青森県八戸市
参加者：佐藤健治、入間田宣夫、竹原万雄、中村只
吾、古里淳（八戸市博物館）
- 81) 考古学研究会第 60 回総会・研究集会
日 時：平成 26 年 4 月 18 日－20 日
調査地：岡山大学（岡山県）
参加者：長井謙治
- 82) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関
する調査
日 時：平成 26 年 4 月 24 日
調査地：岩手県一関市巖美町本寺地区
参加者：竹原万雄
- 83) ブックレット『阿仁根子』刊行に関する地元協力
者への挨拶
日 時：平成 26 年 4 月 25 日－26 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区・北秋田市教育委
員会（秋田県）
参加者：蛸原一平
小松諒、高橋佳帆里（以上学部生）
- 84) 沿岸集落の変遷に関する調査（唐桑半島調査）
日 時：平成 26 年 4 月 26 日－27 日
調査地：宮城県気仙沼市唐桑町
参加者：中村只吾、佐藤未希、川島秀一、斎藤善之
（東北学院大学）
- 85) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関
する調査
日 時：平成 26 年 4 月 27 日
調査地：岩手県一関市巖美町本寺地区
参加者：竹原万雄、佐藤未希
本間かりん、高橋裕子、櫻庭千晃、鈴木彩
也花（以上学部生）
- 86) 生業技術の継承システムに関わる映像資料の作成
日 時：平成 26 年 5 月 2 日－5 日
調査地：秋田県北秋田市阿仁地区
参加者：田口洋美
小松諒（学部生）
- 87) 東北山間地集落での生業に関わる儀礼等の参与観察
日 時：平成 26 年 5 月 3 日－4 日
調査地：山形県小国町
参加者：中村只吾、佐藤未希
松本祥太郎、佐藤恒介、菊池駿貴、本間か
りん（以上学部生）、田中望（大学院生）
- 88) 小国町小玉川地区におけるワラビ野焼きの記録
日 時：平成 26 年 5 月 9 日－11 日
調査地：山形県小国町
参加者：中村只吾
齋藤綾子、高橋裕子、鈴木彩也花、安達莉
穂（以上学部生）、浅野友理子、田中望（以
上大学院生）
- 89) 村山地区の集落動態に関する歴史学的研究
日 時：平成 26 年 5 月 17 日
調査地：山形県山形市滝山地区
参加者：佐藤健治、中村只吾
斉藤康雄、佐藤大志、佐藤大夢、須貝慎吾、
鈴木彩也花、高橋裕子、新田実音人、藤井
涉、義高樹（以上学部生）
- 90) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関
する調査
日 時：平成 26 年 5 月 22 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄、佐藤未希
高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花（以上
学部生）
- 91) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関
する調査
日 時：平成 26 年 6 月 1 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄

- 本間かりん、高橋裕子、鈴木彩也花（以上学部生）
- 92) 沿岸集落の変遷に関する調査
日 時：平成 26 年 6 月 5 日－6 日
調査地：宮城県気仙沼市・女川町
参加者：蛭原一平、中村只吾
- 93) 滝山地区の歴史に関する聞き取り調査
日 時：平成 26 年 6 月 13 日
調査地：南原町公民館（山形県）
参加者：佐藤健治、中村只吾
三好明日美、斉藤康雄、菅村朋生、荒井翔、藤井渉（以上学部生）
- 94) 東北地方における集落変遷に関する研究集会および遺跡データベース調査
日 時：平成 26 年 6 月 14 日－16 日
調査地：青森県八戸市
参加者：長井謙治、佐藤宏之、福田正宏、根岸洋（国際教養大学）
小関大輔、島貫ひより（以上学部生）
- 95) 蔵王上野地区古文書の調査
日 時：平成 26 年 7 月 4 日－5 日
調査地：山形県山形市蔵王上野地区
参加者：中村只吾、竹原万雄、藤方博之（国立歴史民俗博物館）、佐藤正三郎（米沢市上杉博物館）
- 96) 戦後開拓と移転集落の変遷に関する調査
日 時：平成 26 年 7 月 11 日－15 日
調査地：青森県むつ市・佐井村
参加者：蛭原一平、森本孝、鈴木清
- 97) 長井盆地における散居集落調査
日 時：平成 26 年 7 月 26 日
調査地：山形県長井市
参加者：蛭原一平、中村只吾
小松諒、高橋佳帆里、高橋果子、菊池駿貴、別府美空、松本祥太朗（以上学部生）、守谷英一（大学院生）
- 98) 八戸一帯を対象とした集落変遷に関する通史的研究
日 時：平成 26 年 7 月 26 日－27 日
調査地：青森県八戸市南郷区
参加者：佐藤健治
- 99) 中山間地集落における生業と集落景観の変遷に関する調査
日 時：平成 26 年 8 月 5 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄、佐藤未希
高橋佳帆里、高橋裕子、鈴木彩也花、本間かりん（以上学部生）
- 100) 甲信越地方の縄文時代中期の集落遺跡と出土遺物調査
日 時：平成 26 年 8 月 7 日－12 日
調査地：山梨県、長野県、新潟県
参加者：安斎正人
- 101) 高島の洞窟遺跡群・日向洞窟の発掘調査
日 時：平成 26 年 8 月 17 日－9 月 2 日
調査地：日向洞窟遺跡群（山形県）
参加者：長井謙治、安斎正人、佐藤宏之、菊池強一、千尋美紀、石塚隆弥、亀山絵莉香、檜野泰巳、須貝慎吾、島貫ひより、佐藤孝紀、高畑裕莉香、栗原典子、千葉夏海、小関大輔、徳永司、塚野聡史、川口智也、濱谷優芽、上野遥奈、菊池駿貴、本間かりん、佐藤恒介（以上学部生）、菅頭明日香（富山大学大学院）、渡辺玲（早稲田大学大学院）、佐藤悠登（早稲田大学）、上田優喜（元、本学学部生）
- 102) 八戸一帯を対象とした集落変遷に関する通史的研究
日 時：平成 26 年 8 月 21 日－24 日
調査地：青森県八戸市南郷区
参加者：佐藤健治
松本祥太朗、志田若菜、堀川萌、森田真生、千葉夏海、高橋佳帆里、高橋裕子（以上学部生）
- 103) 戦後開拓および移転集落の変遷に関する研究
日 時：平成 26 年 8 月 27 日－31 日
調査地：青森県むつ市
参加者：蛭原一平、佐藤未希
高橋果子、本間結希乃、八鍬康平、富田恭平（以上学部生）
- 104) 戦後開拓および移転集落の変遷に関する研究
日 時：平成 26 年 8 月 28 日－9 月 4 日
調査地：青森県むつ市
参加者：森本孝、鈴木清
- 105) 北海道の集落景観等に関する巡見調査

- 日 時：平成 26 年 9 月 10 日－19 日
調査地：北海道
参加者：中村只吾
- 106) 津軽ダム工事関連発掘調査現場見学
日 時：平成 26 年 9 月 25 日－26 日
調査地：青森県津軽市
参加者：安斎正人、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、根岸洋、小林圭一（山形県埋蔵文化財センター）
- 107) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）
日 時：平成 26 年 10 月 3 日－5 日
調査地：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区
参加者：中村只吾、佐藤未希、川島秀一
鈴木彩也花、菊池駿貴、千葉夏海（以上学部生）
- 108) 空中撮影による東北地方の集落分布と集落景観の記録（三陸北部・八戸・男鹿・阿仁一帯）
日 時：平成 26 年 10 月 4 日－6 日
調査地：岩手県、青森県、秋田県
参加者：田口洋美、蛭原一平
- 109) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（長井・飯豊調査）
日 時：平成 26 年 10 月 31 日
調査地：山形県長井市・飯豊町
参加者：蛭原一平
高橋佳帆里、高橋果子、鈴木彩也花（以上学部生）、守谷英一（大学院生）
- 110) 地域活性化の取り組みに関する調査（小国町小玉川での行事への参加）
日 時：平成 26 年 11 月 1 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：中村只吾
高橋佳帆里、高橋果子、菊池駿貴、松本祥太朗、千葉夏海（以上学部生）、古田和子、金山友美（以上大学院生）
- 111) 中山間集落の変遷に関する調査（骨寺村荘園遺跡聞き書き調査）
日 時：平成 26 年 11 月 7 日
調査地：骨寺村荘園遺跡（岩手県）
参加者：竹原万雄
鈴木彩也花（以上学部生）
- 112) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）
日 時：平成 26 年 11 月 16 日
調査地：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区
参加者：田口洋美、中村只吾、佐藤未希
菊池駿貴、岩田采、松本祥太朗（以上学部生）
- 113) 八戸藩狩猟関係史料集にかかる調査
日 時：平成 26 年 11 月 18 日－20 日
調査地：青森県八戸市
参加者：村上一馬（東北歴史博物館）
- 114) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（鶴岡市大鳥）
日 時：平成 26 年 11 月 28 日－30 日
調査地：山形県鶴岡市大鳥地区
参加者：田口洋美、蛭原一平
堀川萌、高橋裕子、小松諒、松田廣大（以上学部生）
- 115) 蔵王上野地区古文書の調査
日 時：平成 26 年 12 月 4 日－6 日
調査地：山形県山形市蔵王上野地区
参加者：中村只吾、竹原万雄、藤方博之
- 116) 戦後開拓および移転集落の変遷に関する研究
日 時：平成 26 年 12 月 12 日－16 日
調査地：青森県むつ市・佐井村
参加者：蛭原一平、鈴木清、森本孝
- 117) 地域活性化の取り組みに関する調査（小国町小玉川での行事への参加）
日 時：平成 27 年 2 月 14 日－15 日
調査地：山形県小国町小玉川地区
参加者：中村只吾
高橋佳帆里、高橋裕子、菊池駿貴（以上学部生）
- 118) 骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会への参加
日 時：平成 27 年 3 月 8 日
調査地：一関市博物館研修室（岩手県）
参加者：佐藤健治、竹原万雄
－平成 27（2015）年度－
- 119) ブックレット『下北半島野平』刊行に関する地元協力者への挨拶
日 時：平成 27 年 4 月 13 日－16 日
場 所：むつ市教育委員会・むつ市立図書館・川内

- 町褓川公民館（青森県）
参加者：蛭原一平、森本孝、鈴木清
- 120) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）
日 時：平成 27 年 4 月 23 日－27 日
場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区
参加者：中村只吾、佐藤未希、川島秀一
鈴木彩也花、菊池駿貴、島貫ひより、岩田
采、千葉夏海（以上学部生）
- 121) 生業技術の継承システムに関わる映像資料の作成
日 時：平成 27 年 5 月 1 日－6 日
場 所：秋田県北秋田市阿仁地区、山形県鶴岡市大
鳥地区
参加者：田口洋美
平井礼人（学部生）、小松諒（大学院生）
- 122) 東北山間地集落での生業に関わる儀礼等の参与観察
日 時：平成 27 年 5 月 3 日－5 日
場 所：山形県小国町
参加者：中村只吾
高橋佳帆里、本間かりん、松本祥太郎、後
藤陸、三浦敦美、五十嵐里帆（以上学部生）
- 123) 小国町小玉川におけるワラビ野焼きの記録
日 時：平成 27 年 5 月 8 日－10 日
場 所：山形県小国町
参加者：中村只吾
高橋裕子、本間かりん、岩田采、齋藤綾子
（以上学部生）、清野翔子（大学院生）
- 124) 日向洞窟遺跡発掘調査にかかる遺跡分布調査
日 時：平成 27 年 5 月 22 日－23 日
場 所：山形県高島町
参加者：長井謙治
菊池駿貴、上野遥奈、島貫ひより、濱谷優
芽、本間かりん（以上学部生）
- 125) 槻山家文書の撮影と「本寺キツネの伝説」に関す
る聞き書き
日 時：平成 27 年 6 月 14 日
場 所：岩手県一関市
参加者：竹原万雄
鈴木彩也花、玉川理沙、東海林怜奈、三浦
宏子、三浦真紀子、別府美空、皆川千尋（以
上学部生）
- 126) 民家に注目した集落ブックレット作成のための調査
日 時：平成 27 年 6 月 22 日
場 所：福島市民家園（福島県）
参加者：田口洋美、蛭原一平、鈴木清
- 127) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）
日 時：平成 27 年 6 月 23 日－27 日
場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区
参加者：中村只吾、佐藤未希、鈴木清
鈴木彩也花（学部生）
- 128) 東北一万年のフィールドワーク公開研究会「なぜ
ムラは消えたのか」打ち合わせ
日 時：平成 27 年 7 月 4 日－5 日
場 所：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（青
森県）
参加者：北野博司
- 129) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成の
ための調査（大鳥調査）
日 時：平成 27 年 7 月 10 日－12 日
場 所：山形県鶴岡市大鳥地区
参加者：蛭原一平、浅野友理子
平井礼人、本間かりん（以上学部生）、小
松諒（大学院生）
- 130) 岩手県北部における考古資料調査
日 時：平成 27 年 7 月 20 日－21 日
場 所：岩手県滝沢市・岩泉町
参加者：長井謙治、菊池強一
- 131) 八戸藩庁狩猟関係史料集作成調査
日 時：平成 27 年 7 月 21 日－24 日
場 所：八戸市立図書館（青森県）
参加者：村上一馬
- 132) 日向洞窟発掘調査事前準備
日 時：平成 27 年 7 月 25 日
場 所：山形県高島町
参加者：長井謙治
徳永司、塚野聡史、小関大輔、菊池駿貴、
佐藤恒介、濱谷優芽、小田桐孔誌、佐藤純
一、鷺津未来、石塚隆弥、佐藤悠登、渡邊玲、
渋谷佳祐、佐藤大志（以上学部生）、飯沢朗、
高橋哲平（日本大学）
- 133) 唐桑半島集落図作成のための学生指導
日 時：平成 27 年 8 月 3 日－6 日

- 場 所：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
菊池駿貴、三浦敦美、佐藤駿、五十嵐里帆、
守屋日向（以上学部生）
- 134) 大野平遺跡竪穴住居復元調査
日 時：平成 27 年 8 月 10 日
場 所：山形県南陽市
参加者：長井謙治
菊池駿貴、高橋花菜子、高橋央輝、永井秀
都、近藤亜希子、小瀧慧悟（以上学部生）
協 力：南陽市教育委員会
- 135) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）
日 時：平成 27 年 8 月 17 日－24 日
場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区
参加者：中村只吾、佐藤未希、川島秀一、鈴木清
鈴木彩也花、菊池駿貴、三浦敦美、佐藤駿、
五十嵐里帆、守屋日向（以上学部生）
- 136) 日向洞窟発掘調査
日 時：平成 27 年 8 月 24 日－27 日
場 所：山形県高島町
参加者：長井謙治、菊池強一
- 137) 八戸藩庁狩猟関係史料集作成調査
日 時：平成 27 年 8 月 26 日－28 日
場 所：青森県八戸市
参加者：田口洋美、蛭原一平、村上一馬
清野翔子（大学院生）
- 138) 日向洞窟発掘調査
日 時：平成 27 年 9 月 2 日－16 日
場 所：山形県高島町
参加者：長井謙治
徳永司、塚野聡史、小関大輔、菊池駿貴、
濱谷優芽、本間かりん、小田桐孔誌、佐藤
純一、鷺津未来、阿部早苗、横濱明乃（以
上学部生）、熊谷亮介（東北大学大学院生）、
佐藤亮太（早稲田大学大学院生）
- 139) 蔵王上野地区古文書調査
日 時：平成 27 年 9 月 8 日
場 所：山形県山形市蔵王上野地区
参加者：中村只吾
- 140) 日向洞窟発掘調査指導、山方遺跡発掘現場見学
日 時：平成 27 年 9 月 9 日－10 日
- 場 所：山形県高島町、茨城県常陸大宮市山方
参加者：安斎正人（元東北芸術工科大学）
- 141) 日向洞窟発掘調査指導
日 時：平成 27 年 9 月 11 日－13 日
場 所：山形県高島町
参加者：佐藤宏之
- 142) 日向洞窟発掘調査遺物調査
日 時：平成 27 年 9 月 12 日
場 所：山形県高島町
参加者：米村祥央
- 143) 八戸一帯の集落動態に関する歴史学的研究
日 時：平成 27 年 9 月 13 日－15 日
場 所：青森県八戸市南郷区
参加者：中村只吾、佐藤健治
清野翔子（大学院生）
- 144) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成の
ための調査（大鳥調査）
日 時：平成 27 年 9 月 14 日－16 日
場 所：山形県鶴岡市大鳥地区
参加者：蛭原一平、浅野友理子
平井礼人、本間かりん、三浦宏子、皆川千
尋、志田若菜（以上学部生）
- 145) 唐桑半島集落図作成のための学生指導
日 時：平成 27 年 9 月 23 日－26 日
場 所：東北芸術工科大学
参加者：鈴木清
三浦敦美、佐藤駿、五十嵐里帆、守屋日向
（以上学部生）
- 146) 沿岸集落の変遷に関する調査
日 時：平成 27 年 10 月 11 日－17 日
場 所：岩手県大船渡市・釜石市・宮古市
参加者：森本孝
- 147) 八戸藩庁狩猟関係史料集作成調査
日 時：平成 27 年 10 月 14 日－16 日
場 所：青森県八戸市
参加者：村上一馬
- 148) 空中撮影による東北地方の集落分布と集落景観の
記録
日 時：平成 27 年 10 月 26 日
場 所：福島県沿岸部、宮城県仙台市一帯

参加者：田口洋美、蛭原一平

場 所：秋田県秋田市

参加者：村上一馬

149) 大野平遺跡竪穴住居復元調査

日 時：平成 27 年 10 月 23 日－24 日

場 所：山形県南陽市

参加者：長井謙治

菊池駿貴、高橋花菜子、高橋央輝、永井秀都、近藤亜希子、小瀧慧悟、岩田采（以上学部生）

150) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成のための調査（大鳥調査）

日 時：平成 27 年 10 月 31 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛭原一平、浅野友理子

本間かりん、平井礼人、皆川千尋（学部生）

151) 地域社会・集落活性化の取り組みに関する調査

日 時：平成 27 年 11 月 6 日

場 所：山形県鶴岡市

参加者：中村只吾、佐藤未希

152) 唐桑半島集落図作成のための学生指導

日 時：平成 27 年 11 月 10 日－15 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

千葉夏海、本間かりん、三浦敦美、佐藤駿、五十嵐里帆、守屋日向（以上学部生）

153) 『東北学 07』三陸沿岸の震災復興に関する情報収集

日 時：平成 27 年 11 月 13 日

場 所：岩手県釜石市・大船渡市

参加者：蛭原一平、佐藤未希

154) 『東北学 07』アートフルワンダーランドにかかる浄法寺漆器工芸企業組合取材

日 時：平成 27 年 11 月 19 日－20 日

場 所：岩手県二戸市

参加者：謝黎、中村只吾

155) 『東北学 07』三陸沿岸の震災復興に関する情報収集

日 時：平成 27 年 11 月 27 日－28 日

場 所：岩手県釜石市・大船渡市

参加者：蛭原一平、佐藤未希

足立龍、藤原愛（以上学部生）

156) 秋田藩日記より狩猟関係史料の調査

日 時：平成 27 年 12 月 7 日－9 日

157) 応用研究に関する打ち合わせ

日 時：平成 27 年 12 月 14 日

場 所：東京大学（東京都）

参加者：田口洋美、蛭原一平、寺田徹（東京大学大学院）

158) 沿岸集落の変遷に関する調査研究（唐桑半島調査）

日 時：平成 27 年 12 月 18 日－20 日

場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区

参加者：中村只吾、佐藤未希

菊池駿貴、本間かりん（以上学部生）

159) 唐桑半島集落図作成のための学生指導

日 時：平成 27 年 12 月 23 日－25 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

菊池駿貴、本間かりん、三浦敦美、五十嵐里帆、守屋日向（以上学部生）

160) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成のための調査（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 1 月 16 日－17 日

場 所：山形県白鷹町深山地区

参加者：蛭原一平

平井礼人（学部生）

161) 唐桑半島集落図作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 1 月 19 日－21 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

三浦敦美、五十嵐里帆、守屋日向、佐藤駿（以上学部生）

162) 秋田藩日記より狩猟関係史料の調査

日 時：平成 28 年 1 月 18 日－20 日

場 所：秋田県秋田市

参加者：村上一馬

163) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成のための調査（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 1 月 30 日－2 月 1 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：田口洋美、蛭原一平、浅野友理子

本間かりん、平井礼人、森田真生、槇麗、柳澤もも（学部生）

164) 秋田藩日記より狩猟関係史料の調査

日 時：平成 28 年 2 月 16 日－18 日

場 所：秋田県秋田市

参加者：村上一馬

日 時：平成 28 年 5 月 12 日－15 日

場 所：松ヶ岡開墾場（山形県）、東北芸術工科大学、
山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：鈴木清

165) 沿岸集落の変遷に関する調査研究（唐桑半島調査）

日 時：平成 28 年 2 月 24 日－27 日

場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区

参加者：中村只吾、鈴木清

鈴木彩也花、菊地駿貴、本間かりん、三浦
敦美、五十嵐里帆（以上学部生）

－平成 28（2016）年度－

172) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 5 月 15 日

場 所：山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：蛸原一平

五十嵐里帆、三浦敦美、楨麗、守屋日向（以
上学部生）

166) 高島の洞窟遺跡群・日向洞窟の準備調査

日 時：平成 28 年 4 月 1 日

場 所：山形県高島町

参加者：長井謙治

小瀧慧悟、高橋央輝、永井秀都、徳永司、
菊池駿貴、濱谷優芽（以上学部生）

173) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 5 月 28 日－29 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：田口洋美、蛸原一平

本間かりん、柳澤もも、三浦敦美、五十嵐
里帆（以上学部生）

167) 沿岸集落の変遷に関する研究（唐桑半島調査）

日 時：平成 28 年 4 月 4 日－5 日

場 所：宮城県気仙沼市唐桑町鮎立地区

参加者：佐藤未希、鈴木清、川島秀一、中村只吾
（富山大学）

菊池駿貴、本間かりん、五十嵐里帆、守屋
日向（以上学部生）

174) 『東北学 08』三陸沿岸の震災復興に関する情報収集

日 時：平成 28 年 5 月 30 日－31 日

場 所：岩手県久慈市から宮城県南三陸町までの三
陸沿岸一帯

参加者：蛸原一平

168) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 5 月 2 日－4 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛸原一平

本間かりん、森田真生、志田若菜、柳澤も
も、三浦敦美（以上学部生）

175) 集落図作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 6 月 1 日－4 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、楨麗、守屋日向（以
上学部生）

169) 狩猟技術及び儀礼の継承システムに関する資料収集

日 時：平成 28 年 5 月 2 日－4 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区・小国町小玉川地区

参加者：田口洋美

176) 蔵王上野地区古文書の調査

日 時：平成 28 年 6 月 3 日－4 日

場 所：山形市役所農林部上野ふれあいプラザ

参加者：竹原万雄、中村只吾

170) 『東北学 08』対談と編集会議

日 時：平成 28 年 5 月 12 日－13 日

場 所：東京ガーデンパレス（東京都）

参加者：田口洋美、蛸原一平

177) 『東北学 08』の取材（八郎潟開拓に関する資料収集）

日 時：平成 28 年 6 月 6 日－7 日

場 所：秋田県南秋田郡大潟村

参加者：蛸原一平

171) 白鷹集落図作成のための学生指導及び資料収集

178) 中山間地域における近現代の生業変遷を中心とした集落調査（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 6 月 13 日

場 所：山形県白鷹町深山地区

参加者：蛭原一平

179) 集落図作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 7 月 7 日－8 日、11 日－12 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、小野寺陸、阿部詩織、猪股愛生、須賀光太郎（以上学部生）

180) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 7 月 9 日－10 日

場 所：山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：蛭原一平、鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、小野寺陸、阿部詩織、猪股愛生、須賀光太郎（以上学部生）

181) 日向洞窟遺跡調査テフラ給源地における巡検

日 時：平成 28 年 7 月 17 日－18 日

場 所：福岡県北九州市周辺地域

参加者：菊池強一

182) 民家実測図作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 7 月 27 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、阿部詩織、須賀光太郎（以上学部生）

183) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 8 月 6 日－7 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛭原一平

本間かりん、森田真生、柳澤もも、槇麗（以上学部生）

184) 高島の洞窟遺跡群・日向洞窟の調査

日 時：平成 28 年 8 月 8 日－9 月 14 日

場 所：山形県高島町

参加者：長井謙治

菊池駿貴、高橋央輝、小瀧慧悟、永井秀都、金彦中、齊藤紘輝、守屋日向、堀江夏歩、三浦直貴、後藤達也、上條瑞貴、小野寺陸、松浦綾果、堀米夏実（以上学部生）

185) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 8 月 10 日－14 日

場 所：山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：蛭原一平、鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、小野寺陸、阿部詩織、猪股愛生、須賀光太郎、安部利映、佐藤優香、高橋明日香（以上学部生）

186) 日向洞窟遺跡学術調査の特別指導

日 時：平成 28 年 8 月 13 日－15 日

場 所：山形県高島町

参加者：菊池強一

187) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 8 月 22 日－25 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛭原一平

清野翔子（大学院）、本間かりん、平井礼人、柳澤もも、槇麗、村上輔、三浦敦美、佐藤優香（以上学部生）

188) 日向洞窟遺跡学術調査の特別指導

日 時：平成 28 年 9 月 8 日－9 日

場 所：山形県高島町

参加者：佐藤宏之

189) 日向洞窟遺跡学術調査の特別指導

日 時：平成 28 年 9 月 9 日－11 日

場 所：山形県高島町

参加者：菊池強一

190) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 9 月 9 日－10 日

場 所：山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：蛭原一平、鈴木清

三浦敦美、守屋日向（以上学部生）

191) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 9 月 12 日－13 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛭原一平

本間かりん、柳澤もも、槇麗、三浦敦美、佐藤優香（以上学部生）、清野翔子（大学院生）

192) シンポジウム「東北の集住を考える」開催に関する事前協議

日 時：平成 28 年 10 月 6 日

場 所：東北歴史博物館（宮城県）

参加者：蛸原一平、佐藤未希

193) 白鷹ブックレット作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 10 月 6 日－8 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、小野寺

陸、阿部詩織、猪股愛生、安部利映、佐藤

優香、高橋明日香（以上学部生）

194) 蔵王上野地区古文書の調査

日 時：平成 28 年 10 月 7 日－9 日

場 所：山形市役所農林部上野ふれあいプラザ

参加者：竹原万雄、中村只吾

長岡心、皆川千尋（以上学部生）

195) 空中撮影による東北地方の集落分布と集落景観の記録

日 時：平成 28 年 10 月 15 日－16 日

場 所：福島県（会津・只見地方）・秋田県

参加者：田口洋美、蛸原一平

196) 白鷹ブックレット作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 10 月 20 日－24 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、高橋明

日香（以上学部生）

197) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 11 月 4 日－6 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：田口洋美、蛸原一平

本間かりん、柳澤もも、槇麗、三浦敦美、

佐藤優香（以上学部生）、清野翔子（大学

院生）

198) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 28 年 11 月 19 日－20 日

場 所：山形県白鷹町深山地区・萩野地区

参加者：蛸原一平、鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、阿部詩

織、高橋明日香（以上学部生）

199) 白鷹ブックレット作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 11 月 21 日－23 日

場 所：東北芸術工科大学

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向、阿部詩

織、高橋明日香（以上学部生）

200) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 12 月 1 日－3 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛸原一平、浅野友理子

本間かりん（学部生）、清野翔子（大学院生）

201) 白鷹ブックレット作成のための学生指導

日 時：平成 28 年 12 月 10 日－15 日

場 所：東北芸術工科大学、山形県白鷹町深山地区

参加者：鈴木清

五十嵐里帆、三浦敦美、守屋日向（以上学

部生）

202) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 28 年 12 月 17 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛸原一平

柳澤もも、槇麗、三浦敦美、村上輔、佐藤

優香、滝田綾子（以上学部生）

203) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（白鷹調査）

日 時：平成 29 年 1 月 15 日

場 所：山形県白鷹町深山地区

参加者：蛸原一平

五十嵐里帆、守屋日向（以上学部生）

204) 集落変遷に関する学生主体のブックレット作成（大鳥調査）

日 時：平成 29 年 3 月 6 日－7 日

場 所：山形県鶴岡市大鳥地区

参加者：蛸原一平、浅野友理子

槇麗、本間かりん（以上学部生）、清野翔

子（大学院生）

<国外調査>

1) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (予備調査)

日 時：平成 24 年 9 月 2 日－9 日

調査地：中華人民共和国（北京、恰爾浜）

参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平

2) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (第 1 回雲南)

日 時：平成 25 年 2 月 19 日－28 日

調査地：中華人民共和国（雲南省）

参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平

3) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (第 1 回中国東北部)

日 時：平成 25 年 3 月 9 日－19 日

調査地：中華人民共和国（内モンゴル自治区、黒竜江省）

参加者：田口洋美、謝黎、蛭原一平、思沁夫（大阪大学）

4) 中国大陸の集落動態に関する巡見調査

日 時：平成 25 年 8 月 17 日－25 日

調査地：中華人民共和国（北京・雲南省）

参加者：佐藤健治、竹原万雄、中村只吾

5) 中国雲南省の少数民族集落に関する巡検調査

日 時：平成 25 年 9 月 1 日－9 日

調査地：中華人民共和国（雲南省）

参加者：田口洋美、佐々木史郎（国立民族学博物館）、
佐藤宏之（東京大学大学院）

6) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (第 2 回雲南)

日 時：平成 25 年 9 月 1 日－12 日

調査地：中華人民共和国（雲南省）

参加者：謝黎、蛭原一平

7) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (第 3 回雲南)

日 時：平成 26 年 9 月 14 日－27 日

調査地：中華人民共和国（雲南省）

参加者：謝黎、蛭原一平、阿部朋恒（首都大学東京
大学院院生）

8) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研究 (第 2 回中国東北部)

日 時：平成 27 年 3 月 7 日－17 日

調査地：中華人民共和国（内モンゴル自治区、黒龍

江省）

参加者：田口洋美、思沁夫

9) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する調査 (第 4 回雲南)

日 時：平成 27 年 8 月 2 日－11 日

場 所：中華人民共和国（雲南省）

参加者：謝黎、蛭原一平、阿部朋恒

10) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する調 査 (第 5 回雲南)

日 時：平成 28 年 8 月 5 日－14 日

場 所：中華人民共和国（雲南省）

参加者：謝黎

11) 中国大陸における少数民族の集落形成に関する研 究 (第 3 回中国東北部)

日 時：平成 28 年 8 月 16 日－28 日

場 所：中華人民共和国（内モンゴル自治区、哈爾
浜、北京）

参加者：思沁夫、阿部朋恒

(所属は全て調査・出張当時)

本事業による刊行物一覧

平成 29 年 3 月 31 日現在

研究 平成 24 年度研究成果報告書』（2012 年 3 月刊行）		
研究の目的と概要		田口洋美
平成 24 年度研究成果報告 環境史研究および地域比較研究の進捗状況 民俗・人類班		蛭原一平
平成 24 年度研究成果報告 環境史研究および地域比較研究の進捗状況 歴史班		佐藤健治・竹原万雄・中村只吾
平成 24 年度研究成果報告 環境史研究および地域比較研究の進捗状況 考古班		長井謙治
地域資源活用研究の進捗状況		蛭原一平・中村只吾
【研究ノート】「神仏のいる『林』」		菊池勇夫
【講演抄録】「海から見た東北」		田口洋美・森本孝・川島秀一
【講演抄録】「空から見た東北」		田口洋美
【補足資料】三陸沿岸集落を中心とした景観写真		
総括		田口洋美
『ブックレット〈むらの記憶〉1 小々汐仁屋の年中行事』（2014 年 3 月刊行）		
小々汐集落について		川島秀一
仁屋について		川島秀一
新たな年を迎える		川島秀一
早春から初夏にかけて		川島秀一
盛夏 ― 盆を迎えて ―		川島秀一
秋と冬		川島秀一
『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的		
研究 平成 25 年度研究成果報告書』（2014 年 3 月刊行）		
研究の目的と概要		田口洋美
平成 25 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況 民俗・人類班		蛭原一平
平成 25 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況 歴史班		佐藤健治・竹原万雄・中村只吾
平成 25 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況 考古班		長井謙治・北野博司
地域資源活用研究の進捗状況		蛭原一平・中村只吾
【研究ノート】「中世からの村・島守研究序説」		佐藤健治
【研究ノート】「戦後本寺地区における景観変遷」		竹原万雄・菅沼信輝・早川由希子・三好明日美
【研究ノート】「中国東北地域の定住化と伝統文化の継承 ―エベンキ族（根河）とオロチョン族（阿里河鎮）を事例に一」		謝黎
【講演録】「八戸の集落一万年：なぜムラができ、消えたか？ vol.1」		田口洋美・安斎正人
総括		田口洋美
『東北一万年のフィールドワーク 9 阿仁根子』（2014 年 3 月刊行）		
阿仁根子集落の概要	阿仁根子集落の概要	高橋佳帆里
	コラム 阿仁鉦山の歴史	高橋佳帆里
空からみた根子	集落図	鈴木彩也花・高橋佳帆里・高橋裕子
	景観を読む	鈴木彩也花
	コラム 根子をおく	高橋佳帆里
暮らす ―なりわい・信仰―	生業カレンダー	高橋裕子
	採集物リスト	高橋裕子
	奥山・里山での狩猟	蛭原一平・田口洋美・川崎那悠・高橋佳帆里・鈴木里佳
	暮らしの中の信仰 ―根子番楽―	鈴木彩也花

住まう —水路・古民家（二又荘・山田邸）—	根子集落の水路図	小松諒・川崎那悠
	根子の水路	小松諒
	根子の古民家〈1〉二又荘	成澤翔太・鈴木清・鈴木彩也花・高橋果子・高橋佳帆里・高橋裕子
	根子の古民家〈2〉山田邸	成澤翔太・鈴木清・鈴木彩也花・高橋果子・高橋佳帆里・高橋裕子
	断面図からみる根子民家の構造上の特徴	成澤翔太
	コラム 阿仁根子集落の二又荘に見る差鴨居の使い方	鈴木清
	復元図からみる家屋の変化	成澤翔太・鈴木清・鈴木彩也花・高橋果子・高橋佳帆里・高橋裕子
	根子の家々	高橋佳帆里
	根子鳥瞰図	田中望・小松諒
暮らしがつくる景観	写真で見る根子	
『東北学』第4号（2014年7月刊行）		
巻頭鼎談	いま、百年後をつくる仕事をするために —NPO と NGO の可能性—	向後元彦・澁澤寿一・田口洋美
特集 棚田のアジア：農 の継承と持続性	開墾の風景 —棚田論ことはじめ	須藤護
	棚田の歴史を検証する —熊本県山都町・通潤橋と白糸台地の棚田	吉村豊雄
	アジアの棚田 —インドネシア・イラン・ネパールの棚田	青柳健二
	ハニ棚田を訪ねて	思沁夫
	中国雲南省哀牢山地の棚田農業を支えてきた知恵と工夫 —水の制御を軸に	安達真平
連載	世界遺産を生み出す地域の営み —「生きている遺産」としてのフィリピン・コルディリエラの棚田景観	大西秀之
	阿武隈梁山泊外伝 [第4回]	たくきよしみつ
	八甲田山における山岳ガイドの変遷 —八甲田に通い続ける地元カメラマンの回顧録（語り・藤巻健二）[第3回（最終回）]	羽根田治
旅スケッチ	〈4〉元陽 反復が生み出す持続のリズム	田口洋美
ホンのひとこと	山に生かされた村人たちの記憶	蛭原一平
フィールドノート	03 今は、この島で生きたい 山形県飛島、20代からの移住生活	小川ひかり
アートフルワンダーランド	[第4回] 和紙の温もり、自分の手で届けたい	謝黎
三陸沿岸、今復興ダイアリー	気仙沼唐桑から南三陸町志津川にかけて 2014年6月	蛭原一平
	〈4〉新聞紙面にみる復興 [2013・9・11～2013・3・11]	蛭原一平
『東北一万年のフィールドワーク10 瀧山川』（2014年9月刊行）		
石碑を訪ねて瀧山川を遡る		佐藤健治
第一部 調査地概要 調査地地図	①御立の石鳥居	藤原夏織・斉藤康雄・三好明美
	②東青田若松墓前	阿部千裕・森川遼・三好明美
	③小立延命地藏堂	藤原夏織・藤井渉
	④東青田千手観音堂	色摩優吾・藤井渉・三好明美
	⑤瀧山神社（瀧山寺）	生井光成・佐藤大志・伊藤光敏・荒井翔

第一部 調査地概要 調査地地図	⑥上桜田月山神社	色摩優吾・三好明美
	⑦小立石碑・⑧太子堂	高木香奈・三好明美・ 藤原夏織・斉藤康雄
	⑨岩波姥神	高木香奈・三好明美
	⑩石行寺	荒井翔・菅村朋生
	⑪八森山ノ神神社	斉藤康雄・菅村朋生
	⑫八森八幡神社	藤井渉・荒井翔
	⑬八森中山之神神社	三好明美・菅村朋生
	⑭土坂入口馬頭観音、⑯土坂地藏堂脇	荒井翔
	⑮阿弥陀清水	斉藤康雄・藤井渉
	⑰土坂観音堂	菅村朋生・三好明美
第二部 瀧山研究報告	蔵王と瀧山信仰の関わり	新関昭男
		斉藤康雄
		荒井翔
		藤井渉・菅村朋生・ 千葉夏海
		菅村朋生
		菅村朋生・千葉夏海
		三好明日美・菅村朋 生
		三好明日美
年表		
瀧山略図		
『東北一万年のフィールドワーク 11 本寺』（2014 年 10 月刊行）		
本寺の概要	本寺の概要	高橋佳帆里
	コラム 近世・近代の古文書	竹原万雄
絵図からみる	中世の絵図 ー陸奥国骨寺村絵図ー	竹原万雄・須貝慎吾・ 瀧口友香・塚野聡史・ 檜野泰巳
	コラム 骨寺村骸伝説	星雪音
	近世の絵図 ー磐井群西岩井絵図ー	竹原万雄・星雪音・ 本間結希乃
	近代の絵図 ー字絵図ー	須貝慎吾・櫻庭千晃・ 高橋佳帆里・瀧口友 香・塚野聡史・檜野 泰巳・星雪音・本間 結希乃
空からみる	集落図	三好明日美・鈴木彩 也花・高橋佳帆里・ 高橋裕子・菅沼信輝
	空中写真	菅沼信輝
	コラム 本寺村と向き合って	早川由希子
ここで暮らす	本寺の生業	鈴木彩也花
	養蚕と炭焼き	高橋佳帆里・高橋裕 子
	須川温泉と強力	鈴木彩也花
	コラム 骨寺村荘園行事	高橋裕子
移動する中心	移動する中心	鈴木彩也花
	コラム ある家の生活空間	高橋裕子
知を伝える		竹原万雄
『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的 研究 平成 26 年度研究成果報告書』（2015 年 3 月刊行）		
研究の目的と概要		田口洋美

平成 26 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		蛸原一平
民俗・人類班		
平成 26 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		佐藤健治・竹原万雄・
歴史班		中村只吾
平成 26 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		長井謙治・北野博司
考古班		
地域資源活用研究の進捗状況		中村只吾・蛸原一平
【研究ノート】「集落維持に何が必要か？ ―中国雲南省金平県聯防村の苦聰人の事例を 通して―」		謝黎
【研究ノート】「中世島守の水田現地比定」		佐藤健治
【研究ノート】「八戸市内における陥し穴状遺構の事例集成」		横山寛剛
総括		田口洋美
『ブックレット〈むらの記憶〉2 下北半島野平―写真に見る戦後開拓村の歩み』（2015 年 3 月刊行）		
野平の概要		森本孝・鈴木清・蛸
民俗学者が見た昭和 38 年の野平		原一平
村を拓く		
そこに住む		
野平での暮らし		
村の学びや		
野平、今		
『東北芸術工科大学考古学研究室報告 第 16 冊 日向洞窟遺跡の発掘記録 第 1 次発掘調査報告書』 (2015 年 4 月刊行)		
第 1 章 調査に至る経緯	調査に至る経緯	長井謙治、亀山絵莉
	第 1 節 調査の学術的背景	香、千尋美紀、石塚
	第 2 節 調査体制	隆弥、渡邊みなみ、
	第 3 節 調査の経過	
第 2 章	調査地と周辺環境	徳永司、塚野聡史、
第 3 章	過去の調査について	須貝慎吾、上田優喜、
第 4 章	2013 年度発掘調査の成果	渋谷孝雄、佐々木繁
	第 1 節 調査の方法	喜、納屋内高史、大
	第 2 節 土層説明	森貴之、パレオ・ラ
	第 3 節 各調査区の概要	ボ AMS 年代測定グ
	第 4 節 出土遺物	ループ
	第 5 節 簡易ボーリング	
第 5 章	第 6 節 水洗選別	
	自然化学分析	
	第 1 節 放射能炭素年代測定 パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ	
第 6 章	第 2 節 黒曜石産地推定	
	総括	
『東北学』第 7 号（2016 年 2 月刊行）		
巻頭鼎談	宇宙を裸足で散歩する！ ―新生星ハンター、アマチュアの極意	板垣公一・田口洋美
特集 復興の海	大槌の海と復興の未来	秋道智彌
	海が与えた時間のかたち ―唐桑半島・鮎立浦	中村只吾
	再生する三陸の漁村と漁業	森本孝
	三陸地方の津波災害と高地移転	熊谷誠
	波が伝わる谷の今 ―南三陸町波伝谷の暮らし方に見る	小谷竜介
	「文化財レスキュー」という桎梏 ―宮城県気仙沼市の現場から	川村清志
	村上清太郎翁漁業記録（上）	川島秀一
グラビア	三陸の海と共に生きる	村山嘉昭
連載	阿武隈梁山泊外伝 [第 7 回]	たくきよしみつ
	岩木山と日赤岩木山パトロール隊	羽根田治
旅スケッチ	〈7〉ロシア「闇の中を滑る丸木舟」	田口洋美
ホンのひとこと	風景の再考 広域的視覚がもたらしたもの	井筒桃子
フィールドノート	病気の歴史と対峙 歴史の見方の変わり方	竹原万雄
アートフルワン ダーランド	[第 7 回]「日常使い」にこだわる塗師、漆との「闘い」が楽しい	謝黎

三陸沿岸、今	三鉄がつなぐ村々《南リアス線編》	蛭原一平
復興ダイアリー	〈7〉新聞紙面にみる復興〔2015・3・11～2015・9・11〕	蛭原一平
『文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的 研究 平成 27 年度研究成果報告書』（2016 年 3 月刊行）		
研究の目的と概要		田口洋美
平成 27 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		蛭原一平
民俗・人類班		
平成 27 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		中村只吾・竹原万雄
歴史班		
平成 27 年度研究成果報告 各班の研究進捗状況（環境史研究および地域比較研究）		長井謙治・北野博司
考古班		
地域資源活用研究の進捗状況		中村只吾・蛭原一平
【研究ノート】「中山間地の人口変遷と生業 ―岩手県一関市巖美町本寺地区を事例とし て―」		竹原万雄
【研究会講演録】漁業集落をめぐる地先漁業権の成立と変化		
総括		田口洋美
『東北一万年のフィールドワーク 12 鮭立』（2016 年 3 月刊行）		
はじめに ―今、この浦を知りたい。		中村只吾
海と陸に拓いた暮らしの風景		川島秀一・佐藤未希
海辺での祈りのかたち		菊池駿貴・鈴木彩也 花・本間かりん
守る、あらためる 古館屋敷		鈴木清・五十嵐里帆・ 佐藤駿・守屋日向・ 三浦敦美
守る、あらためる 古館家年中行事		中村只吾・佐藤未希・ 五十嵐里帆・三浦敦 美
おわりに ―鮭立人への賛歌、応援歌として		川島秀一・中村只吾
『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』（2016 年 3 月刊行）		
刊行にあたり		田口洋美
解題・調査方法・凡例		村上一馬
史料表題一覧		村上一馬
史料		村上一馬
表 1（八戸藩庁日記蔵一覧）		村上一馬
表 2（野獣捕獲記録一覧）		村上一馬
表 3（狩猟記録一覧）		村上一馬
あとがき		村上一馬
『東北学』第 8 号（2016 年 8 月刊行）		
巻頭鼎談	思考の轍を乗り越えろ！	内山節・田口洋美
特集 東北、明日の大地	八郎潟・干拓地での米作り ―地に立つ農の追究	蛭原一平
	森人のくに ―狩猟場開拓のダイナミズム	田口洋美
	古文書と絵図にみる秋田藩の山林	芳賀和樹
	白神山地手つかずのブナの原生林か？ ―森林資源の開発と保存	長谷川成一
	の観点から 宮沢賢治作品と農村、その継続 ―詩「住居」・真壁仁の受容か ら	大島丈志
連載	村上清太郎翁漁業記録（下）	川島秀一
	阿武隈梁山泊外伝〔最終回〕	たくきよしみつ
	川原毛大湯と泥湯温泉	羽根田治
旅スケッチ	〈8〉空から見た東北	田口洋美
ホンのひとこと	夢と現実のはざまにたゆたう一冊	阿部朋恒
フィールドノート	サバンナに食用昆虫を追って ナミビアの昆虫食調査	藤岡一郎
アートフルワンダー ランド	〔第 8 回〕「塩の聖地」で先人を思い、海のことを伝えていく	謝黎

復興ダイアリー	〈8〉新聞紙面にみる復興〔2015・9・11～2016・3・11〕	蛸原一平
『山形市蔵王上野文書目録』（2017年2月刊行） *PDFで作成		
解題	地区の概要および文書伝来の経緯	中村只吾
	文書群の内容	竹原万雄
史料紹介	史料紹介「願書写留置覚牒」―上野村の出願内容から考える	藤方博之
山形市蔵王上野文書目録		
『東北一万年のフィールドワーク 13 大鳥』（2017年3月刊行）		
大鳥の概要		本間かりん、三浦敦美、柳澤もも、槇麗、蛸原一平
山から糧を得る	野生動植物利用の一年、山菜、焼き畑の思い出、トチの実、大鳥の餅、狩る一春クマ猟を中心に	本間かりん、浅野友理子、蛸原一平
家を構え、むらを拓く	明治・大正の大鳥、鉾山の思い出、屋号・屋敷図からみる繁岡集落、大鳥の神社、水路からみる繁岡集落、文書にみる近現代の繁岡集落	三浦敦美、槇麗、清野翔子、柳澤もも、蛸原一平
集い住む	講と行事、大鳥を盛り上げる祭り、大鳥の運動会、大滝清策さんに聞く―タキタロウ村の取り込み	清野翔子、本間かりん、浅野友理子、蛸原一平
『東北一万年フィールドワーク 14 養蚕と紙漉きの記憶 白鷹町深山・萩野』（2017年3月刊行）		
白鷹町の生業の変遷	江戸時代以前の白鷹町、近現代の白鷹町―養蚕と織物の発展、萩野について、深山について	守谷英一、須賀光太郎、小野寺陸
民家から見る生業	萩野 安部家 蚕家、深山 今家、民家調査を終えて	鈴木清、小座間雅子、櫻庭千晃、星雪音、熊谷英二、阿部詩織、小野寺陸、猪股愛生、安部理映、佐藤優香、守屋日向、高橋明日香、五十嵐里帆、三浦敦美
養蚕と紙漉きの記憶	養蚕の仕事、白鷹の特産・天蚕、紙漉きの仕事	三浦敦美、守屋日向、五十嵐里帆、鈴木清、佐藤優香、高橋明日香、阿部詩織
深山の生業の変化	深山の生業変遷、深山の酪農	三浦敦美、守屋日向、五十嵐里帆
『山形県高島町日向洞窟遺跡の発掘調査概要（2013～2316）』（2017年3月刊行）		
山形県高島町日向洞窟遺跡の発掘調査概要（2013～2016）		長井謙治
自然科学分析		伊藤茂、安昭炫、佐藤正教、廣田正史、山形秀樹、小林紘一、Zaur Lomtadze、Ineza Jorjoliani、中村賢太郎、大森貴之
総括		長井謙治
『前田村文書目録』（2017年3月刊行）		
はじめに		竹原万雄
解題	出羽国村山郡前田村、前田田村文書	竹原万雄
前田村文書目録	凡例、目録一覧	阿部さやか、大内康瑛、大庭千鶴、小座間雅子、木下紗予、櫛引理沙、後藤光誠、佐々木桃子、菅沼信輝、鈴木彩也花、高橋佳帆里、高橋裕子、中居茜、早川由希子、三好明日美、吉田郁哉
前田村文書整理・研究概要	研究報告会、本書編集、参加学生名簿、あとがき	竹原万雄

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」中間報告・外部評価書

放送大学客員教授 本多俊和

この研究は東北芸術工科大学東北文化研究センターが進めてきた『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究』延長線上の発展的な構想であると理解される。その意味で、本研究はとくに東日本大震災を焦点とするものではないと思われるが、進行中の農山漁村が従来直面してきている文化継承の危機、過疎化の悪化、共同体アイデンティティの減退、伝統的に生業活動の衰退などに拍車をかけている東日本大震災の影響に対応するための重要な参考資料を提供する意義を含めて評価したいと思う。現時点では本研究は進行中であるので、成果に対する評価を下すのが時期尚早であると考えるが、研究会やシンポジウムに参加した経験では、現地調査におけるデータ収集は順調に進み、データベース構築に必要な情報収集と分析が進んでいることと、成果を逐次に本研究センターのホームページ (http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?page_id=510) に掲載されている状況は確認できた。たとえば、「空から見た東北」 (<http://blog.tuad.ac.jp/airphoto/category/air/>) とは別の視点である「海から見た東北」 (<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=283>) の研究が独創的な視点である。漁業が盛んな東北沿岸地帯の集落は、海からの景観が環境認識に欠かせない観点であろう。

本研究が提示する特徴的なもう一つの課題は、「文化継承リスク」（田口洋美の提示）である。加速的に進んでいる農山漁村の若い人の流出などによる過疎化は近年、注目されているが、政策では経済的な側面が重視されるあまり、集落で継承される伝統文化的な要素が見落とされがちである。本研究では「文化継承リスク」が真正面から提示され、対策構築の調査が進められている

(<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/?p=830>) ことも評価しなければならない。ここまで、本研究の成果を評価する手段として東北文化研究センターのホームページを記してきたが、その理由は本研究による調査成果の公表および地元への還元、そして学生参加が進められていることを高く評価するからである。成果の公表と還元は、ホームページでの情報提供およびアーカイブス

(<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/>) と、ブックレットの作成によって積極的に実施されている。ホームページが充実しており、活動の履歴と今後の予定、そして本研究の年次報告が載っている。今後は、年次報告書を PDF ファイルにして、ダウンロードを可能にすることを提案したい。

専門的な報文とは別に、調査対の対象になった集落の各家庭に配られる、平明な記述と豊富な写真に構成されているブックレット作成を高く評価するものである。現在、2冊（『小々汐仁屋の年中行事』平成 26 年 3 月 1 日発行、『阿仁根子』平成 26 年 3 月 15 日発行）の内容は、学術的な価値を保ちつつ、地元の方々および社会一般の関心と興味が持てるよう、編集されている。とくに私の目を引いたのは、『阿仁根子』では調査実施およびブックレット制作に学生 15 名を中心に進められたことである。

以上のデジタルおよび活字媒体のほかに、8 回の公開講座および 2 回のシンポジウム（うち 1 回は国際シンポジウム）も研究成果公表を効果的に寄与していることが評価される。

本研究に対して今後は、次の点への取り組みを期待したいと思う。それは、海外（中国とロシア）の比較調査研究と、本研究の主題である環境動態を視点とした地域社会と集落形成との関連性をいっそう

明らかにすることである。ロシアと中国の調査対象は少数先住民であるのに対して、東北の集落民は主流社会の一部であるという点を相対的に位置づける必要があると考える。

本研究の考古学、歴史学、環境学、民俗・人類学の専門家による実地に密着した研究調査成果により、一万年にわたる地域の歴史的経過と現状がより詳細に明らかにされ、東北地方の農山漁村の盛衰の経過とその原因、そして対策を多面的に、総合的に分析することで、現在進行中の文化・社会的な課題のより効果的な対策構築に寄与するものと確信する次第である。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」中間報告・外部評価書

東北大学大学院教授 柳原敏昭

構想調書によると、計画では初年度から 3 年次にかけては基礎的研究期間として、研究対象地域、集落を選定し、現地調査、視察、文献資料収集を実施するとある。また地域比較研究ユニットでも同様にして対象地域、集落の研究を実施し、地域資源活用ユニットでは、対象集落選定の上、写真等の資料収集によるアーカイブ化と、それをもとにした現地での聞き書き作業を同時進行し、さらに研究報告会なども実施するとあった。

歴史班の活動実績を見ると、歴史学・考古学・民俗学の共通フィールドとして青森県八戸市を選定したことにより、歴史班としては具体的に八戸市南郷区島守地区を調査対象地としている。これは鎌倉時代にこの地域において農業が営まれていたことを示す文書が存在し、その後、近世・近代から現在まで、東北地方にあって農業が継続していることを示す事ができる、貴重な事例であることによる。同様に、岩手県一関市本寺地区も鎌倉時代の絵図面から中世の村の様子を示す貴重な素材となり、これを地域比較研究の対象地としたことは、相対的に文献史料の少ない東北地方の中世史研究にとって大変有益である。この 2 地域では現地調査や文献調査などが活発に行われ、一部文書の翻刻も進んでいるようである。また山形県山形市前田地区における文書調査も行われ、古文書の整理とともに地区の調査研究を学生とともに進めている点、評価できる。

また地域資源活用ユニットにおける歴史班の活動状況としては、岩手県一関市本寺地区と山形県山形市滝山地域におけるブックレット作成が特筆される。前者は地域比較研究ユニットとして継続的に調査しているが、これを学生と現地調査を行い、その成果をブックレットとして作成中と聞く。後者は、学生を主体として東北芸術工科大学の付近に広がる石碑を丹念に調査し、その成果を『瀧山川—石碑と信仰—』と題するブックレットにまとめられている。学生を巻き込んだ調査研究の成果として評価したい。

さらに地域比較研究の視点から、シンポジウムが開催された事も重要である。「「百姓」繚乱の江戸時代—東北の村人たちの生き方—」と題して、渡辺尚志氏が出羽国村山地方の農村の事例を、斉藤善之氏が三陸沿岸の漁村の事例を紹介し、パネルディスカッションが行われた。また年度末に毎年開催される本寺地区現地での調査報告会や今年度開催された島守地区の調査報告会など、研究事業の成果を社会に還元するため、今後もこのようなシンポジウムや研究報告会などの開催が望まれる。

以上、歴史班に関わる研究事業の進展状況は順調であると評価できる。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」 中間報告・外部評価書

早稲田大学教授 高橋龍三郎

東北芸術工科大学東北文化研究センターの文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究』は、前回のオープンリサーチセンター整備事業『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究』の成果を基盤として、研究方向を継続しつつ、東北地方の集落の現状分析を踏まえて、下記のように集落研究の今後のあり方について提言することを目的にしている。

1. 民俗班、歴史班、考古班の3つの研究チームで構成された八戸市と周辺地域を対象とする3班の協同作業において、考古班は縄文時代以降一万年間の八戸市の集落変遷と立地の変化にあらわれた歴史動態を明らかにすることを目的として、八戸市遺跡データベース構築に関する共同研究を行ってきた。共同研究の基礎作業として、メンバーが共有する遺跡データベースの作成を行った。その成果に基づく縄文時代前期・中期集落研究成果の公開市民講座を開催した。さらに、集落遺跡の竪穴・土坑類の研究集会を行ってきた。このプロジェクトの後半では、縄文時代後晩期・弥生時代の集落、古代の集落に関する研究成果の公開市民講座、遺跡データを利用した集落消長マップの作製、遺構（竪穴・土坑）の認定に関わる研究成果に基づく遺構認定基準が作製される予定である。一地域を対象とした縄文一万年のフィールドワークはこれまで例がなく、大きな成果が期待できる。

2. 東北文化研究センターではこれまで「河川流域の縄文景観」をテーマに、「新井田川下流域における縄文・弥生集落」「米代川水系の縄文遺跡」「最上川水系の縄文遺跡」「北上川流域の縄文集落遺跡」「信濃川流域における文化領域」などの研究成果を集積してきている。今回のプロジェクトでは、考古班はさらに対象地域を河川流域の山間集落に絞って、縄文時代から現代のマガギ集落にいたるまでの山間集落の変遷の実態を「集住」という概念からつかもうとしている。具体的には三面ダム・森吉ダム・津軽ダム工事関連で発掘調査された上流域の諸遺跡の比較のため、各調査担当者が集まって討議を繰り返している。山間集落（集住形態）変遷の東北地方としての特徴、東北地方北部・南部としての特徴、あるいは三面川、米代川上流、岩木川上流域特有の現象などがあぶりだされることが期待される。なお、明らかにされたデータに基づき、山形県内の最上川流域の山間集落の今後のあり方も探っていく計画である。達成されれば、多大な貢献となるであろう。

3. 集落形成期にあたる縄文時代開始期の洞窟遺跡における考古学的調査も進んでいる。具体的には、高島町日向洞窟遺跡の発掘調査であり、これまで数度にわたる現地調査が行われている。地域からの熱い援助を得て、まさに地域共生を目指す試みである。学生が主体となり、日向洞窟周辺の考古資料をブックレットにする予定である。山形の地域資源を開発し、その研究成果を地域に還元するというまさに実践研究教育の場として貴重な成果をもたらすことが期待できる。今後も当プロジェクトの推進にあたって、現在東北地方の集落が直面している諸問題の解決という面を忘れず、歴史班、民俗班との関心の共有を心がけていってほしい。関係者の多大な努力により予期以上の成果を上げつつあるものと認め、中間評価とする。

平成 29 年 5 月 10 日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」最終報告・外部評価書

放送大学・客員教授 本多俊和

この事業は東北芸術工科大学東北文化研究センターが進めてきた「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態の総合研究」を発展的に継承するものであり、東日本大震災による甚大な影響が農山漁村が直面している文化継承の危機、過疎化の悪化、共同体アイデンティティの減退、伝統的に生業活動の衰退などに拍車をかけた現実にはどのような対応が可能なのかを検証する基礎的な研究を趣旨としたものである。

考古学、歴史学、民俗学を含む人類学からなる調査の諸ユニット（研究グループ）の学術的な意義が大きい調査研究の成果は本事業の報告書や専門学会誌上に発表されていることと、研究会やシンポジウム、公開講演会などにおいて地元および社会一般に成果を還元・普及してきた。また、東北芸術工科大学の東北文化研究センターHPで報告書などの研究成果が一般公開されている（<http://blog.tuad.ac.jp/tobunken/>）。

本研究が提示する特徴的なもう一つの課題は、「文化継承リスク」である。加速的に進んでいる農山漁村の若い人の流出などによる過疎化は近年、注目されているが、政策では経済的な側面が重視されるあまり、集落で継承される伝統文化的な要素が見落とされがちである。本研究は「文化継承リスク」の問題を共同体が直面していることを明示し、対策構築のための基礎的なデータ調査が行われた。

専門的な報文とは別に、調査対象になった集落の各家庭に配られる、平明な記述と豊富な写真に構成されているブックレット作成を高く評価するものである。その内容は、学術的な価値を保ちつつ、地元の方々および社会一般の関心と興味が持てるよう、編集された。

文化継承リスクの課題に対応する手がかりとして、海外（中国とロシア）の実地調査では、移住を余儀なくされた共同体がどのように新しい環境に適応したのか、もしくは適応できなかった事例を分析した。その分析を通して、本研究の主題である環境動態を視点とした地域社会と集落形成との関連性をいっそう明らかになった。

本研究の考古学、歴史学、環境学、民俗・人類学の専門家による実地に密着した研究調査成果により、一万年にわたる地域の歴史的経過と現状の詳細に明らかにされ、東北地方の農山漁村の盛衰の経過とその原因、そして対策を多面的に、総合的に分析することで、現在進行中の文化・社会的な課題のより効果的な対策構築に寄与するものである。

平成 29 年 5 月 13 日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」最終報告・外部評価書

東北大学大学院文学研究科・教授 柳原敏昭

本総合研究は、2012～16 年度の 5 年間にわたり、「1 万年という長期的タイムスパン、その歴史社会的コンテクストの上に 21 世紀型集住の再生、創出理念の構築を図る」ことを目的に遂行されてきた。東北芸術工科大学の教員をはじめとする 24 名の研究者を考古／歴史／民族・人類の 3 班に組織し、「環境史研究」、「地域比較研究」の二つのテーマを設定し、研究を展開してきた。同時に地域再生の担い手育成を図る実践的研究として「地域資源活用研究」も並行させている。以下にその評価を記す。

1. 研究の特徴と成果

各班はそれぞれに研究テーマを定めて研究を行ってきた。それは、特定のフィールドを選定して、その地域の集落に関する歴史や文化を探究するもので、いわば「虫の目」をもった研究といえる。合計 200 回に近い調査が行われており、その成果は個別研究として非常に重要なものである。たとえば、岩手県一関市の本寺地区の調査は、従来、注目されていた中世の研究だけでなく、近世・近代も射程に入れて、集落の変遷とその背景を解明している。このようなロングスパンの集落研究は他に類を見ず、注目される場所である。

各班の研究活動を超えた、「空から見た東北」、「海から見た東北」、「民家から見た東北」という三つの「地域横断型研究」を遂行したことも特徴である。これは「鳥の目」をもった研究といえるもので、特に集落を空中撮影するという「空から見た東北」はそれを地で行くものである。東北地方の広範囲にわたり集積されたデータは貴重である。

さらに、研究の視野は日本国内にとどまらず、アジア全域にひろがっている。10 回を超す海外調査に裏付けられた中華人民共和国雲南省、内蒙古自治区・黒竜江省の少数民族の集落社会と日本の東北地方のそれとの比較検討である。言葉は熟さないが、これは「星の目」をもった研究と評価できる。このことで、東北地方の事例を相対化するとともに、アジア（あるいはグローバル）に普遍的な問題点を浮かび上がらせることに成功している。

このように「虫の目」、「鳥の目」、「星の目」というそれぞれ有効な視点を組み合わせて、極めて周到な計画が立てられ、成果をあげたと評価できる。

2. 社会に開かれた研究

各班の成果は、多数のデータベースとしてもものこされた。考古班による八戸市域の遺跡データベース、歴史班の『八戸藩庁日記狩猟関係史料集』、『前田家文書目録』、『山形市蔵王上野文書目録』などである。これらは学界あるいは地域の共有財産としての価値を持っている。また、前述の「空から見た東北」プロジェクトの空中写真などとともウェブページ等で公開されており、誰でも容易にアクセス・利用できる状態にされていることも特筆される。

社会や地域との関係ということであれば、多数の刊行物が出版されたことも重要である。雑誌『東北学』の特集号（3巻）、『東北一万年のフィールドワーク』シリーズ（5巻）、ブックレット＜村の記憶＞シリーズ（2巻）、日向洞窟遺跡発掘報告書などである。また、公開講座・シンポジウムも18回におよび、芸術系大学の特長を活かした展示も3回催されている。こうしたことを通じて、本研究の成果は広く社会に還元されているといえる。

人材育成の観点が明確で、成果をあげていることも注目に値する。学生やPDなど若手研究者を積極的に位置付け、研究に参加させていることである。上記の成果物からも、学生が主体的に行った活動の一端が知られる。

3. 人文社会科学研究の有用性の証明

本研究が、現代社会が直面している問題に真摯に向きあい、研修成果を基にして、その解決策の提言まで行っていることも特筆される。「問題」とは、「文化継承リスク」や地方都市の縮退に伴う空き地・空き屋の増加などである。特に後者に関しては、都市工学や法学の研究者とも共同し、公有地と私有地の中間に「公共地」を創出し、住民主体でそれを管理・運営することを提言している。本研究では当初より、成果の理念化をめざしていたが、それが形になったといえる。

昨今、議論がかまびすしい人文社会科学の社会的有用性について、本研究は見事にその回答を示している。

総じて本研究は、先行する文部科学省オープン・リサーチ・センター事業などを踏まえて、周到な研究計画を立て、研究代表者のリーダーシップの下、精力的な研究が進められて、大きな成果を得たと評価できる。評価者は、本研究の全体研究会、シンポジウムに何度も参加する機会を得た。そこで感じたことは、参画した研究者の積極性であり、また学生や若手研究者の生き生きとした姿である。そうした主体性と能動性が、本研究を成功に導いた原動力であると確信している。

本研究の成果、たとえば「空から見た東北」は、今回の成果だけでも画期的なものであるが、継続的に行われ、時系列的に比較検討が可能となれば一層価値が高まる。ぜひ本研究に後続するプロジェクトが行われるよう願ってやまない。

平成 29 年 5 月 7 日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」最終報告・外部評価書

早稲田大学文学学術院・教授 高橋龍三郎

本外部評価書は、平成 24 年度から 28 年度にかけて東北芸術工科大学が実施した「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究（研究代表者：田口洋美）」の研究成果に関わるものである。同大学は、過去 10 年間にわたり、文部科学省オープンリサーチ整備事業「東アジアの中の日本文化に関する総合的な研究」、「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」を実施してきた。本事業はその後継事業であった。考古、歴史、民俗・人類学を柱とする 3 班の協働により、八戸市周辺に展開した古代・中世集落の分布動態と消長分析を通じて、居住と集住に関わる文化・社会的基盤を学術的に解明することを目的とし、関連する領域（生業、信仰、儀礼・祭祀等）を総合化して地域社会の実態を解明することを主課題とする。併せて研究成果を地域に還元し、地域再生のために若手後継者を育成することを趣旨とする。

本評価書では、1.研究戦略と目標の達成度、2.研究成果と成果物、3.成果の社会的還元と地域貢献、4.若手研究者の育成、5.総合化と今後の課題などの視点から評価する。

1.研究戦略と目標の達成度

本研究活動の中核は、「環境史研究（考古）」、「地域比較研究（歴史、民俗・人類学）」、「地域資源活用研究（若手研究者育成）」の 3 班の研究体制が担い、必要に応じて横断的な連携により総合化を目指すものである。5 か年の研究は、「基礎的研究」段階（3 年）と「応用研究」段階（2 年）に分離して、発展的に目標に到達するように設定されていた。この点は戦略的に練られ、調査・研究の細目もこの大枠に従って遂行されており、部分的修正や補遺を加えながら概ね計画通りに進展し、当初の研究目的は達成されたと評価してよい。

2.研究成果と成果物

集落の歴史動態研究ではデータベースの整備を通じ、また「東北古代集落変遷に関わる考古学的・環境史的研究」の調査研究により、5 世紀から 11 世紀までに 5 度の集落動態の大きな画期（細別 13 期）があったことを証明した。立地に関しても 7 世紀と 9 世紀に大きな変化が見られることを証明しており、その主な原因が政治的不安定期と関わることを論証している。古代・中世の集住と集落形成、集落の消滅と再興に関わるプロセスを見事に描き出した点は高く評価される。このモデルは他方に設定された先史時代の集落の形成と移動、消滅を考察する上で重要な参照モデルとなりうる。もちろん、中世以降の「家制度」、「土地所有制度」などの法制度との関わりと、それと密接にかかわる経済組織、親族構造などを含めて、それらを直接的に先史時代に遡って検討することは出来ないものの、それらを排除した要因との相関を考える上で大変重要な示唆を与えるものである。

縄文時代の集落の動態を理解するうえで重要な因子の一つに「婚姻制度」がある。集落間を慣習的、制度的につなぐ「婚姻」は、縄文集落の立地や規模、集住する構成員の具体的異動などを決定する要因となるので、もし中近世以降の狩猟民、漁民、農民などの婚姻制度に関する歴史学、民俗学的研究が進展し、必要なデータが得られたのなら、先史時代の集落動態の研究に大きく寄与したことと思われる。本研究期間中に、東北縄文時代の大遺跡の盛衰の背景を民俗考古学的視点から論議することも実際になされたが、今後、その視点を含めた集落形成の理論構築がなされたならば、なお一層の進展が期待される。この分野の新たな開拓は、今後の研究に委ねられた。

5 か年の成果物としては、ブックレットシリーズ（「東北一万年のフィールドワーク」6冊、「むらの記憶」2冊）の刊行、集落の景観と分布に関する航空写真撮影データ、地域資源活用のためのデジタルアーカイブスの作成などがあり、それらは具体的に年度研究成果報告書、HP、シンポジウムと公開講演会、各種研究会の資料集などの場を通じて多様な形で公開されてきた。

3.研究成果の社会的還元と地域貢献

八戸市周辺部の古代から中世の集住問題や集落動態が、考古資料および歴史資料の検討からかなり高い精度で明らかにされたのは、学術面で先駆的な業績として特筆される。日本各地で実施される地域研究の中で、集落と地域社会成立史に関わる普遍的問題を解明するうえで先駆的研究であり、学術面での貢献度は高いと評価される。またそれらの質の高い研究成果は、毎年行われた市民向けの公開講座やシンポジウムなどを通じて一般に公開され、また東北芸工大学や八戸市のHPなどを通じて発信されており、先端の研究成果が地域住民へ還元されていることは十分に評価する必要がある。

4.若手研究者の育成

5 か年にわたる調査・研究の過程で、若手研究者が生育し台頭してきたことも重要な成果であった。研究開発面においても、また研究人材育成面においても、若い芽の育成を目指した「若者たちの東北」の教育理念が調査研究の中に十分に生かされたことをよく示している。本事業の中核は研究拠点形成にあるが、若手研究者の育成にも力を注ぎ、考古学、歴史学、民俗学などの専門分野の若手研究者の育成が進んだことのほかに、芸術、美術関係の学生を「地域資源活用研究」に編入することにより、記憶、古写真、戦前絵葉書などの地域研究の基礎的資料を収集しえたことは本事業の趣旨に照らして高く評価されよう。

5.総合化と今後の課題

本事業では、考古、歴史、民俗・人類学の三学協働体制を有機的に組成する中で、環境・生業・技術分野から環境への社会文化的適応プロセスを探ることを共通の主題に据えてきた。しかし、狩猟、採集、農耕などの生業経済や技術だけが集落の存続、継承、転換を推し進めるのではない。むしろ、信仰や儀礼、祭祀などのソフト面が社会的基盤に大きな転換をもたらす最も重要な要因と考えられ、今回の事業においても歴史、民俗・人類学の方面から重要な成果を生み出しつつあった。それを先史考古学分野に輻輳的に投射してみることは今後の重要な課題であろう。

集落動態から地域社会を俯瞰し、様々な要素を加えて立体的な社会像に収斂しようとするならば、そこに社会学的視点が必要なことは言うまでもない。集落の形成、維持、移動の中核を担った主体がどのような性格の集団なのか、例えば親族構造はどうであったのか（同族社会であったのか、それともそれ以前の形態であったのか）、集落間をつなぐ婚姻制度がいかなるもので、地域社会の存続とどのように絡んでいたのか、また外部社会との接触と連携を如何なる方法で達成したのか等の社会学的側面の把握抜きには地域社会は語れない。それらの課題は、今回の研究成果のうちでは総合化されなかったが、次なる課題として展望する必要がある。

本事業で課題に掲げられたように、居住の流動化社会における共同体創出のための新たな理念構築は、過疎化、高齢化に悩む日本全国の地方都市にとって地域再生に関わる喫緊の課題であり、また特に大震災により文化社会システムが崩壊した東北地方においては一層の重みをもつ課題であった。それを考えると、本研究が提示する人文科学からの提言は、地域社会の再興に当たって学術面から大きな意味をもつに違いない。

本事業に関する新聞等記事掲載一覧

—平成 24（2012）年度—

- 1) 「若者を東北に残す」テーマに 5 年間現地調査 8 冊
に 生活や風俗、あす説明会
平成 24 年 6 月 14 日 山形新聞
- 2) 漁村史研究 復興に還元 多様性に着目、再生策を
提示
平成 24 年 7 月 23 日 河北新報
- 3) 被災地再生 漁村に学ぶ 24 日・山形でシンポ
平成 24 年 11 月 14 日 河北新報
- 4) 里山再生 空撮で探る 景観変化 手掛かり 9 日・
山形で公開講座
平成 25 年 1 月 7 日 河北新報
- 5) 集落と自然の変化学ぶ 航空写真使い講座
平成 25 年 1 月 10 日 山形新聞
- 6) 【山形】内藤正敏写真展「神々の異界」
平成 25 年 1 月 11 日 山形新聞
- 7) 荒れる里山再生策探る 山形で公開講座「空から見
た東北」
平成 25 年 1 月 13 日 河北新報
- 8) 修験道や生命の思想 内藤正敏さんの写真展
平成 25 年 1 月 17 日 朝日新聞
- 9) 内藤正敏写真展
平成 25 年 1 月 18 日 読売新聞
- 10) 東北芸術工科大東北文化研究センター公開講座
平成 25 年 1 月 18 日 山形新聞
- 11) 「山拝む精神性感じて」 山形で写真展「神々の異界」
平成 25 年 1 月 20 日 河北新報
- 12) 修験道の世界 写真家内藤さん 山形で作品展
平成 25 年 1 月 21 日 山形新聞
- 13) 写真展「神々の異界」 内藤教授が撮影
平成 25 年 1 月 25 日 毎日新聞
- 14) 風土研究 足跡残す 退任する 2 教授最終講義
平成 25 年 1 月 27 日 河北新報
- 15) 退職する内藤、入間田両教授講演 本県文化テー
マに
平成 25 年 1 月 31 日 山形新聞
- 16) 関野吉晴写真展「海のグレートジャーニー～人類
の旅～」
平成 25 年 5 月 30 日 山形新聞
- 17) カヌー航海の様子紹介 芸工大で探検家・関野さ
ん写真展
平成 25 年 6 月 16 日 山形新聞
- 18) 26 日に芸工大の公開講座
平成 25 年 6 月 21 日 山形新聞
- 19) 高畠・日向洞窟古代人はどう利用 芸工大研ぎよ
うから周辺調査
平成 25 年 8 月 30 日 山形新聞
- 20) 1 万 3 千年前に迫る 高畠町 日向洞窟付近で確認
調査
平成 25 年 9 月 6 日 米澤新聞
- 21) 日向洞窟遺跡の範囲拡大か 高畠・縄文草創期西
側から土器片出土
平成 25 年 9 月 12 日 山形新聞
- 22) 日向洞窟の遺跡群 国内最大級と確認 縄文草創
期の土器・石器類発掘
平成 25 年 9 月 12 日 朝日新聞
- 23) 土器片や石器新たに数十点 山形・高畠日向洞窟
遺跡

—平成 25（2013）年度—

- 平成 25 年 9 月 12 日 河北新報
- 24) 国内最大級の可能性 高畠・日向洞窟遺跡 炭化植物 科学検証へ
平成 25 年 9 月 12 日 毎日新聞
- 25) 遺跡の範囲広がる可能も 縄文草創期と思われる土器や石器類出土
平成 25 年 9 月 12 日 米澤新聞
- 26) 日向洞窟西側で縄文土器 芸工大調査草創期最大規模遺跡か
平成 25 年 9 月 13 日 読売新聞
- 27) 島守に中世の水田跡 八戸南郷区、古文書から推定
平成 25 年 10 月 4 日 デーリー東北
- 28) チャイナドレス 時代反映 来月 5 日まで東北芸工大で展示会
平成 25 年 10 月 29 日 河北新報
- 29) チャイナドレスで中国の文化を理解 芸工大で展示
平成 25 年 10 月 31 日 山形新聞
- 30) チャイナドレスの変遷紹介
平成 25 年 10 月 31 日 産経新聞
- 31) 八戸の縄文集落成り立ちに迫る 14 日公開講座
平成 25 年 12 月 8 日 河北新報
- 32) 公開講座 八戸の集落一万年 vol.1—なぜムラがで
き、消えたか?— (八戸)
平成 25 年 12 月 12 日 デーリー東北
- 33) 鎌倉時代の水田発見
平成 26 年 1 月 7 日 河北新報
- 34) 災害の民俗知見つめ直す 芸工大東文研 雑誌「東北学」3 号発刊
平成 26 年 2 月 26 日 山形新聞
- 平成 26 (2014) 年度—
- 35) 生活の証しを後世に 東北大川島教授 小々汐年中行事刊行
平成 26 年 4 月 5 日 三陸新報
- 36) 震災前の営み伝える 東北芸工大 小冊子シリーズ刊行 第 1 弾 気仙沼・小々汐を紹介
平成 26 年 4 月 13 日 河北新報
- 37) 根子集落を“一冊に”東北芸術工科大フィールドワーク集大成
平成 26 年 5 月 20 日 おおだて新報
- 38) 地域の未来“江戸の百姓”に学ぶ
平成 26 年 6 月 12 日 山形新聞
- 39) 歴史から探る地域の在り方 東北芸工大があすから講座
平成 26 年 6 月 20 日 河北新報
- 40) 周辺に居住の場か 高畠・日向洞窟試掘エリア広げ調査 広範囲から遺物出土
平成 26 年 8 月 25 日 山形新聞
- 41) 発掘調査の疲れ癒やす 高畠 芸工大生と住民が交流会
平成 26 年 8 月 27 日 山形新聞
- 42) 農業の希望をアジアから 芸工大東北文化研究センター「東北学」第 4 号発行
平成 26 年 8 月 28 日 山形新聞
- 43) 山形・高畠 日向洞窟遺跡 土器片や石器 多数出土
平成 26 年 8 月 28 日 河北新報
- 44) 集落の変化 立体的に把握 東北芸術工科大 ネットに宮古—塩釜の空中写真「被災地理解の一助に」
平成 26 年 8 月 30 日 河北新報
- 45) 複数の文化層を確認 高畠の日向洞窟遺跡
平成 26 年 8 月 30 日 朝日新聞
- 46) 日向洞窟（高畠）周辺調査の現地説明会 東北芸工大研究セ 一万年以前から繰り返し居住か
平成 26 年 8 月 30 日 山形新聞
- 47) 高畠・日向洞窟遺跡周辺 縄文草創期の居住跡 1000 点以上の遺物発見
平成 26 年 8 月 30 日 毎日新聞
- 48) 1 千点超える遺物、居住の痕跡か 日向洞窟付近で確認調査
平成 26 年 8 月 30 日 米澤新聞

49) 絵はがき 1 万 5000 枚 東北文化研が D B 化 天童・笠原さん収集 戦前を含む県内名所紹介 HP で順次公開

平成 26 年 9 月 3 日 山形新聞

50) 棚田テーマ 農業問い直す 東北芸工大発行「東北学」最新号 成り立ちや継承の課題解説

平成 26 年 9 月 24 日 河北新報

51) 古里を学びの場に 若者定着へ 高校教員とネットワーク

平成 26 年 11 月 25 日 山形新聞

52) あすの予定 公開講座「縄文の美—実用性を遥かに超える芸術的表現—」

平成 27 年 1 月 27 日 山形新聞

53) 縄文土器の芸術性 暮らしぶりに関連 芸工大公開講座

平成 27 年 2 月 1 日 山形新聞

54) 本寺地区（一関）たどる一冊 調査、解説まとめる

平成 27 年 2 月 1 日 岩手日報

55) 一関・本寺地区研究 冊子に—東北芸工大発行 生活・景観の変化に焦点

平成 27 年 2 月 4 日 河北新報

—平成 27（2015）年度—

56) 東北芸工大冊子発行 「野平地区 盛衰たどる」

平成 27 年 4 月 25 日 河北新報

57) 東北芸工大長井さんら 炭素年代測定法で分析

平成 27 年 4 月 29 日 毎日新聞

58) 日向洞窟調査 韓国で報告

平成 27 年 4 月 30 日 山形新聞

59) 集い、暮らし、絆深め 東北文化研究センター「地方の未来像」

平成 27 年 5 月 14 日 東奥日報

60) 戦後開拓—野平（青森）集落の歩み紹介 県出身者の足跡に光

平成 27 年 6 月 4 日 山形新聞

61) マタギの知恵見直そう

平成 27 年 6 月 20 日 山形新聞

62) マタギの文化今・未来考える「27 日、芸工大でクマ肉出荷制限に提言も」

平成 27 年 6 月 24 日 朝日新聞

63) 「クマ肉出荷制限 解除を」マタギサミット 狩猟関係者ら議論

平成 27 年 6 月 28 日 読売新聞

64) 野生鳥獣出荷制限解除を求める提案「山形・マタギサミット」

平成 27 年 6 月 28 日 山形新聞

65) マタギサミットからの提案

平成 27 年 7 月 8 日 山形新聞

66) 芸工大研究センター編集「下北半島野平」戦後開拓民の生活実態を活写

平成 27 年 7 月 29 日 山形新聞

67) 新たなシンボルに竪穴住居 南陽・大野平キャンプ場

平成 27 年 9 月 1 日 山形新聞

68) 山形・高畠 日向洞窟遺跡「土坑や石器出土 居住の痕跡示す 現地説明会」

平成 27 年 9 月 13 日 河北新報

69) 「掘り尽くせない縄文の夢」高畠日向洞窟発掘 60 年 今年も遺物 3000 点発見

平成 27 年 9 月 13 日 山形新聞

70) 発掘進む高畠・日向洞窟遺跡 縄文草創期の時代区分に光

平成 27 年 9 月 30 日 朝日新聞

71) 竪穴住居復元に汗 南陽・大野平遺跡

平成 27 年 10 月 30 日 山形新聞

—平成 28（2016）年度—

72) 鮪立の歴史、文化一冊に 東北芸工大文化研究センターまとめる

平成 28 年 4 月 28 日 三陸新報

73) 鮪立、コラム

平成 28 年 5 月 8 日 山形新聞

74)気仙沼・唐桑の集落 「鮎立」の歴史一冊に 東北芸工大が冊子発行 漁業の変化、祭りなど紹介
平成 28 年 5 月 23 日 河北新報

75)縄文草創期の石器出土 石斧など十数点 貴重な遺物 山形・高畠 日向洞窟遺跡
平成 28 年 9 月 11 日 河北新報

76)高畠・日向洞窟周辺の発掘調査 遺跡から 80メートル遺物 3000 点 石器など 縄文人の活動拠点か
平成 28 年 9 月 14 日 山形新聞

77)デスク日誌「東北学」の休刊
平成 28 年 9 月 27 日 河北新報

78)未来のヒント 最終号 「東北学」休刊へ 芸工大文化研 学生主体誌に引継ぎ
平成 28 年 10 月 3 日 山形新聞

79)山のいのち 人のいとなみ (7) 野生動物との共存 どう考える 「出てくるな」自然界へ合図を
平成 29 年 1 月 11 日 朝日新聞

東北文化研究センター・アーカイブス画像貸出申請一覧

年度	申請件数	貸出画像点数
H24	25	151
H25	28	192
H26	13	30
H27	24	150
H28	9	40
合計	99	563

年度	申請日	申請者	点数	使用目的
H24	H24.04.20	株式会社テレビ新広島	1	テレビ放送（テレビ新広島「知りためプラス」）
H24	H24.06.14	財団法人千葉市みどりの協会	2	稲毛民間航空記念館・稲毛記念館内でのパネル展示、 チラシ・パンフレットへの掲載
H24	H24.07.09	株式会社タミワオフィス	1	清水建設広報誌『匠の技 歌舞伎座をつくる』第7号 への掲載
H24	H24.07.27	三重県環境生活部文化振興課県史編さん グループ	1	『三重県史』通史編 近現代1への掲載
H24	H24.08.28	吉川弘文館	4	『二〇世紀満州歴史事典』への掲載
H24	H24.10.09	北九州工業高等専門学校	1	研究論文「日本における定額電灯制と電球貸付の変 遷」（『北九州工業高等専門学校研究報告』所収）へ
H24	H24.10.19	青森空襲を記録する会	1	青森市絵はがき写真集『青森今昔物語（仮称）』への 掲載
H24	H24.10.22	株式会社ドキュメンタリージャパン	7	テレビ放送（NHK総合テレビ「ファミリーヒストリー （市川猿之助編）」）
H24	H24.10.29	株式会社クラッチ	4	テレビ放送（関西テレビ「よ〜いドン！」内「関西ち なみにガイド」）
H24	H24.11.12	歴史春秋出版株式会社	4	『お八重一会津鶴ヶ城・女の戦い』への掲載
H24	H24.11.20	あきる野市中央公民館	9	生涯学習推進事業における市民解説員の資料への掲載
H24	H24.11.27	こけし時代社	1	『こけし時代』第6号への掲載
H24	H25.01.08	姫路市	12	姫路みなとミュージアムでの展示グラフィックパネル にて使用
H24	H25.01.16	テレビ朝日映像株式会社	4	テレビ放送（テレビ朝日「サンデー！スクランブル」 内「黒鉄ヒロシの千思万考」）
H24	H25.01.17	東京書籍株式会社	1	『日本全国地図の謎』への掲載
H24	H25.01.30	神奈川県建築士会	1	『図説 近代神奈川の建築と都市』への掲載
H24	H25.02.01	株式会社日企	1	テレビ放送（日本テレビ「ザ！鉄腕！DASH！！」内 「DASH海岸」）
H24	H25.02.05	関西テレビ放送株式会社	1	テレビ放送（関西テレビ「よ〜いドン！」内「関西ち なみにガイド」）
H24	H25.02.12	株式会社フォト・パブリッシング	54	『昭和はじめ タイムトリップ地図帖』（講談社発 行）への掲載
H24	H25.02.21	株式会社ハウフルス	1	テレビ放送（テレビ東京「出没！アド街ック天国」）
H24	H25.02.23	こけし時代社	13	『こけし時代』第7号への掲載
H24	H25.02.25	街角企画株式会社	1	大阪市区役所「大阪市中心部ガイドナビ」への掲載
H24	H25.03.05	株式会社洋泉社	20	『図説 文豪たちの東京を歩く（仮）』への掲載
H24	H25.03.13	イタリアファイブネットワーク東京支 局	5	ドキュメンタリー番組（八甲田山雪中行軍遭難事件関 係）での放送
H24	H25.03.14	武藤陽子（桐朋学園大学非常勤講師）	1	研究論文「『獨文日本案内』における明治期の日本」 （立教大学ドイツ文学論集『ASPEKT』2012所収）
H25	H25.04.11	明治用水土地改良区	1	環境学習施設の学習用パネルへの掲載
H25	H25.04.17	株式会社 エー・ビー・シーリブラ	1	テレビ放送（関西ローカル、「見しらぬ関西発見！み しらん」）
H25	H25.04.18	テレコムスタッフ株式会社	1	テレビ放送（NHKBSプレミアム「きらり！えん
H25	H25.05.01	野村節三（北里大学名誉教授）	1	『北里柴三郎と後藤新平』（東海新報社発行）への掲
H25	H25.05.31	株式会社 出版文化社	1	株式会社なだ万の180年史（社史）への掲載
H25	H25.06.03	NGOハッ場あしたの会	6	写真展「吾妻渓谷は消えるのか？ハッ場ダムは今」に て展示
H25	H25.06.18	株式会社 南北社	1	『菅江真澄の見た仙台』（国宝大崎八幡宮発行）への
H25	H25.06.21	山口県萩市	7	「史跡松下村塾・史跡吉田松陰幽囚ノ旧宅保存管理計 画」への掲載
H25	H25.06.21	株式会社 エディキューブ	1	『もっと知りたい日本の名僧』（株式会社双葉社発 行）への掲載
H25	H25.06.21	上田理恵	2	絵はがきに写る遠田邸宅にて生まれ育った祖母へ贈呈
H25	H25.06.25	株式会社 石田大成社	1	三井不動産によるマンション建設に際し、建設地周辺 の以前の風景を紹介する社内資料への掲載
H25	H25.07.18	福島県白河市	17	出前講座等で資料する資料等への掲載
H25	H25.07.22	公益財団法人 千葉市みどりの協会①	1	稲毛民間航空記念館記念誌への掲載、常設展でのパネ ル展示
H25	H25.07.24	株式会社 KCN京都	2	テレビ放送（京都のケーブルテレビ、自主製作番組 「Myけいはんな」）
H25	H25.07.28	こけし時代社（コケーシカ鎌倉）①	4	『こけし時代』第8号への掲載
H25	H25.08.09	岩淵令治（学習院女子大学教授）	3	研究論文「大名行列について」（仮題）（『描かれた 大名行列』（仮）所収）への掲載（予定）
H25	H25.08.20	稲垣 健（神戸市立鹿の子台小学校長）	4	神戸市立鹿の子台小学校ホームページへの掲載

H25	H25.10.01	前橋市児童文化センター	2	演劇公演ポスター・リーフレットへの掲載
H25	H25.10.05	山本竜也	1	『寿都五十話』（自費出版）への掲載
H25	H25.11.01	公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会	10	近畿少壮吟士会の詩吟吟詠発表会にて舞台背景スクリーンへ放映
H25	H25.11.02	こけし時代社（コケーシカ鎌倉）②	50	『こけし時代』第9号への掲載
H25	H25.12.19	関根浩子（崇城大学教授）	1	研究論文「日本における模造ルルド発生考」（『崇城大学芸術学部研究紀要』第7号所収）への掲載
H25	H26.01.17	埼玉県立歴史と民俗の博物館	1	特別展「屋根裏部屋の博物館」でのパネル展示、パンフレットへの掲載
H25	H26.01.19	株式会社 ネクサス	2	テレビ放送（テレビ東京系列「開運！なんでも鑑定
H25	H26.02.26	財団法人 古都大宰府保存協会	1	文化遺産調査ボランティア調査報告書『日田街道を歩くー大宰府より福岡城ー』への掲載
H25	H26.02.28	公益財団法人 千葉市みどりの協会②	1	稲毛民間航空記念館の常設展でのパネル展示、解説パンフレットへの掲載
H25	H26.03.12	こけし時代社（コケーシカ鎌倉）③	67	『こけし時代』第10号への掲載
H25	H26.03.17	三洋テクノマリン株式会社	2	環境省より受託している「里海復興支援等業務」関連の報告書への掲載（環境省HP上でも公開）
H26	H26.03.18	株式会社郁朋社	1	『太安万侶の暗号（ゼロ）～日本の黎明、縄文ユートピア』への掲載
H26	H26.04.01	こけし時代社	4	『こけし時代』第10号への掲載
H26	H26.05.01	関根浩子（崇城大学教授）	1	研究論文「日本における模造ルルド発生考」（『崇城大学芸術学部研究紀要』第7号所収）への掲載
H26	H26.05.20	三浦市	1	神奈川県三浦市の公式ウェブサイトへの掲載
H26	H26.06.23	株式会社小学館	1	『サライ』9月号への掲載
H26	H26.07.14	株式会社テレビ朝日	1	テレビ放送（テレビ朝日「モーニングバード！」内「なでしこスタイル」）
H26	H26.07.14	NPO法人プラス・アーツ	6	東京ガス株式会社「防災フェア」の一環として開催する企画展でのパネル展示、配布物への掲載
H26	H26.07.15	テレコムスタッフ株式会社	1	テレビ放送（テレビ朝日「世界の街道をゆく」）
H26	H26.07.15	公益財団法人 古都大宰府保存協会	1	写真展「まもりつがれた水城跡の四季」でのパネル展
H26	H26.08.19	株式会社平凡社	1	『太陽の地図帖28 アイヌ文化を旅する』への掲載
H26	H26.08.25	下野新聞社	1	『碧い眼に映った日光～外国人の日光発見』への掲載
H26	H26.09.02	株式会社ベストセラーズ	4	『地図で読み解く東京五輪（仮題）』への掲載
H26	H26.09.06	こけし時代社	7	『こけし時代』第11号への掲載
H27	H27.04.24	公益財団法人 千葉市みどりの協会	1	「稲毛海岸の飛行場に関する調査 結果報告」の掲載
H27	H27.04.24	株式会社いき出版	3	『写真アルバム 山形市の昭和』の掲載
H27	H27.05.25	稲畑産業株式会社	1	社内報「いなほ」掲載
H27	H27.05.25	株式会社天夢人	1	雑誌「週刊 江戸三百藩」第三号掲載
H27	H27.05.27	鳥海山・飛島ジオパーク構想推進協議会	27	「鳥海山・飛島ジオパーク構想」推進・啓発活動
H27	H27.06.01	山陽放送株式会社	1	番組「メッセージ」で、米軍機雷で沈没した「女王丸」に」について紹介
H27	H27.06.26	大道晴香	1	雑誌『文化／批評』第7号（大阪大学、国際日本学研究会）に掲載
H27	H27.07.21	株式会社仙台放送	1	「仙台放送みんなのニュース終戦70年特番（仮）」で放送
H27	H27.08.26	山形大学	23	1. 山形大学人文学部人間文化学科開講の「表象文化演習（前期）」授業内発表および期末レポートにおけるカフェ店舗（松島町）にて、来店客に新旧松島の風景を見ていただくために、プリントアウトしたものを閲覧アルバムにて展示
H27	H27.09.03	桜井保	21	博士学位請求論文「マス・メディアによる《イタコ》像の形成と民俗文化の変容」を提出するにあたり、上記の画像データを明治期の鉄道旅行文化における下北半島の位置付けを示す資料の一つとして使用
H27	H27.09.08	大道晴香	1	博士学位請求論文「マス・メディアによる《イタコ》像の形成と民俗文化の変容」を提出するにあたり、上記の画像データを明治期の鉄道旅行文化における下北半島の位置付けを示す資料の一つとして使用
H27	H27.09.12	林平八郎	1	① 母校の疎開当時の同窓生30人程に、横屋旅館の絵葉書の画像をコピーして配る。 ② 口台小学校にも戦時中疎開があったという歴史の証として、横屋旅館の写真を廊下または校長室に展示す
H27	H27.10.06	土門尚三	3	東北のツバキに関する自費出版の本に使用
H27	H27.10.06	児玉佳憲	1	春の稲荷祭においてのポスターに掲載
H27	H27.10.14	株式会社フィフス・ディメンション	1	文化情報誌「EPTA（エプタ）」vol.74「日本の弁当」特集にて
H27	H27.11.04	株式会社天夢人	1	雑誌「週刊 江戸三百藩」第12号掲載
H27	H27.11.25	藤森克悦	2	祖父が、上越線開通に合わせて水上町に開業した旅館であり、家に保存するため
H27	H27.12.09	山形県教育庁	1	山形県内中学生向副読本「郷土Yamagata」への掲載
H27	H28.01.14	山形県立博物館友の会	9	共同企画展「私たちのたからものーモノから振り返る昭和のくらし 終戦までー」講演会（シンポジウム）で興亜大博覧会の画像をスライドにて紹介説明す
H27	H28.01.27	松竹株式会社	14	2月三越劇場公演『おばこ』講演プログラム内「おばこ」紹介の図版として
H27	H28.01.29	長谷川隆	1	大正期民間飛行家伊藤音次郎の業績を冊子としてまとめる計画があり、その冊子中に画像を差し込むのに使
H27	H28.02.17	こけし時代社	28	東北の伝統こけしの専門雑誌への掲載
H27	H28.03.23	伊藤孝司	6	終戦まで蘭谷機械農場で働いた人たちへのインタビューの回想シーンで使用

H27	H28.03.27	千代田区連合長寿会	1	千代田区連合長寿会会報「はくちょう」掲載
H28	H28.03.31	株式会社プラネットライツ	1	男の隠れ家 別冊『異次元への誘い 裏・京都の魔界を往く』内トピックス企画「災いを鎮める京の祭り」に掲載
H28	H28.06.15	有限会社コーベット・フォトエージェンシー	1	高校歴史資料集「日本史のライブラリー」へ図版としての掲載
H28	H28.11.01	東北大学山の会	12	東北大学山岳部OB組織、「東北大学山の会」会報（年3回発行）に蔵王山お釜東面の沢沿岸調査書に借
H28	H28.11.03	大道晴香	1	博士論文「マス・メディアによる《イタコ》像の形成と民俗文化の変容」を2020年に同大学の機関リポジトリにてインターネット公開するため
H28	H29.01.19	2合同会社浩然社	1	『超ビジュアル！歴史人物伝伊達政宗』掲載
H28	H29.01.24	松島町	20	「絵はがきでたどる松島」展での展示資料
H28	H29.01.24	東海林怜奈	2	卒業展示パネル作成のため
H28	H29.02.01	江東区	1	『絵葉書に見る江東百景 深川公園―富岡八幡宮・深川不動堂―』掲載
H28	H29.03.13	株式会社碧水社	1	『分冊百科『週刊ビジュアル戦国王』第45号(2017年4月18日発売予定)』に掲載

平成27年1月14日（水）開催
シリーズ：日本史最前線－教科書の一步先－
公開講座「明治時代の感染症パニックー見えない敵とどう闘ってきたのか？ー」

受講者数 84名（一般27名<43%>、学生47名<43%>、教職員8名<7%>、友の会2名<4%>）

*** アンケートまとめ ****

1. 回答数	62件（入場者数84名） 回答率…74%		
2. 住所	山形県…57 (92%)	宮城県…3 (5%)	秋田県…1 (2%)
	福島県…1 (2%)		
3. 区分	一般…23 (37%)	学生…36 (58%)	教職員…3 (5%)
4. 年齢	10代…8 (13%)	20代…30 (48%)	30代…4 (6%)
	40代…4 (6%)	50代…5 (8%)	60代…8 (13%)
	70代以上…3 (5%)		
5. 性別	男性…27 (44%)	女性…35 (56%)	
6. 友の会	会員…2 (3%)	一般…59 (95%)	無回答…1 (2%)

1. 感染症の拡大によって集落の存続が危ぶまれたときの、先人たちの知恵についてご理解いただけましたか。

	人	%	3)を選んだ理由
1) 非常に理解できた	27	44%	・具体的に先人がどのような行動をしたのかがわからなかった。 ・結局そしされたら誰が対処したのか、もっと具体的な話をききたかった。
2) 理解できた	31	50%	
3) あまり理解できなかった	2	3%	
4) 理解できなかった	0	0%	
5) 無回答	2	3%	

2. 「感染症予防の困難性」についてご理解いただけましたか。

	人	%
1) 非常に理解できた	34	55%
2) 理解できた	26	42%
3) あまり理解できなかった	1	2%
4) 理解できなかった	0	0%
5) 無回答	1	2%

3. 本日の講演（竹原万雄専任講師）はご満足いただけましたか。

	人	%
1) とても満足	33	53%
2) 満足	28	45%
3) やや不満	0	0%
4) 不満	0	0%
5) 無回答	1	2%

4. 本日のトーク（田口洋美教授×竹原万雄専任講師）はご満足いただけましたか。

	人	%	3)を選んだ理由
1) とても満足	28	45%	・対談じゃなかった。 ・もっと会話があるのだと思った。
2) 満足	23	37%	
3) やや不満	3	5%	
4) 不満	0	0%	
5) 無回答	8	13%	

5. 本日の講座を何でお知りになりましたか。

	人	%	5) その他の回答
1) ダイレクトメール	12	19%	・知人から ・学内メール ・本人から
2) 大学の授業	24	39%	
3) ポスター・チラシ	19	31%	
4) ホームページ	3	5%	
5) その他	4	6%	
6) 無回答	0	0%	

平成27年1月28日（水）開催

公開講座「縄文の美―実用性を遥かに超える芸術的表現―」

受講者数 114名（一般52名<46%>、学生43名<38%>、教職員16名<14%>、友の会3名<3%>）

*** アンケートまとめ ****

1. 回答数	76件（入場者数114名） 回答率…67%		
2. 住所	山形県…70 (92%)	宮城県…2 (3%)	秋田県…2 (3%)
	福島県…1 (1%)	青森県…1 (1%)	
3. 区分	一般…42 (55%)	学生…33 (43%)	教職員…1 (1%)
4. 年齢	10代…10 (13%)	20代…25 (33%)	30代…2 (3%)
	40代…3 (4%)	50代…6 (8%)	60代…15 (20%)
	70代以上…15 (20%)		
5. 性別	男性…45 (59%)	女性…31 (40%)	
6. 友の会	会員…7 (9%)	一般…63 (83%)	無回答…6 (8%)

1. 縄文土器や土偶が過剰デザインに至った社会的背景をご理解いただけましたか。

	人	%	3) を選んだ理由
1) 非常に理解できた	21	28%	・ 何か危機的なことを感じたからなのか（気候変動等） どうか当時の人々の感じ方がわからないから。気候の変動といっても生活者にとってはものすごく長い時間なのだから、簡単に危機感を持てるだろうか。
2) 理解できた	48	63%	
3) あまり理解できなかった	5	7%	
4) 理解できなかった	0	0%	
5) 無回答	2	3%	

2. そのような過剰デザインを求めた人々がなぜ強烈な個性をアピールをしなければならなかったのか、ご理解いただけましたか。

	人	%	3) を選んだ理由
1) 非常に理解できた	13	17%	・ しなければならなかった説明はうすかったような気がします。 ・ 過剰デザイン自体が理解できない。
2) 理解できた	48	63%	
3) あまり理解できなかった	12	16%	
4) 理解できなかった	0	0%	
5) 無回答	3	4%	

3. 本日の講演を通して、更に考古学や集落の歴史・文化について関心を持っていただけましたか。

	人	%
1) 非常に関心が持てた	33	43%
2) 関心が持てた	41	54%
3) あまり関心が持てなかった	0	0%
4) 不満	0	0%
5) 無回答	2	3%

4. 本日の公開講座にご満足いただけましたか。

	人	%	3) を選んだ理由
1) とても満足	30	39%	・少し長かった
2) 満足	42	55%	
3) やや不満	4	5%	
4) 不満	0	0%	
5) 無回答	0	0%	

5. 本日の講座を何でお知りになりましたか。

	人	%	5) その他の回答
1) ダイレクトメール	29	38%	・友人
2) 大学の授業	23	30%	
3) 新聞	1	1%	
3) ポスター・チラシ	20	26%	
4) ホームページ	1	1%	
5) その他	2	3%	
6) 無回答	0	0%	

平成27年6月27日（土）開催											
マタギサミットシンポジウム											
「東北地方を中心とした中山間地域の未来を考える」											
受講者数 175名											
(一般 158名<90%>、学生 9名<5%>、(内本学学生 8名) 教職員 3名<2%>、報道関係者 4名<2%>)											
*** アンケートまとめ ****											
1. 回答数		175件（入場者数84名） 回答率…74%									
2. 住所		山形県…46(61%) 福島県…6(8%) 長野…4(5%) 秋田…3(4%)									
		岩手…3(4%) 北海道…2(2.7%) 東京…2(2.7%) 青森…1(1.3%) 千葉…1(1.3%)									
		千葉…1(1.3%) 新潟…1(1.3%) 大阪…1(1.3%) 富山…1(1.3%)									
		無回答…3(4%)									
3. 区分		一般… 65 (90.7%) 学生…6(8%) 教職員…3(2%)									
4. 年齢		10代…0(%) 20代…16(21.3%) 30代…3(4%)									
		40代…12(16%) 50代…14(18.7%) 60代…22(29.3%)									
		70代以上…6(8%) 無回答…2(2.7%)									
5. 性別		男性…57(76%) 女性…16(21.3%)									
6. 友の会		会員…9(12%) 一般…66(88%)									

1. 放射能汚染が東北の生態系に影響を及ぼしていることが、ご理解頂けましたでしょうか。											
		人	%	3)を選んだ理由							
1) 非常に理解できた		33	44%	・「生態系」についての話はあまりなかったのでは？							
2) 理解できた		38	51%								
3) あまり理解できなかった		5	7%								
4) 理解できなかった		0	0%								
5) 無回答		0	0%								
2. 東北の狩猟もまた、原発事故の影響を受けていることを御理解いただけましたでしょうか。											
御理解いただけましたでしょうか。											
		人	%								
1) 非常に理解できた		42	56%								
2) 理解できた		33	44%								
3) あまり理解できなかった		0	0%								
4) 理解できなかった		0	0%								
5) 無回答		0	0%								

3. 放射能汚染が東北の自然と人間社会とのかかわりを深刻化させていることを御理解いただけましたでしょうか。					
	人	%	3) を選んだ理由		
1) 非常に理解できた	36	48%	・興味深いデータではあるものの、データが多すぎて理解を		
2) 理解できた	37	49%	超えた上にデータをもとにした未来像もいま一つ見えてこなかった。		
3) あまり理解できなかった	1	1%	そのジレンマは十分に伝わってきたが…		
4) 理解できなかった	0	0%			
5) 無回答	1	1%			
4. 全体をとおしてご満足いただけましたでしょうか。					
	人	%			
1) 非常に満足できた	25	33%			
2) 満足できた	48	64%			
3) あまり満足できなかった	1	1%			
4) 満足できなかった	0	0%			
5) 無回答	1	1%			
5. また、このような公開講座に参加したいと思われませんか。					
	人	%			
1) 是非参加したい	36	48%			
2) 参加したい	73	97%			
3) あまり参加したくない	0	0%			
4) 参加したくない	0	0%			
6. ご意見・ご要望、その他お気づきの点につきまして、裏面にご自由にお書き下さい。					
・私は大阪府在住ですが、東北（マタギ）文化に興味を持ち、今回初めて参加しました。					
次回も是非参加したいと思います。ありがとうございました					
・新ふくしま農協の、今野氏の講演は具体的で心に響いた。					
私は岩手県花巻農協の組合員であるが、私の方の農協職員にも講演を聞かせたい。					
・皆様、お話上手で楽しく聞かせていただきました。					
・大変有意義なご講演でした。今後の猟友会の方向性を模索中でしたので参考にしたいと思います。					
・大変勉強になりました。ありがとうございました。					
・討論の時間があればさらによかったと思います。					

平成27年6月27日（土）開催

マタギサミットシンポジウム
「東北地方を中心とした中山間地域の未来を考える」

受講者数 182 名
(一般 158 名<5%>、学生 9 名<5%>、(内本学学生 8 名) 教職員 8 名<2%>、
報道関係者 7 名<2%>) 【共同通信、毎日新聞、山形新聞・YBC・朝日新聞・読売新聞・北海道新聞)

*** アンケートまとめ ****

- 1. 回答数 75 件 (入場者数182名) 回答率…74%
- 2. 住所 山形県…46 (61%) 福島県…6 (8%) 長野…4 (5%) 秋田…3 (4%)
岩手…3 (4%) 北海道…2 (2.7%) 東京…2 (2.7%) 青森…1 (1.3%) 千葉…1 (1.3%)
千葉…1 (1.3%) 新潟…1 (1.3%) 大阪…1 (1.3%) 富山…1 (1.3%)
無回答…3 (4%)
- 3. 区分 一般… 65 (90.7%) 学生…6 (8%) 教職員…3 (2%)
- 4. 年齢 10代…0 (%) 20代…16 (21.3%) 30代…3 (4%)
40代…12 (16%) 50代…14 (18.7%) 60代…22 (29.3%)
70代以上…6 (8%) 無回答…2 (2.7%)
- 5. 性別 男性…57 (76%) 女性…16 (21.3%)
- 6. 友の会 会員…9 (12%) 一般…66 (88%)

1. 放射能汚染が東北の生態系に影響を及ぼしていることが、ご理解頂けましたでしょうか。

	人	%	3) を選んだ理由
1) 非常に理解できた	33	44%	・「生態系」についての話はあまりなかったのでは？
2) 理解できた	38	51%	
3) あまり理解できなかった	5	7%	
4) 理解できなかった	0	0%	
5) 無回答	0	0%	

2. 東北の狩猟もまた、原発事故の影響を受けていることを御理解いただけましたでしょうか。

	人	%
1) 非常に理解できた	42	56%
2) 理解できた	33	44%
3) あまり理解できなかった	0	0%
4) 理解できなかった	0	0%
5) 無回答	0	0%

3. 放射能汚染が東北の自然と人間社会とのかかわりを深刻化させていることを御理解いただけましたでしょうか。

	人	%	3) を選んだ理由
1) 非常に理解できた	36	48%	・興味深いデータではあるものの、データが多すぎて理解を超えた上にデータをもとにした未来像もいま一つ見えてこなかった。 そのジレンマは十分に伝わってきたが…
2) 理解できた	37	49%	
3) あまり理解できなかった	1	1%	
4) 理解できなかった	0	0%	
5) 無回答	1	1%	

97%

4. 全体をとおしてご満足いただけましたでしょうか。

	人	%
1) 非常に満足できた	25	33%
2) 満足できた	48	64%
3) あまり満足できなかった	1	1%
4) 満足できなかった	0	0%
5) 無回答	1	1%

97%

5. また、このような公開講座に参加したいと思われませんか。

	人	%
1) 是非参加したい	36	48%
2) 参加したい	73	97%
3) あまり参加したくない	0	0%
4) 参加したくない	0	0%

6. ご意見・ご要望、その他お気づきの点につきまして、裏面にご自由にお書き下さい。

- ・私は大阪府在住ですが、東北（マタギ）文化に興味を持ち、今回初めて参加しました。次回も是非参加したいと思います。ありがとうございました
- ・新ふくしま農協の、今野氏の講演は具体的で心に響いた。
私は岩手県花巻農協の組合員であるが、私の方の農協職員にも講演を聞かせたい。
- ・皆様、お話上手で楽しく聞かせていただきました。
- ・大変有意義なご講演でした。今後の猟友会の方向性を模索中でしたので参考にしたいと思います。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・討論の時間があればさらによかったと思います。

『東北の集住を考えるーポスト過疎化時代』

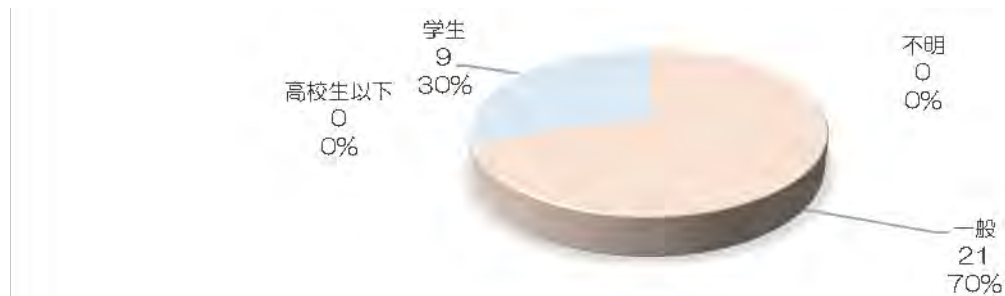
2016.10.29（土） 13:00～16:30

■ 受講者記入簿による来場者数と居住市町村

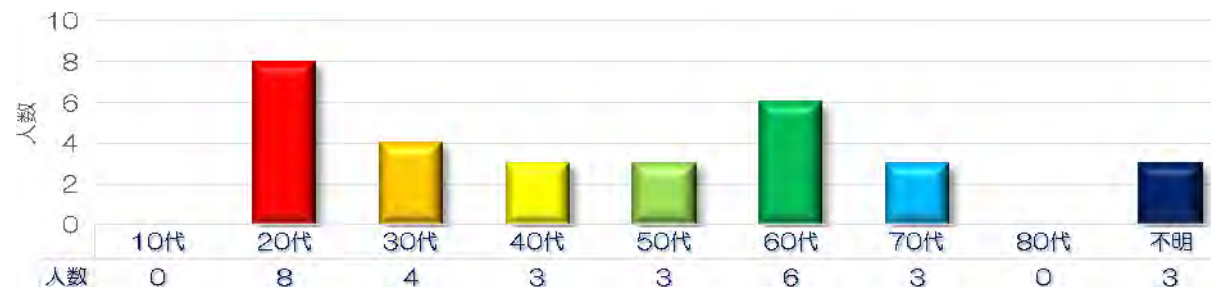
合計	仙台市	多賀城市	塩釜市	石巻市	気仙沼市	山元町	美里町	山形市	天童市
75	19	6	5	3	4	2	1	17	1
	東根市	米沢市	朝日町	白鷹町	小国町	最上町	一関市	大船渡市	札幌市
	3	1	1	1	2	1	1	1	1
	東京都	八王子市	富山市	京都市	吹田市				
	1	1	1	1	1				

■ アンケート結果

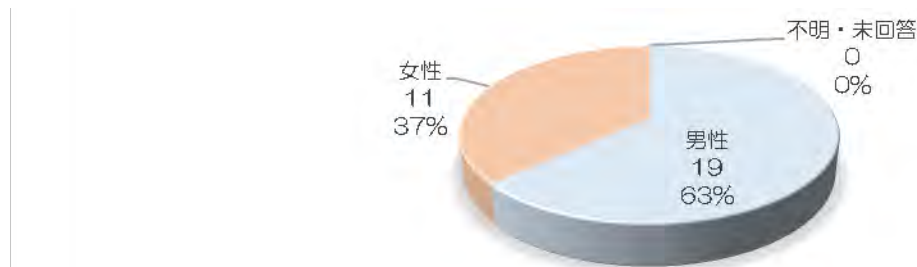
① 受講区分



② 年代



③ 性別



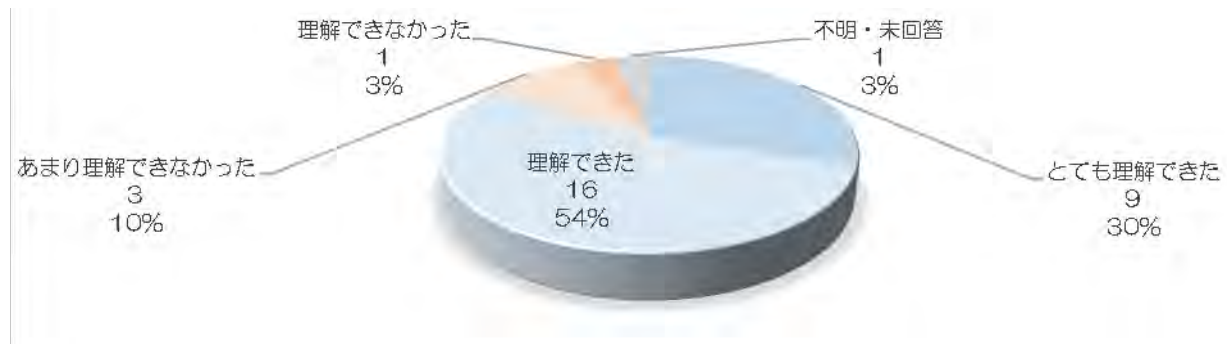
④ “シンポジウムの内容はいかがでしたか。” 以下はアンケート回答者のみ



結果 総じて評価が良かった。

内容 歴史に興味があり、入間田先生の骨寺村に特に興味

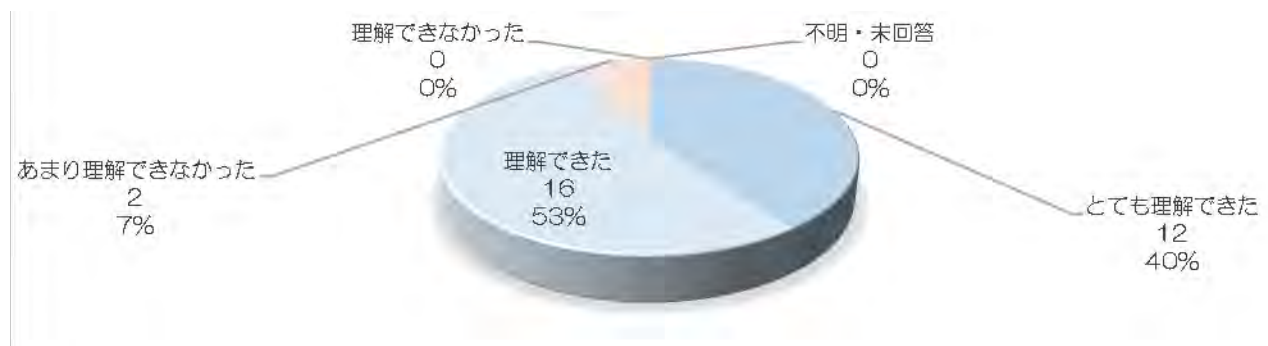
⑤ “講演1「気候変動と居住形態」の内容は、理解できましたか。”



結果 ほとんどの受講者は理解できたが、数名にとっては分かりにくかった。

内容 自分の能力が話の内容についていけなかった。もう少し、言葉の意味及び内容を勉強する必要がある。又、講義の時間が少なすぎると思われた。

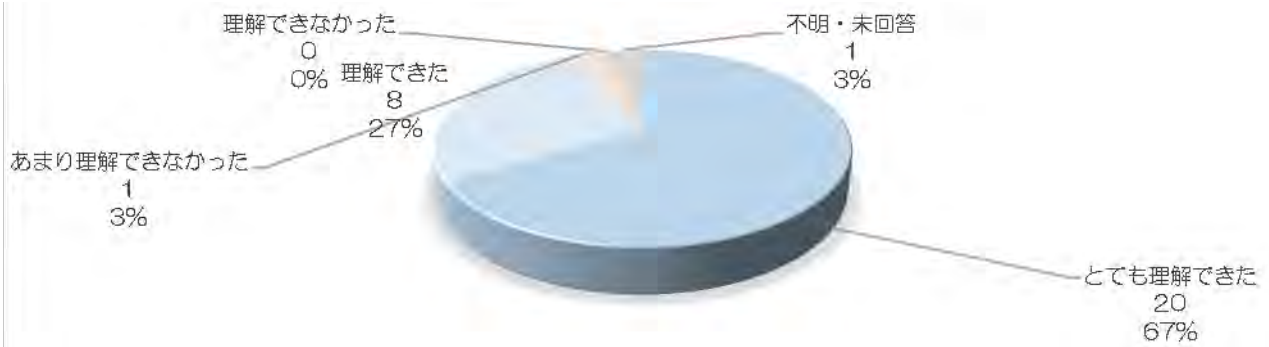
⑥ “講演2「開発・生業のありかたと集落形成・戸数等の変遷」の内容は、理解できましたか。”



結果 同上

内容 講演1と同じ、時間足りない。

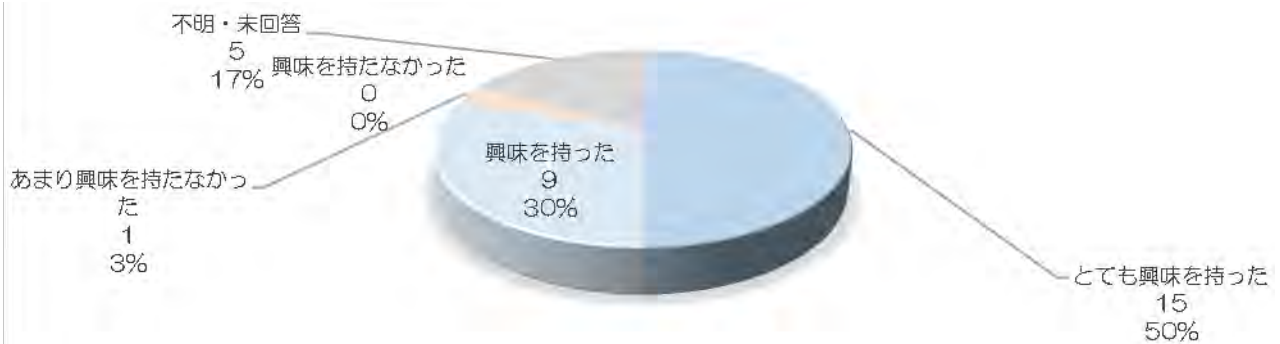
⑦ “講演3「船の移動と港町の盛衰」の内容は、理解できましたか。”



結果 同上

内容 —

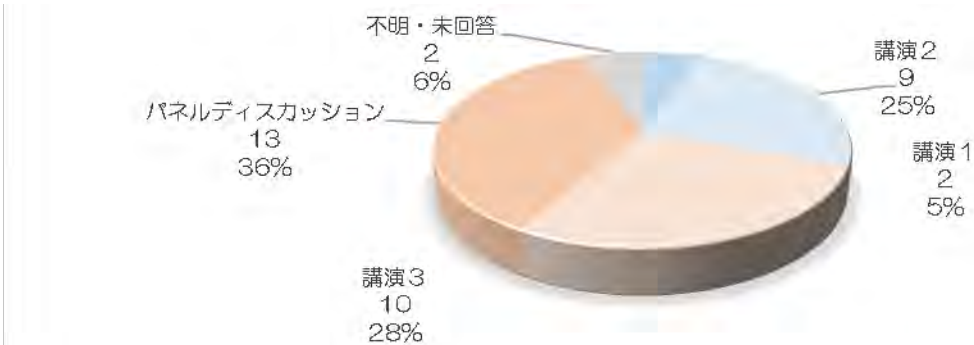
⑧ “パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。”



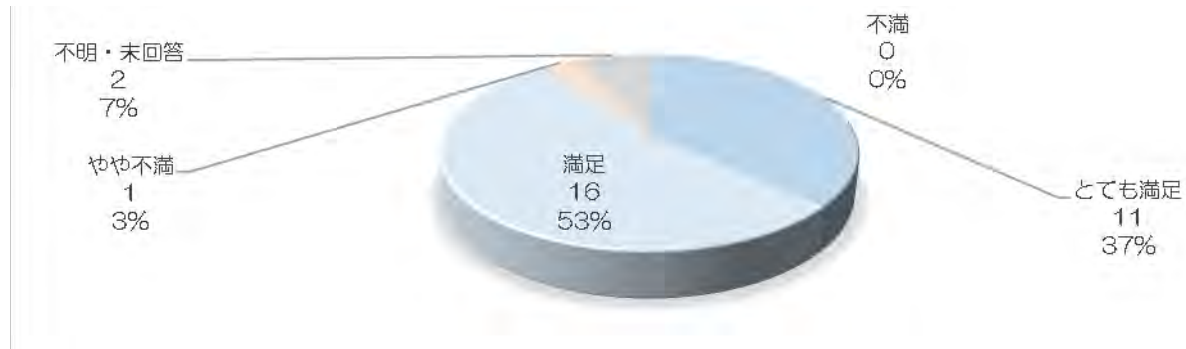
結果 8割の受講者が興味を持った。

内容 内山先生の資本主義の末路の話がおもしろかった。

⑨ “最も興味を持ったものをお選びください。”



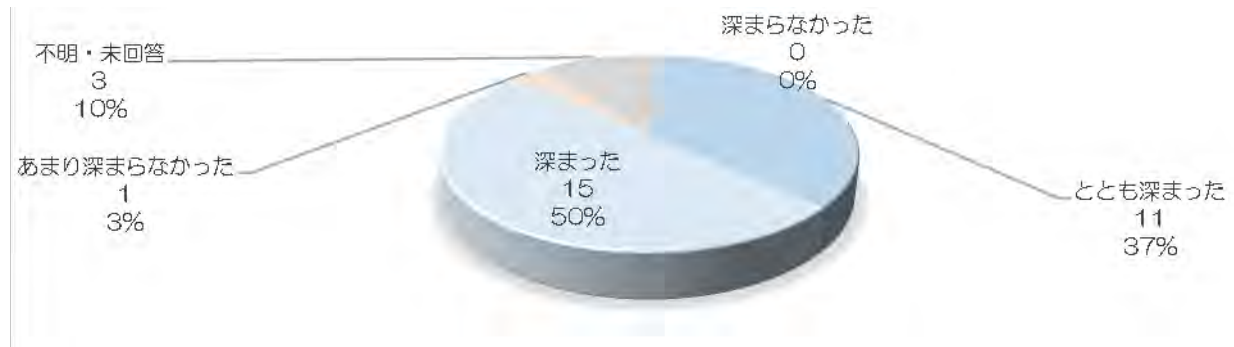
⑩ “本日のシンポジウムは、全体的にご満足いただけましたか。”



結果 受講者はほぼ全員が満足した。

内容 時間足りず、詳しく聞きたかった。

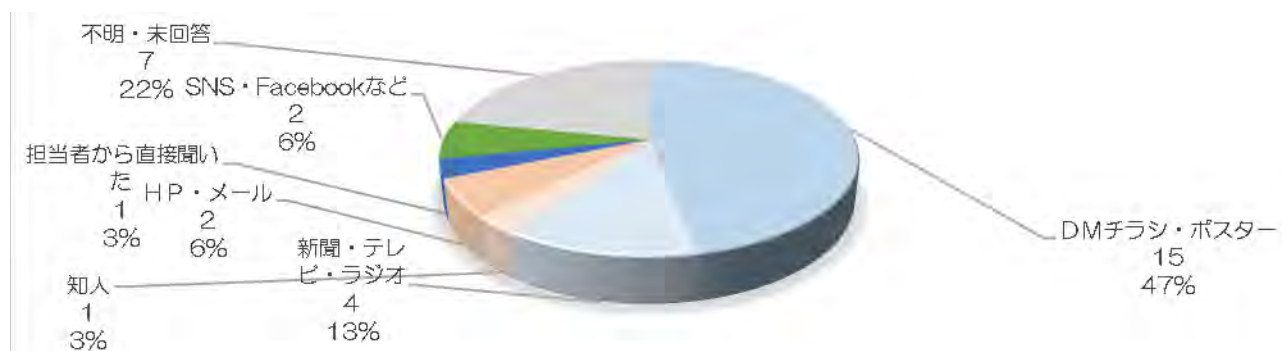
⑪ “東北文化研究センターの研究活動やこれまでの研究成果に対する理解は深まりましたか。”



結果 受講者はほぼ全員が満足した。

内容 時間足りず、詳しく聞きたかった。

⑫ “本日のシンポジウムを何でお知りになりましたか。” 複数回答



⑬ “東北地方（都市部、農村部）の抱えている課題で特に気になるものはありますか。”

- ・防潮堤
- ・都市部の空洞化
- ・共同体の活性化
- ・高齢化少子化、人口流出
- ・観光（交流人口）→移住の流れをいかに確かなものにするか。
- ・震災による過疎地増加と問題意識の強化
- ・高齢化と介護の問題
- ・済んでいるひとはいるのに買い物は他の所に行く。新しい店などができたらきっと地元のもともとあったお店はいきていけなくなる。ガソリン単価が10円くらい違う。
- ・農産しょんの過疎化による交通手段・病院のあり方
- ・過疎化、貧富の格差
- ・課題ばかり強調されていると思います。よいことをもっと見て発信してほしい。

⑭ “今後、東北文化研究センターの研究活動に期待するものがあれば、ご記入ください。”

- 東北を主体的に、方法論的に研究することである。
- 今後の生き方、政策に通じるように！ • 多賀城海軍工廠（横須賀、呉 etc）について
- 東北各地の歴史の掘り下げと成果公開
- これまで同様、実直な調査にもとづく研究を進めていただきたいと思います。 • 教育、研究の開拓
- 私は唐桑の出身ですが、川島先生のお話のように本家は津波で流され、分家である我が家は山の上にあったので残りました。今回の震災で失われた記録や資料も多いと思います。今回のようなシンポジウムを、仙台周辺だけではなく東北各地で開いて伝えていっていただきたいと思います。



平成 26 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」

公開講座 シリーズ 日本史最前線 ―教科書の一步先―

明治時代の 感染症パニック

―見えない敵とどう闘ってきたのか？―

講師

竹原 万雄

(東北文化研究センター研究員、
東北芸術工科大学歴史遺産学科専任講師)

コメン
テーター

田口 洋美

(東北文化研究センター所長、
東北芸術工科大学歴史遺産学科教授)

1/14

水

18:00－19:30 (開場 17:30)

東北芸術工科大学本館 2 階 207 講義室

事前にお申込みください。

【主催・申込先】東北芸術工科大学東北文化研究センター

〒990-9530 山形市上桜田三丁目 4-5

TEL. 023-627-2168 FAX 023-627-2155

E-mail : tobunken@aga.tuad.ac.jp

入場
無料

公開
講座

入場無料

縄文 の 美

— 実用性を遥かに超える芸術的表現 —



国宝・縄文の女神 / 山形県西ノ前遺跡出土、縄文中期 ©山形県立博物館

講師 安斎正人 東北芸術工科大学東北文化研究センター教授

2015年1月28日(水) 18:00-19:30 (開場17:30)

会場 = 東北芸術工科大学 本館 2階 207 講義室

主催 = 東北芸術工科大学東北文化研究センター

〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5 Tel. 023-627-2168 Fax. 023-627-2155

E-mail: tobunken@aga.tuad.ac.jp

平成26年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」

